

書

和漢船用集

四

特別
467
4



門 4 8
義 467
卷 4



和漢船用集卷第四目錄
舟名數海船之部

船

ハサイ

海運火底船隻

海舩

鸚鵡

艘海

萬斛船

千石舟

檜垣

塩舟

三枚帆

十石舟

百積舟

似關

渡海

兵庫渡海

西宮渡海

尼崎渡海

傳道

磯場

トニフリ



飛脚船	石舟	材木船
檜物舟	丸木舟	木船
柴船	難波船	琴浦舟
灘舟	高砂舟	須磨船
明石舟	備前上荷	饒磨船
淡路舟	鳴戸浦舟	土佐舟
真熊野舟	和歌浦舟	足柄舟
田子浦舟	筑紫船	松浦舟
涇舟	淮舟	越船

蜀艇	梁麗	呉船
渤海舟	豫章鱗船	相州大船
對州絲船	房州立船	堺船
サイカ	押廻	北國舟
ハカセ	一セ	アタテ
二形	アサツテイ	任那船
新羅舟	百濟舟	高麗船
朝鮮舟	琉球船	琵琶虫
南京船	福州舟	廣東船

沙船	大寬船	交趾舟
太泥舟	暹羅舟	莫卧爾船
呱哇舟	紅毛舟	遠式海船
南蠻船	呂宋舟	卫ケレス船
亞媽港舟	游艇	

和漢船用集卷第四

金澤兼光編集

舟名數海船之部

船

和名類集曰漢語抄曰都具能布祿商人船米船也艚ハク
 同唐韻曰海中大船今市船也蠻史曰泛海舟曰船
 万葉粮船コトナフネと云大船とよめり艚ハク字彙曰海船也又
 粮艘リヤウソウ唐書ハク米航ハク西湖志錄運糧船リヤウソウ水許傳ヤウセン洋船ヤウセン天工開物
 運船ウンセン通鑑トウカン運舟ウンセン大学衍義補又糧船リヤウソウ同會典エテシ曰粮船
 以ニツリ遮洋シヤウヤウと云浅船セシセンと云海運カイウンハ遮洋船シヤウヤウと用表
 川カハハ浅船セシセンと用と云一り浅船セシセンハ川カハ舟也
 番船ハンセンハ島國シマクニの船也教書ケウショ纂要サンヨウ曰夷人イジン進貢シンコウの船又

中華の船鶴ハクコウと云く船船海路ウツハモノ又發するよりある船と
表ことわり船船と教子星といへとも又徳京に海ありと
と云ふなり本邦神代天の鶴船と云もいふなりし
日本紀五曰崇神天皇十七年丙午朔詔曰船者天下之
要用也今海邊之民由無船以甚苦ニニクシム步運其令諸
國俾造船舶ニニムツクラフナラ冬十月始造船舶
本邦舟のおこりとも云ふは海ありなり船ハ神代はけりまこと
船ありとの申へは船者の語りて天下の要用このたまり
又けり代より又百年いふ人皇の始神武天皇東征の時
舟あるを志すはけりてつらと云くは民らと云ふは
くくひよよて来報運送の舟と云くは船の始也

東國西國の海は洋を呼ば送して往來の船を廻船と云
二三百石積よりふみ云百石二ふ石積余り也
五石 船波はと云ふは海の浦と云くは船のよと云くは海あり

へサイ 字未考へサ濁音也は船の音也と云くは今へサイつら
と云ふ

海運尖底船隻 大子行義補はゆり舟後民和訓おふ
はりやんぞこの船と云くは

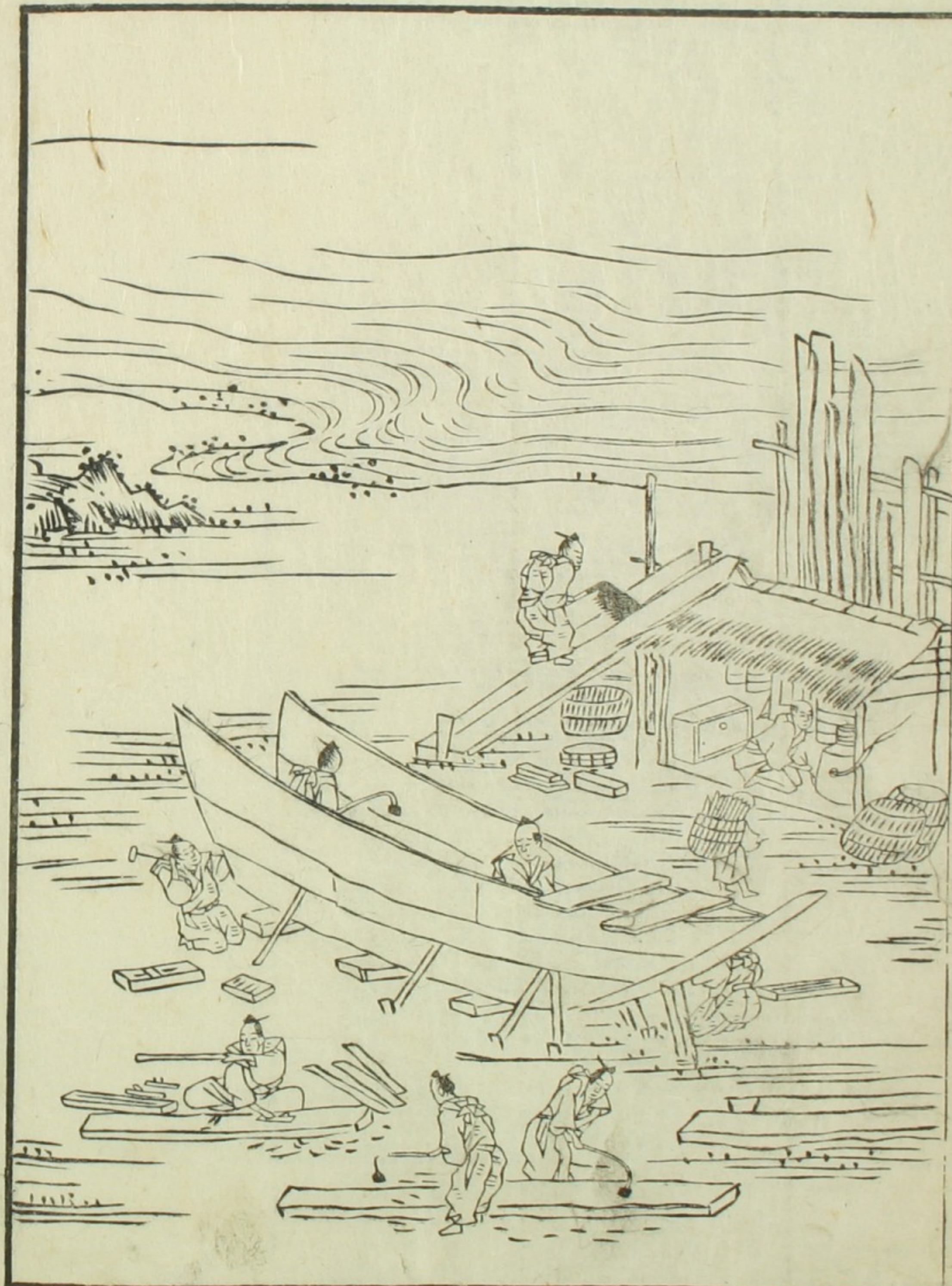
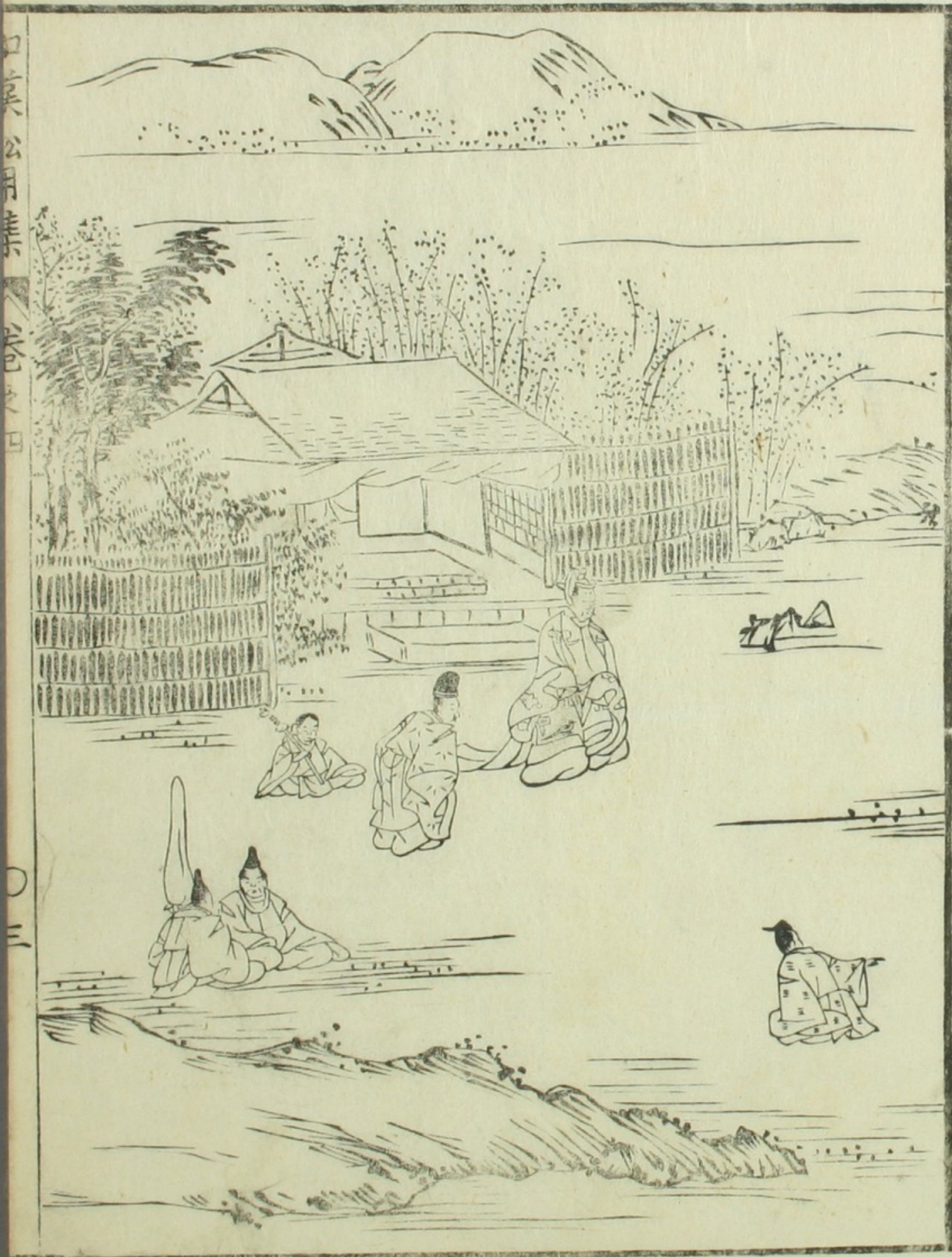
今本邦舟のけりこれなり

海船 周遷輿服雜事曰其人輕行則兼ニニ合木船也

鸕鶿 同上遠國朝貢越海則有大船一名鸕鶿合木為槽

艘海 集韻曰一ハ大船也

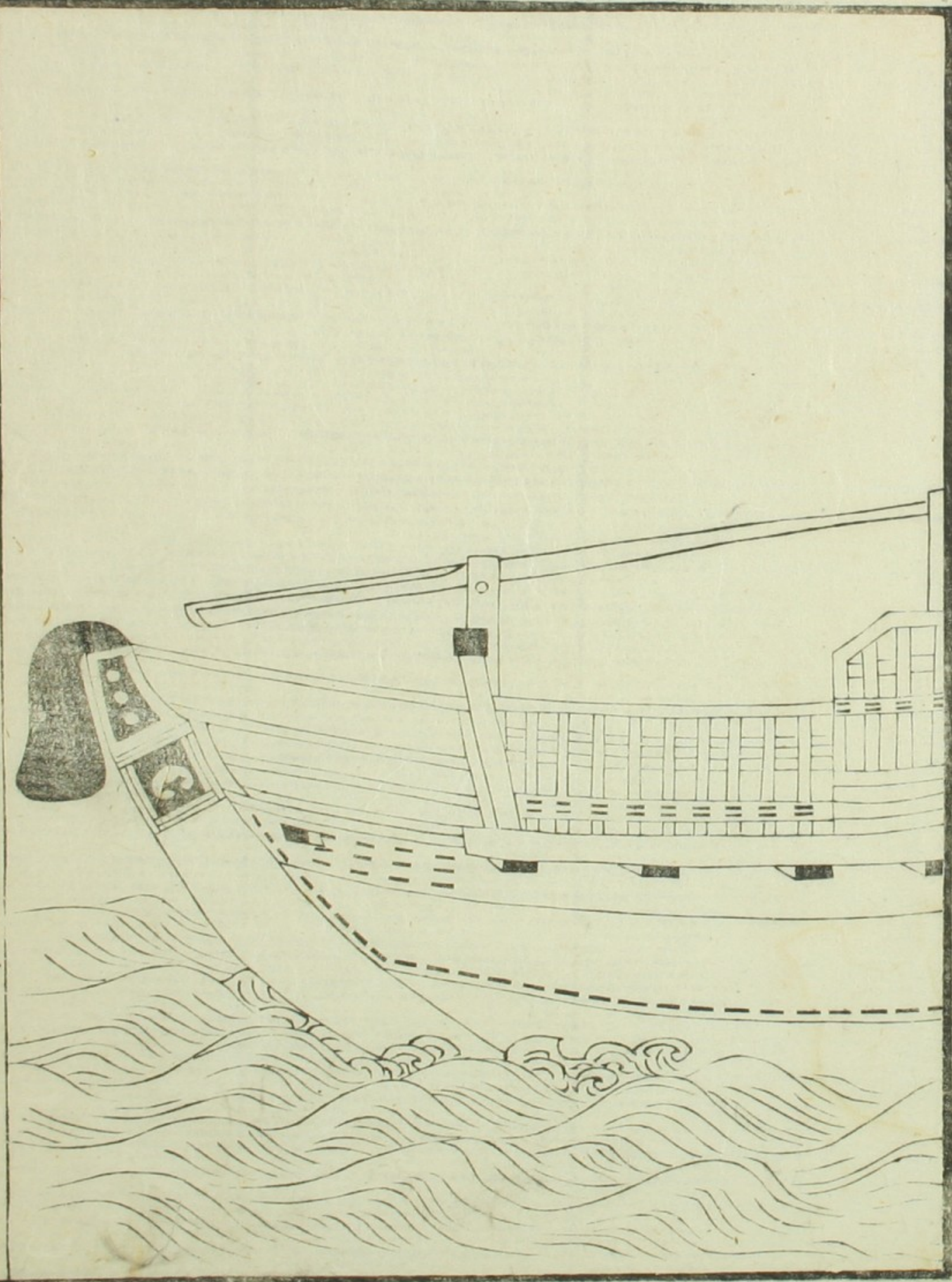
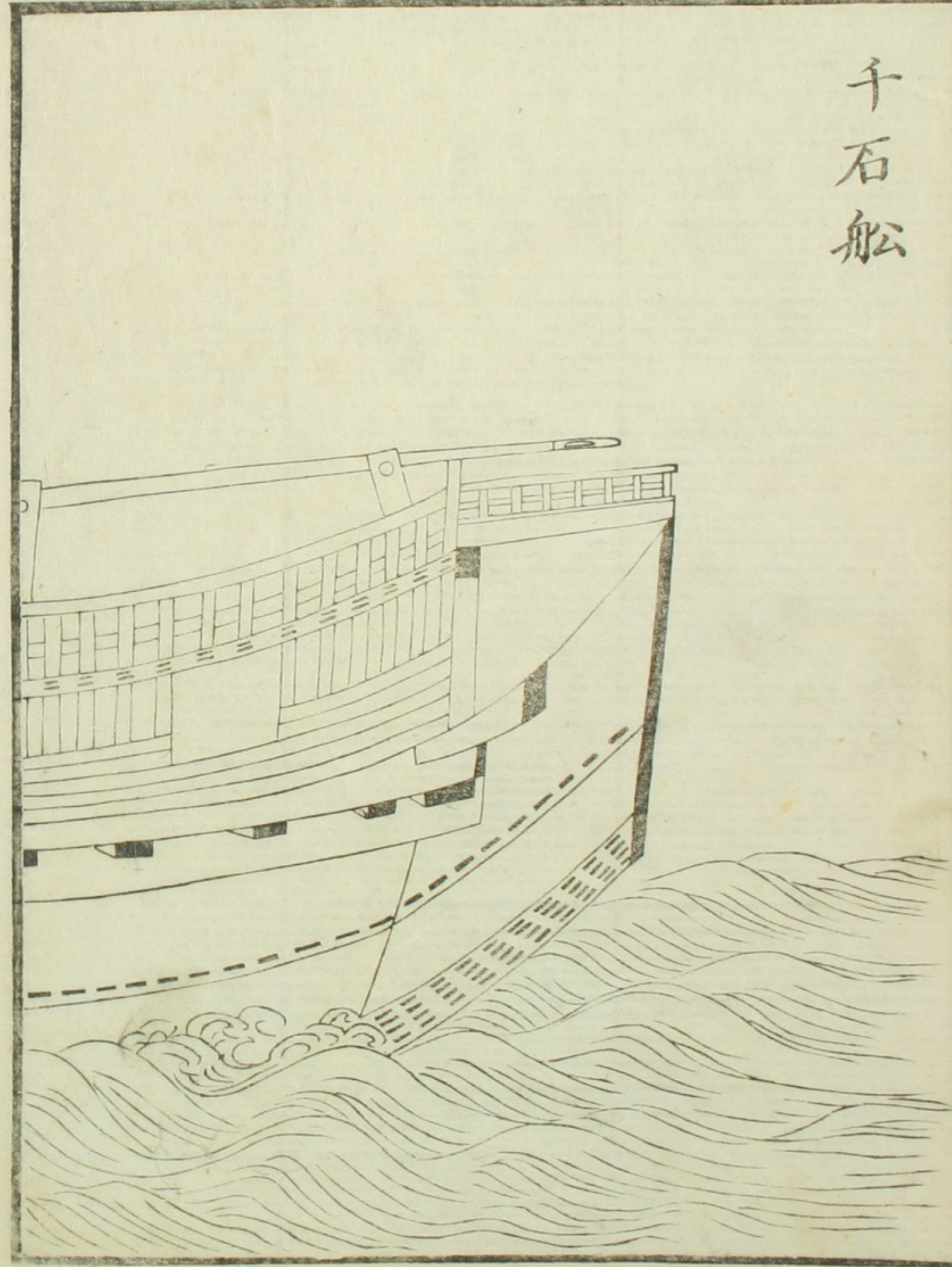
萬斛船 九國志曰丈尺之水豈能容アニヨクイシヤ一ニ

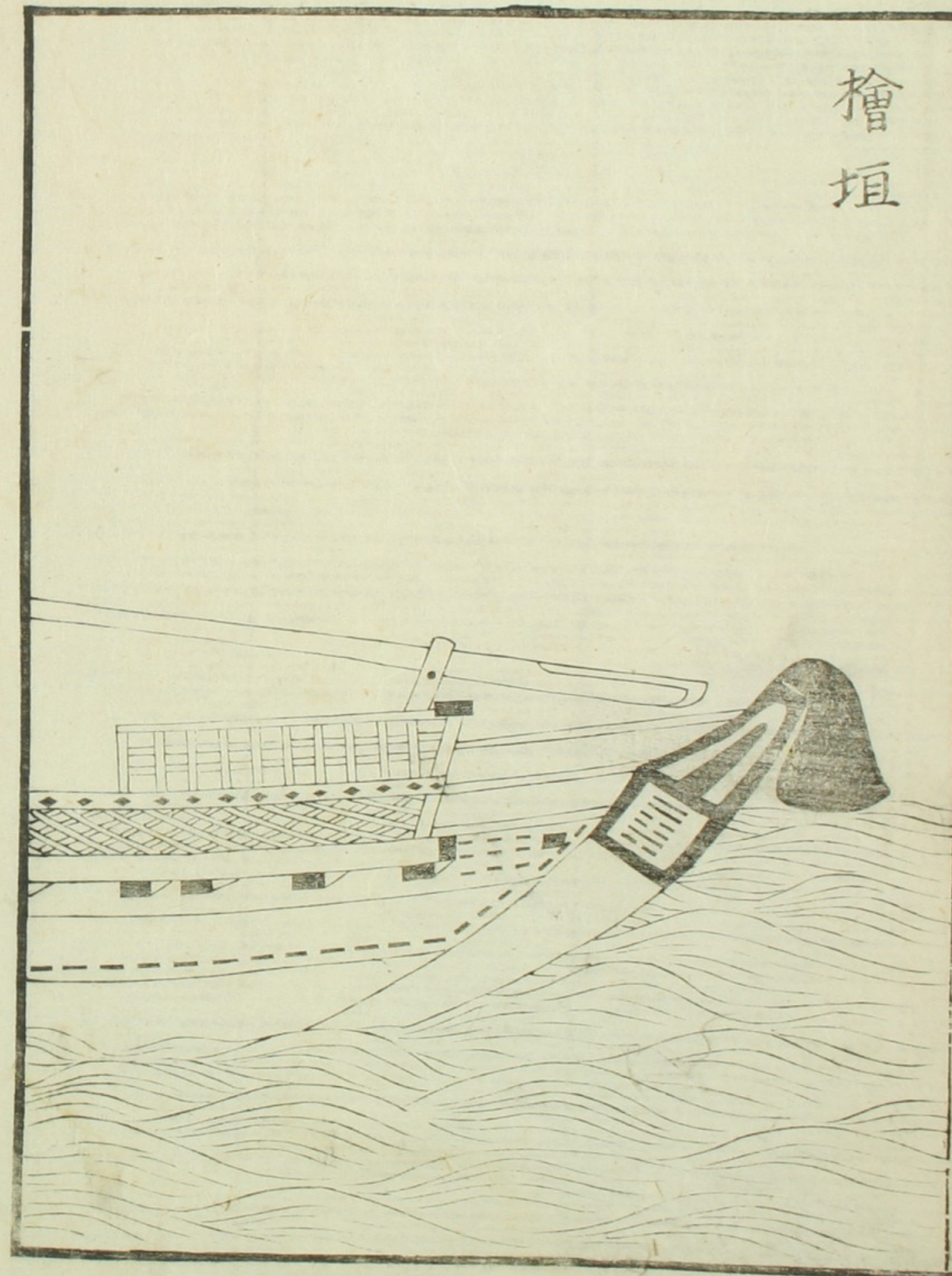
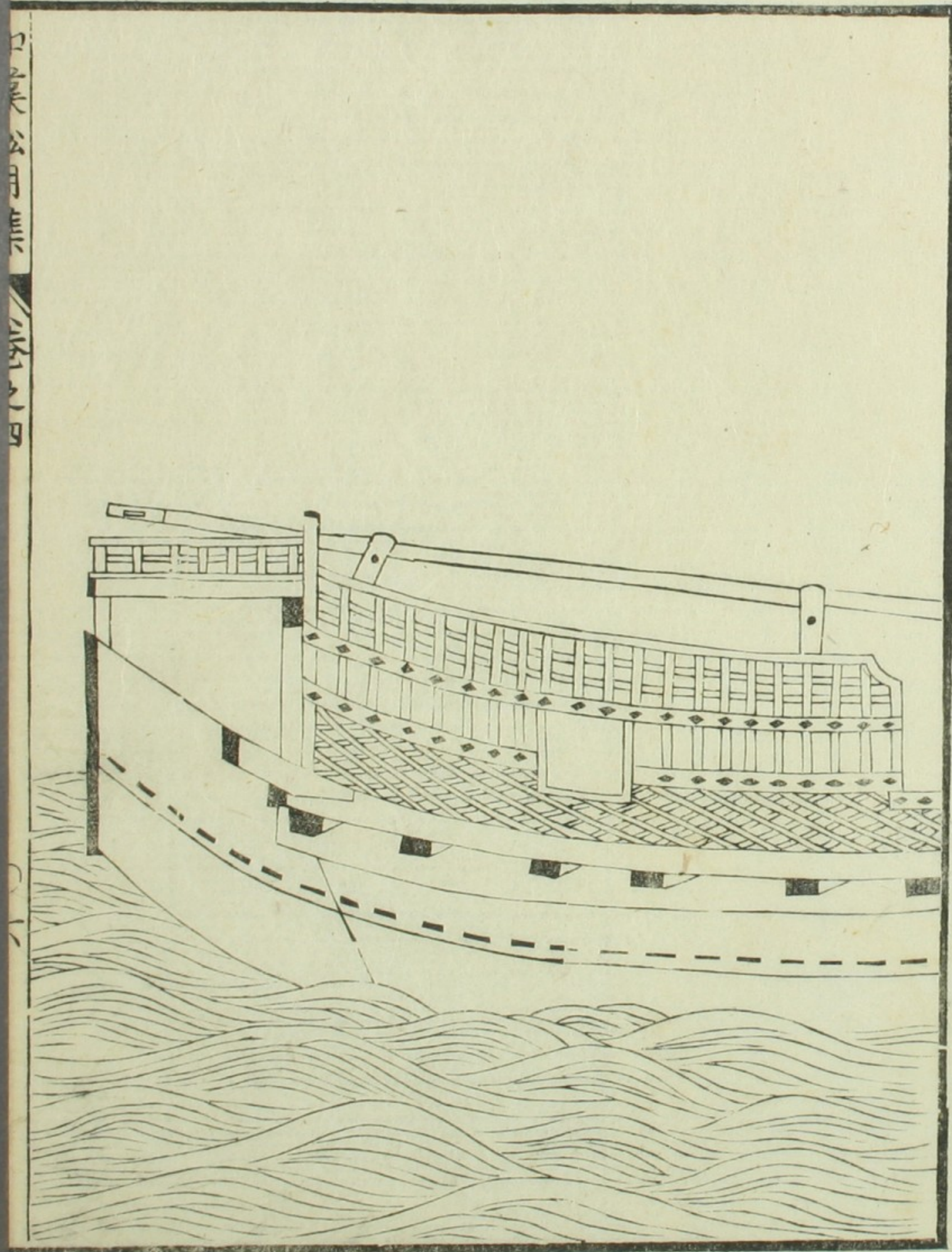


千石船 舟船ハ和漢とも石敷といふ今長祿入津乃
 舟船ハみち目といふはさく舟船ハ石敷をより
 と云ハ非也大寺街義補又造二石舟と云ふ
 又字彙曰二百斛曰船三百斛曰艇回頭書曰二百斛
 と鯛といふ鯛ハ貂也貂ハ短也ハ苗又名つくところ
 短してひろくやまふてうまひさけやううまひのあり
 といふ本邦舟のつくりこれに似又舟船ハ舟船といふ
 の教といふ武徳志よふてうま本邦舟船といふ者
 何捨るより何百石何石といふ又帆棹の教ハあき
 その船よりつりところの帆の布教を呼て名と船
 法紀船ハ帆掛りありて舟船といふ舟船といふ大船

空を舟船のつくりやう舟船のちうひあり
 但徠先生録深造曰山麻流子石の船帆二十六端造
 教二百端二枚といふ舟船の造りやうにて是のつくり
 ようきとあり一端二端のちうひあり舟船のちうひあり
 のありろともは指六挺十八挺あり也殊破八挺をさ殊目
 曰指費目より八十費目余より綱ハ加賀等綱三房商
 綱四房檣綱五房是凡八九百石千石舟子用也
 法國廻米借子舟と云ふ舟船乃を海と云ふ舟のつり
 或ハ何万石百石積何國の舟船番船以仲船以水
 何十人云檣檣桁破幾波綱何房檣船一艘を余ハ
 のせは用具の舟大船小船のつり

千石船





檜垣 ヒカキ

振州大坂廻船問屋の仲間船と云ふ七百石の檜垣大船也
垣立の節と檜垣と云ふ細人の名あり今檜垣と云ふ船
舟の名と云ふと大船と云ふ船と云ふは又舟の二法也
酒樽油樽類を積申へ檜舟と云ふ是又舟の二法也

塩舟 シホ

万葉思保夫祢斯牟布祢志保不左方と云ふかけり
季吟の浪は瀬海の舟と云ふは香しきと云ふは
瀬海乃舟と云ふは舟と云ふは海舟と云ふは舟と云ふは
云々の赤種船等の塩舟と云ふは舟と云ふは舟と云ふは
通州志又御尾来往者皆鹽艘也會典小鹽法白塔河安東
壩各進檢驗放鹽船と云ふは舟と云ふは舟と云ふは舟の二法也
ま本
うらつたをぬれの檜舟波たぐ塩舟と云ふは舟と云ふは舟と云ふは

塩舟



三枚帆 帆を三枚とす者も多し小船より大船
 まで及て二十枚余あり一枚の幅は四丈餘幅より船法の
 定むるに十丈より二十丈までありけり又これよりせんと
 ちりけていりるに倍多し一丈より二丈までありけり
 く船の大ききとひるより五丈より六丈帆を六枚とす者も多し
 小舟の船といふものには一丈より二丈より三丈の船は三枚
 より四枚とすものには二枚とすものには一枚とすものあり
 たけのことは先記の如く軍船の船は五丈の船法は五
 枚帆掛りたりしより六枚もありしこと定法にあらざらん
 八枚帆の數を以て之を備志とい其桅六道に二千石を可装五
 道に一千四百石を装へ一四道に千石を装へ一三道に

五百石を装へ一二道に百石以下を装へ一とすより唐船の四の雙
 帆三帆四帆七帆を載りしは帆桅の數也 本邦の大船といふも
 本帆三帆の二枚は大きな小舟なれども揚列石碇の揚船は
 二枚と有りし者ありしを介一桅のものにて帆桅の數を
 かきゆへに布敷を以て名とす者也
 十石舟 五雜組は白布氷東來可浮十石舟といふより凡石
 敷といふ名とす者多し小舟なり者も大船
 といふ者も八百石千石三千石ありし者
 百積船 万善治は船の回りくさるる船は六百石つり船也米百
 石をかつきいれんといひまするかよふへし季吟の目
 録甚き菩薩のりさるるやうさうさうなまじりちり

むくひを我らとよみたまふも百八十石と云ふことあり
けふのりさうふねと百八つむねと云へば船さへうかばいり
又日或は百積セキの百八と云ふは十丈の舟也と云ふも百八
てはうちと云へり愚按百積と百八と云ふも船なり積又の
音お通と云ふことあり方々へ廻船算法は日一寸四方六面
載ノス万歩ヲ一斛コク之積と云ふ船方は肩中カタクと云ふ一石の積を二積と
と云へ百八の積は百八也百積と云ふ百石積の中映して百八
積の舟と云へり

万歩
舟のりさうふねと云ふことありて舟のりさうふねと云ふことあり
廻船算法は日一寸四方六面載万歩一斛之積と云ふ船方は肩中と云ふ一石の積を二積と
と云へ百八の積は百八也百積と云ふ百石積の中映して百八積の舟と云へり

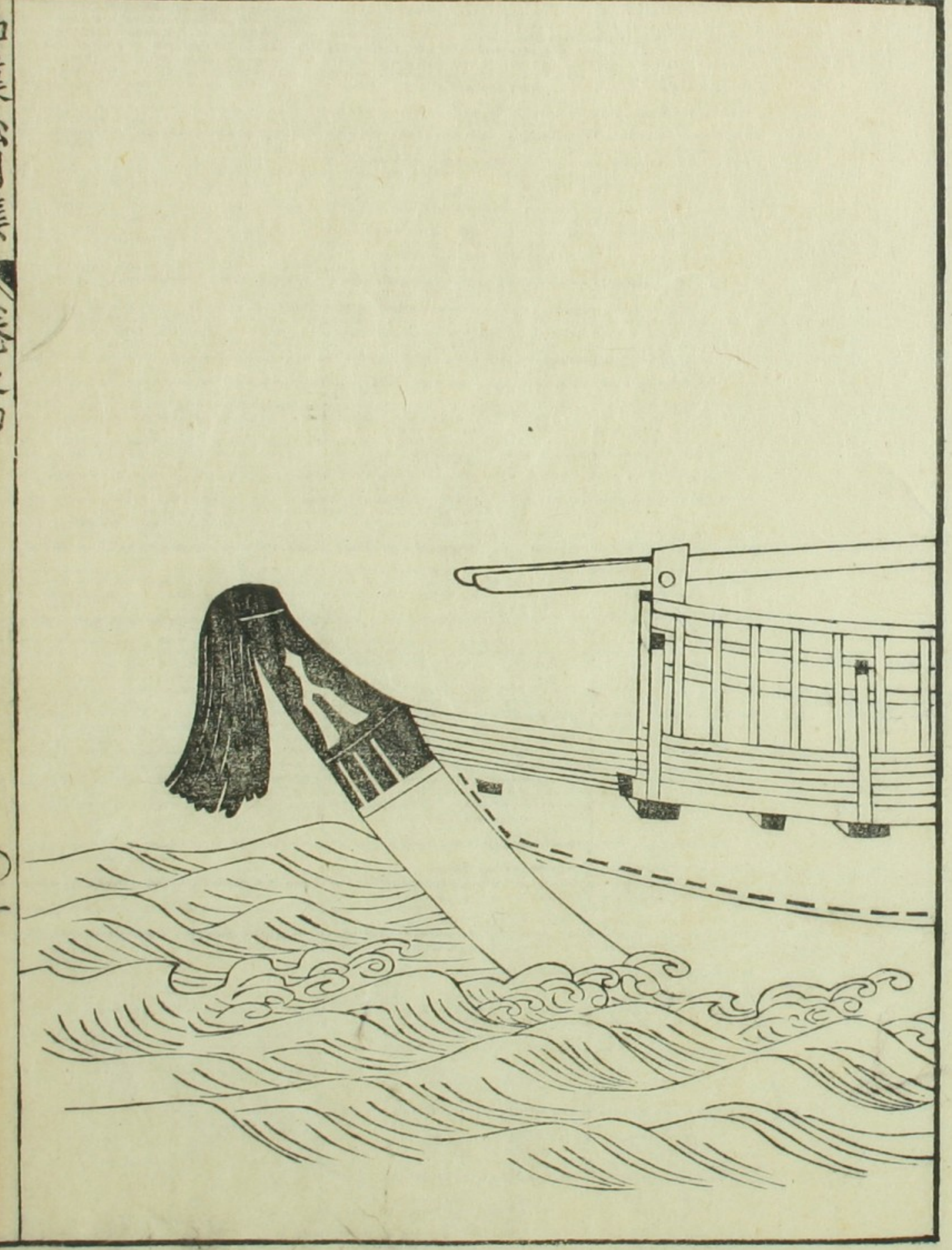
ニタリ
廻船

舟のりさうふねと云ふことありて舟のりさうふねと云ふことあり

トカイ
渡海

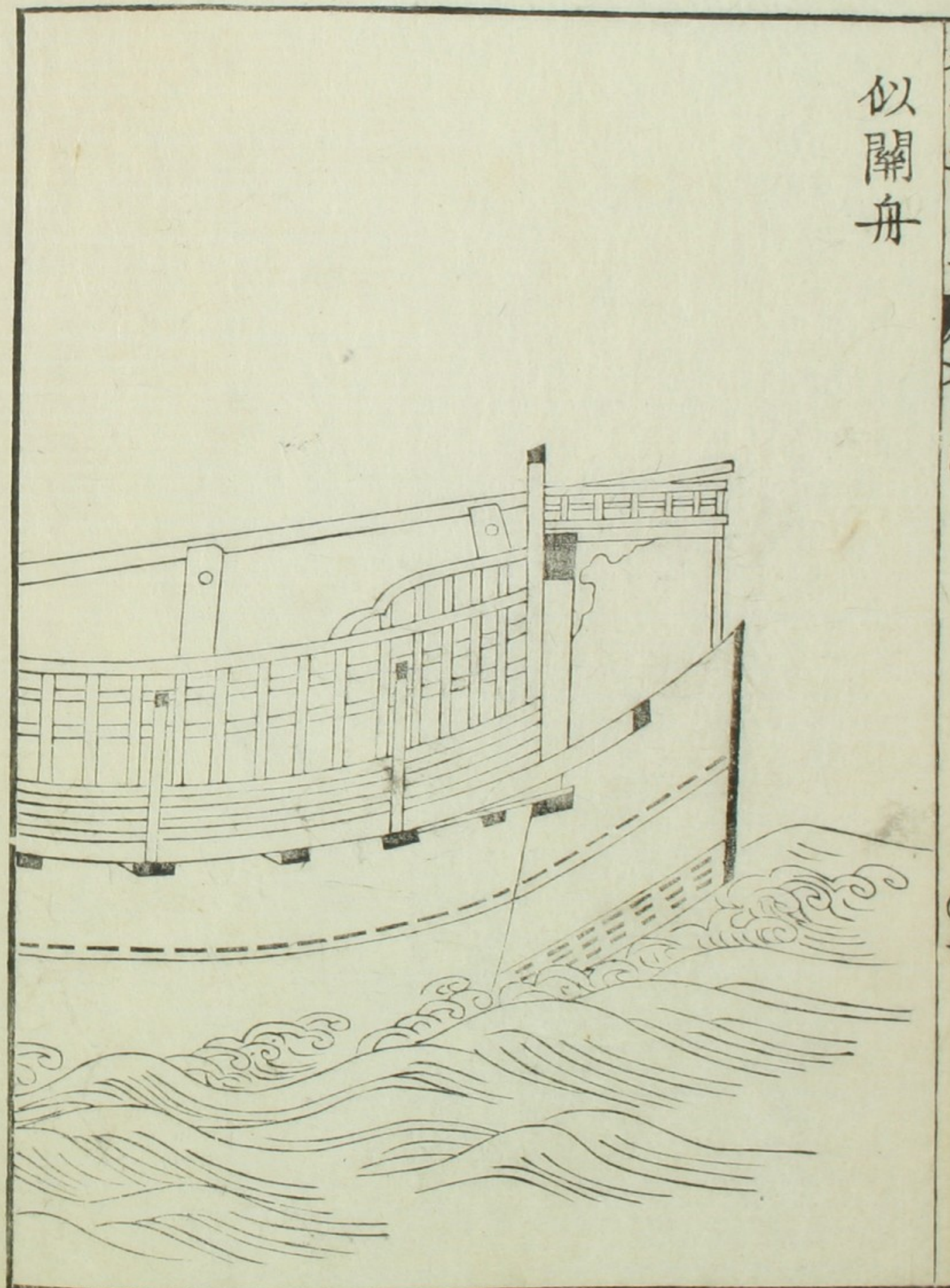
小子舟とは舟の小子とハ各別りさう又舟に次の
小子をりさうの舟は又六廻帆より大船八十七八廻帆
りさういつさも少くとも也中國九列の揚長列赤間が
國豊前門司モジの實け渡海の舟小倉渡海と云ふ舟は
舟も余也たふは船ありさう船より船より船より船より
舟は船より船より船より船より船より船より船より船より
舟と云ふは九列の揚長交代の舟又旅密とのせさうは
舟振別より小倉は船より下舟おを積て上の船より
衆密装の舟へり一は渡海舟の舟と云ふは渡海造りや
りさう一法也

口美公用集 卷之四

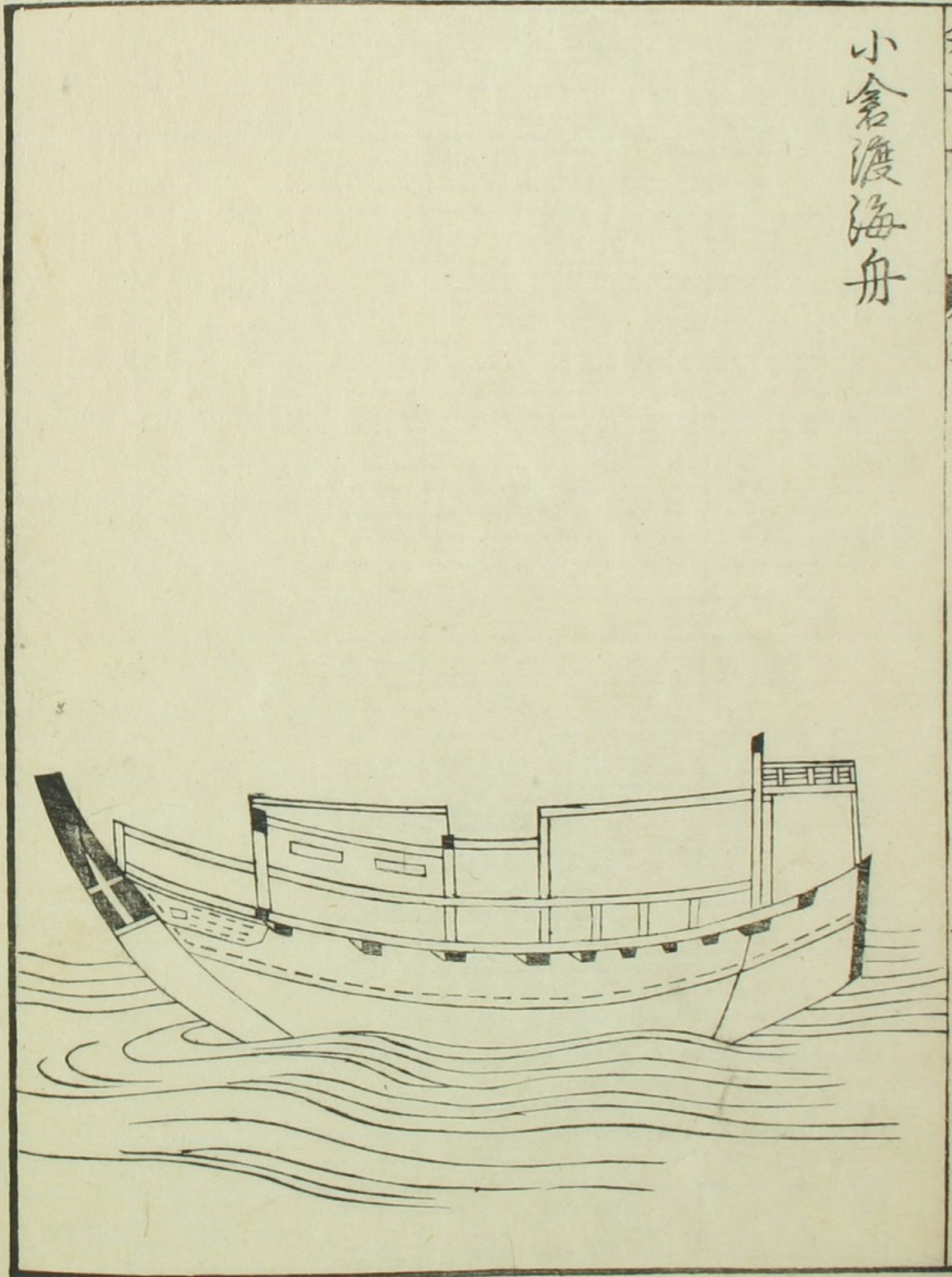


似關舟

和漢船集 卷之四



小倉渡海舟



兵庫渡海

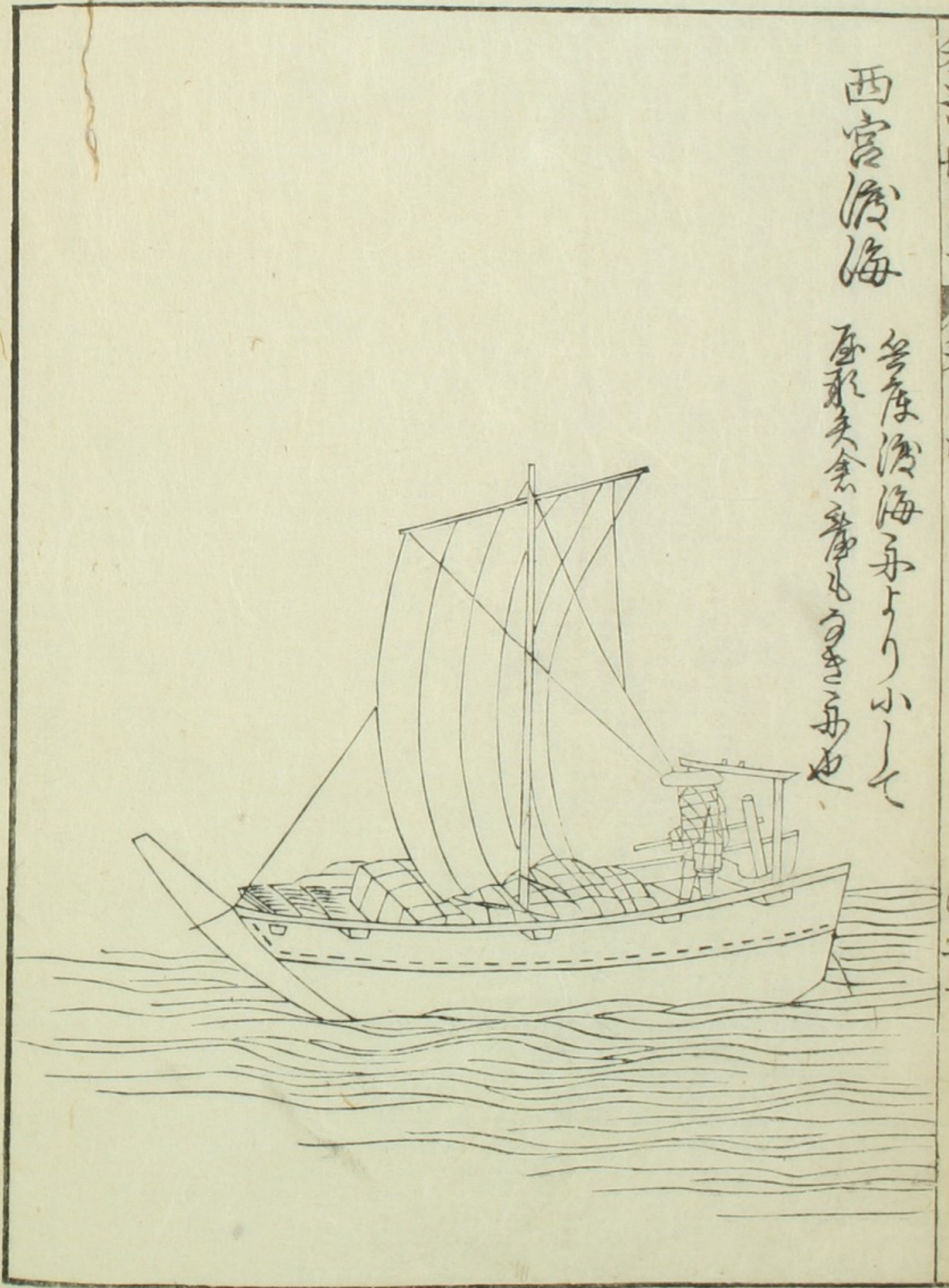
為形舟倉舟一 吾有之
極立可きり法



舟渡船集
西宮渡海

西宮渡海

舟渡船集
西宮渡海より小い
舟に夫余舟も白き舟也



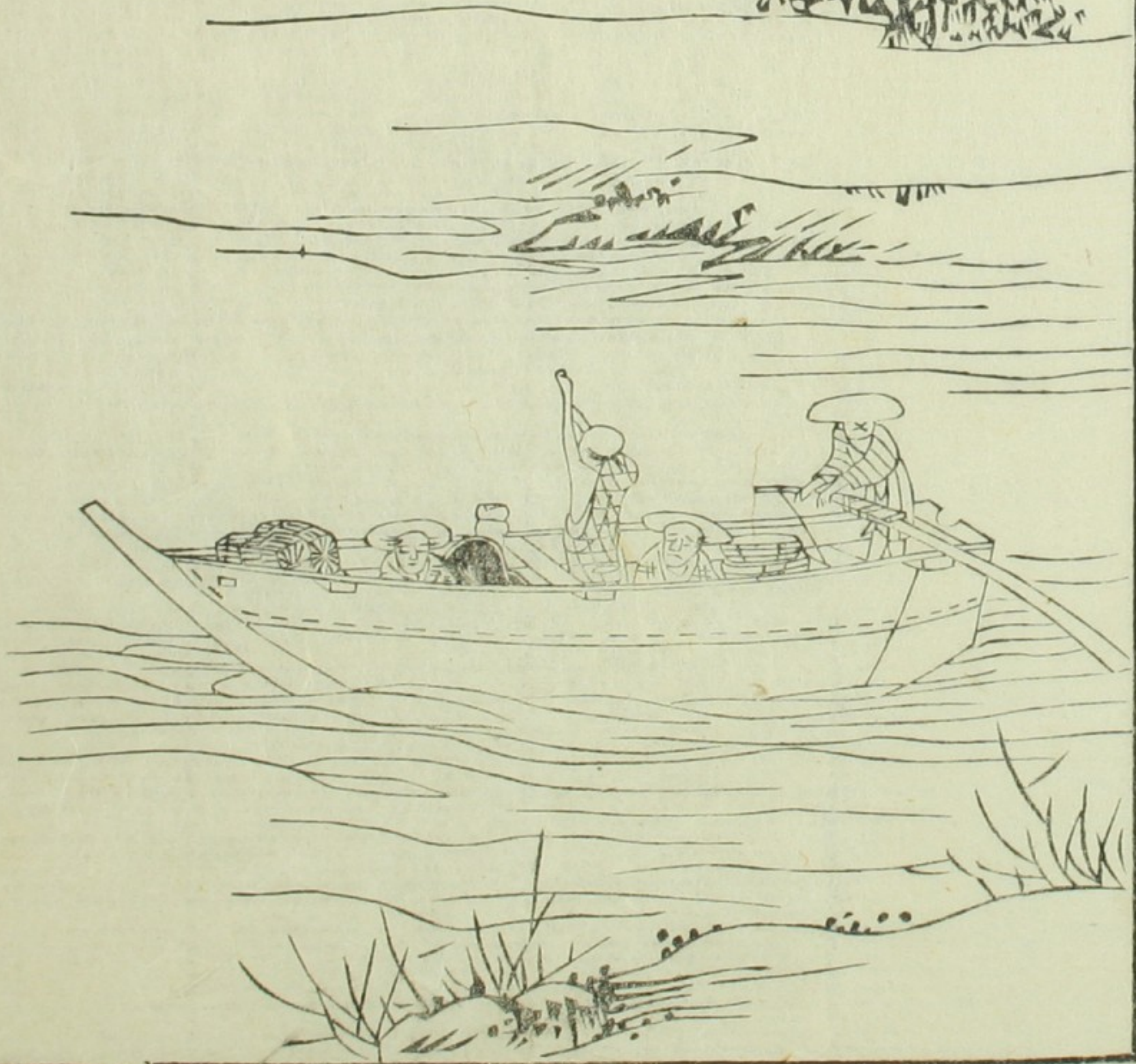
尾崎渡海

西宮渡海

より小い

日く大坂よ

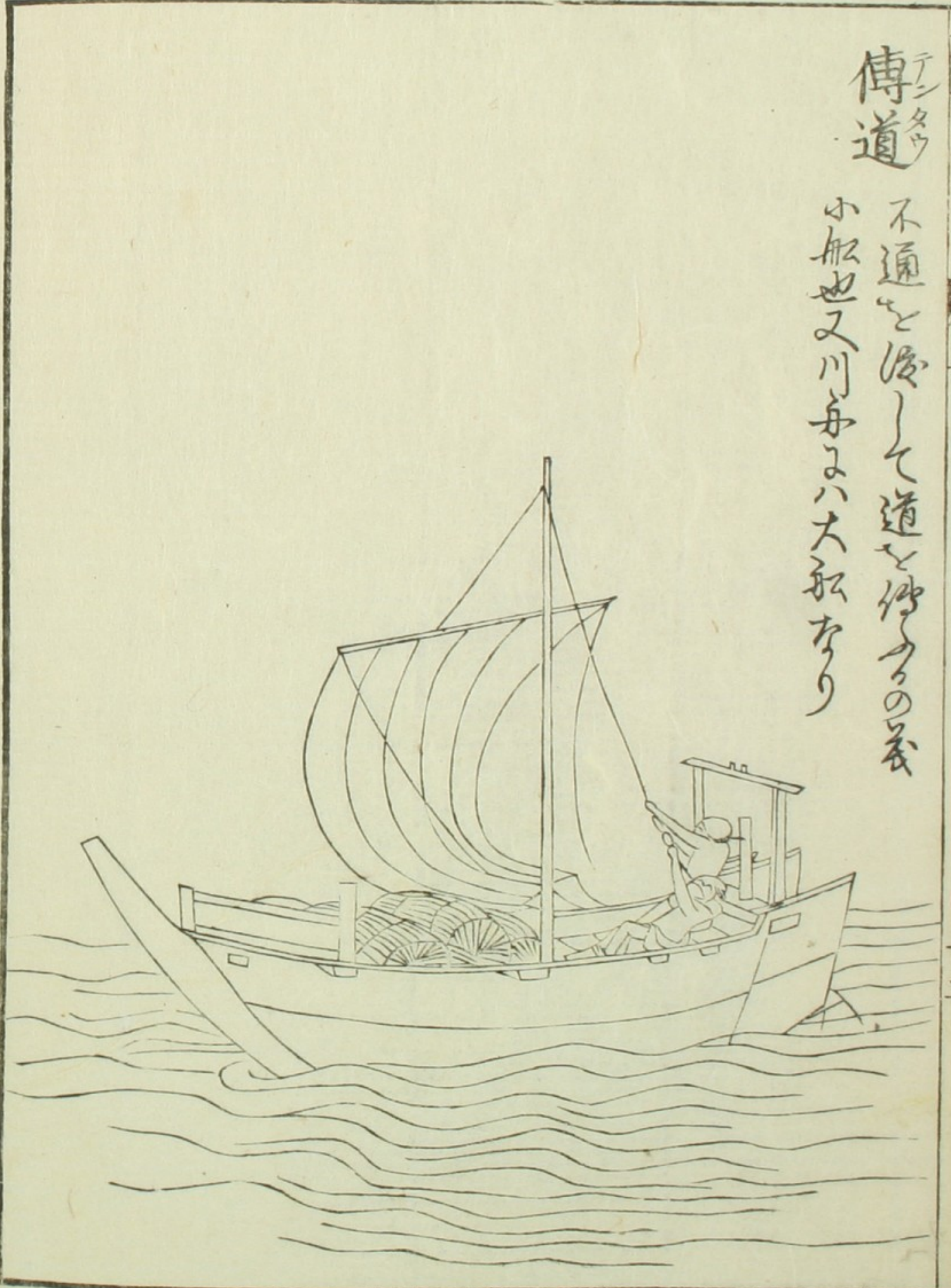
往來に



口美公明集
舟渡船集

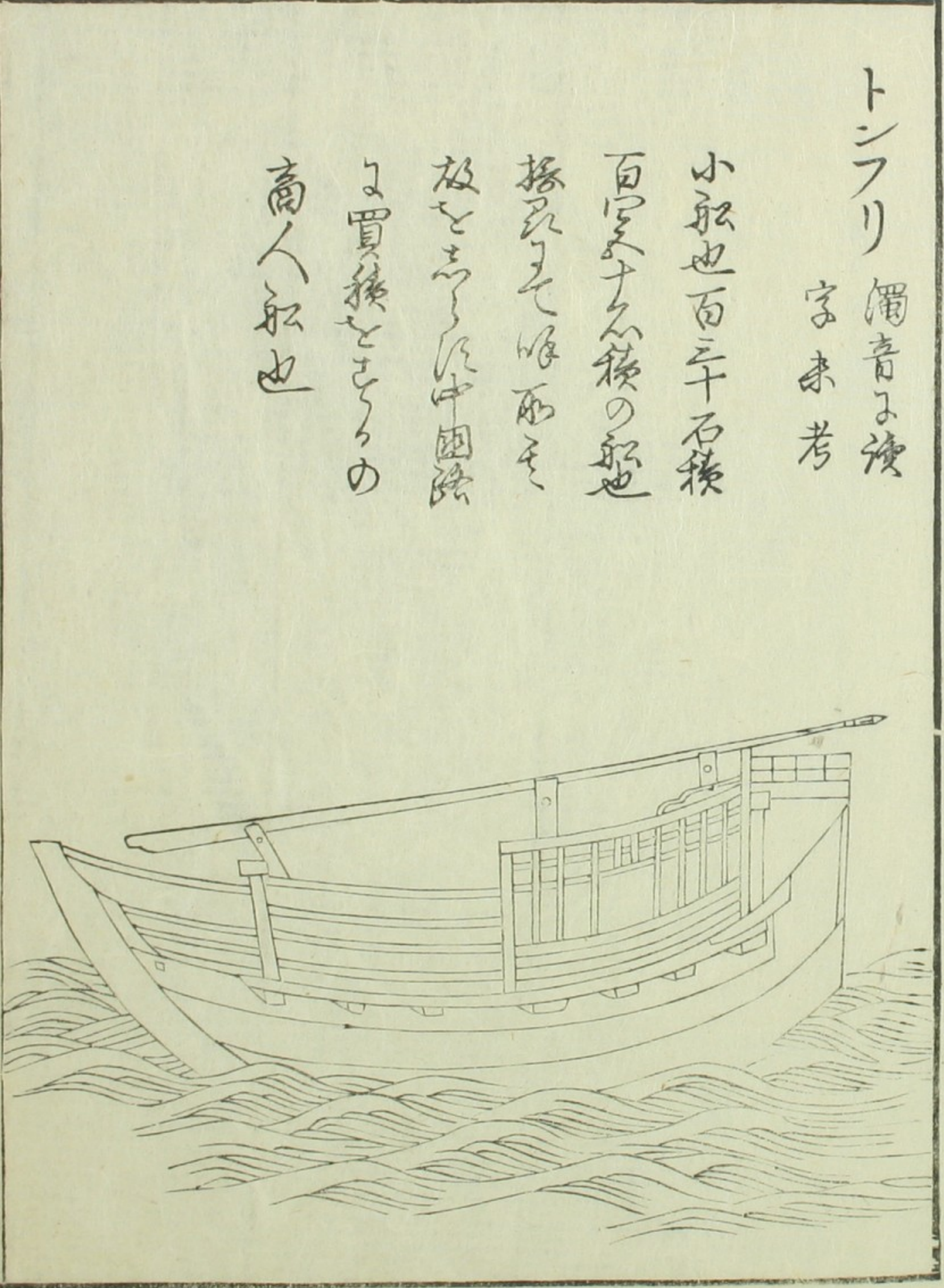
傳道テシタウ

不通を伝へて道を傳ふるの義
小船也又川舟より大船なり

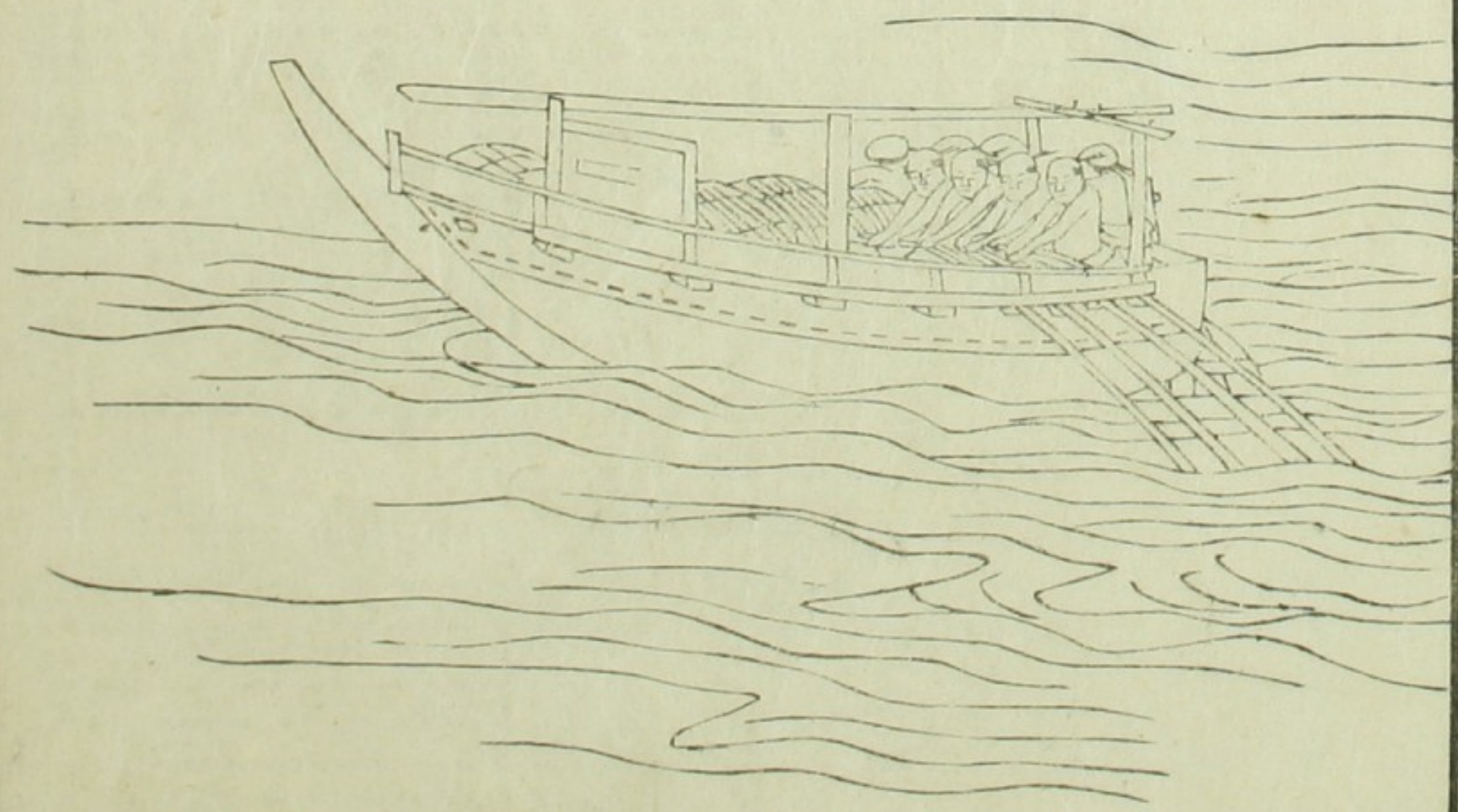


トシフリ 備音子渡
字未考

小船也百二十石積
百石より多量の船也
振盪して海を
放つては中國海
より買後とさうの
商人船也



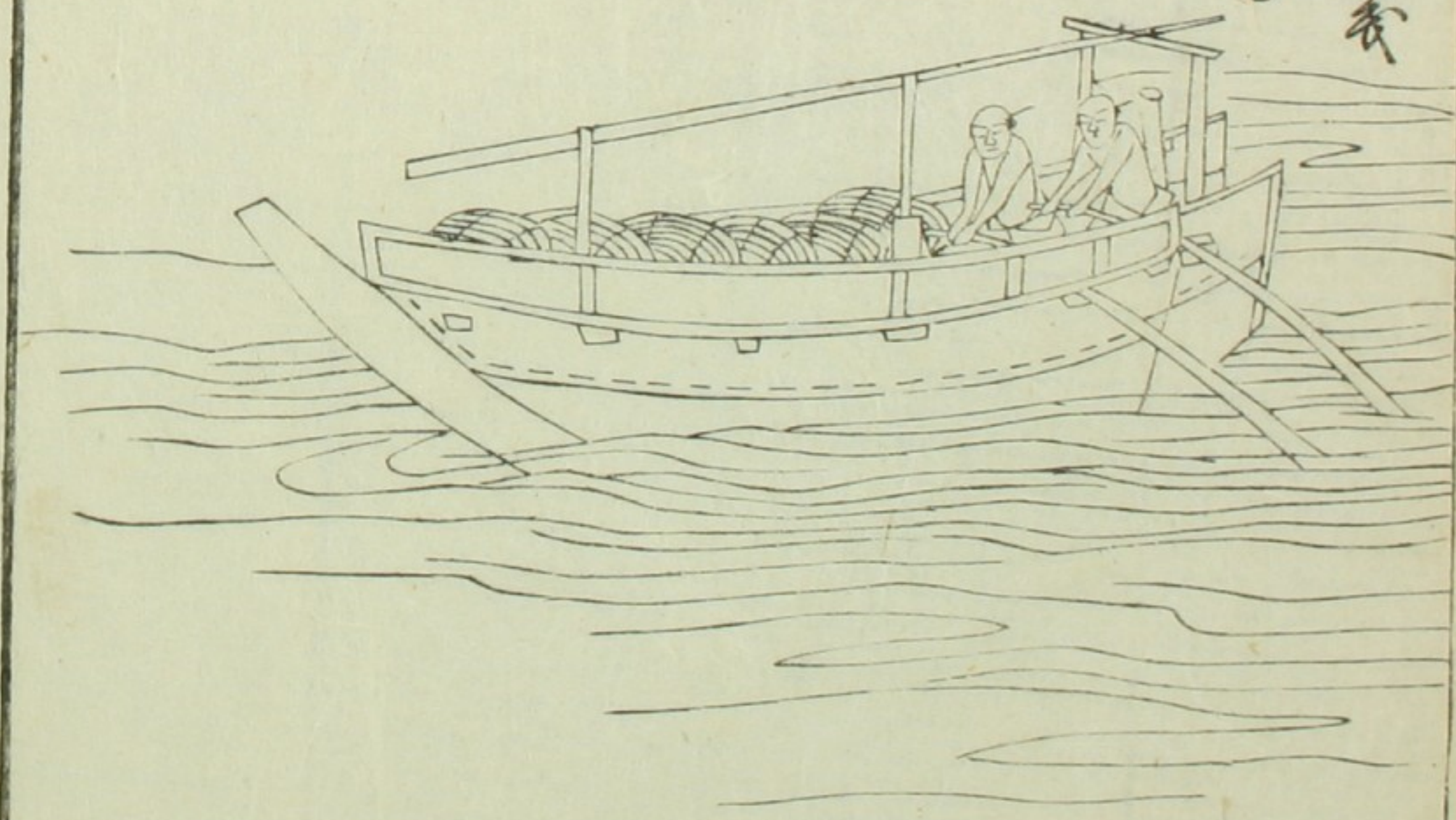
飛脚舟



和漢公同集 卷之四

磯場イサバ

小舟にて磯をとり舟の養
磯場舟より磯と舟とも
まゝ



和漢公同集 卷之四

飛肺船 ヒキヤク

遞運船同會典テイウン曰水路遞運船と云へりけり小

船にて表は小き船あり日船スイロハよりまりけりを影者

飛柳小子と云又中略して飛船と云名原の松舟コト或ハ

下の雲れ小船と云いて舟中人曰切と云豊トヨふ長湊の舟

と云湊と云の船ありよるそ船名を舟フネと云ふ多し

石船 漢は山船と云古倭志は曰運石者謂之山船と云へり

却邦みまると云る名を舟フネの志と云海河船と云

を云曰くは接取船村の舟フネを後し傳道は於此船と

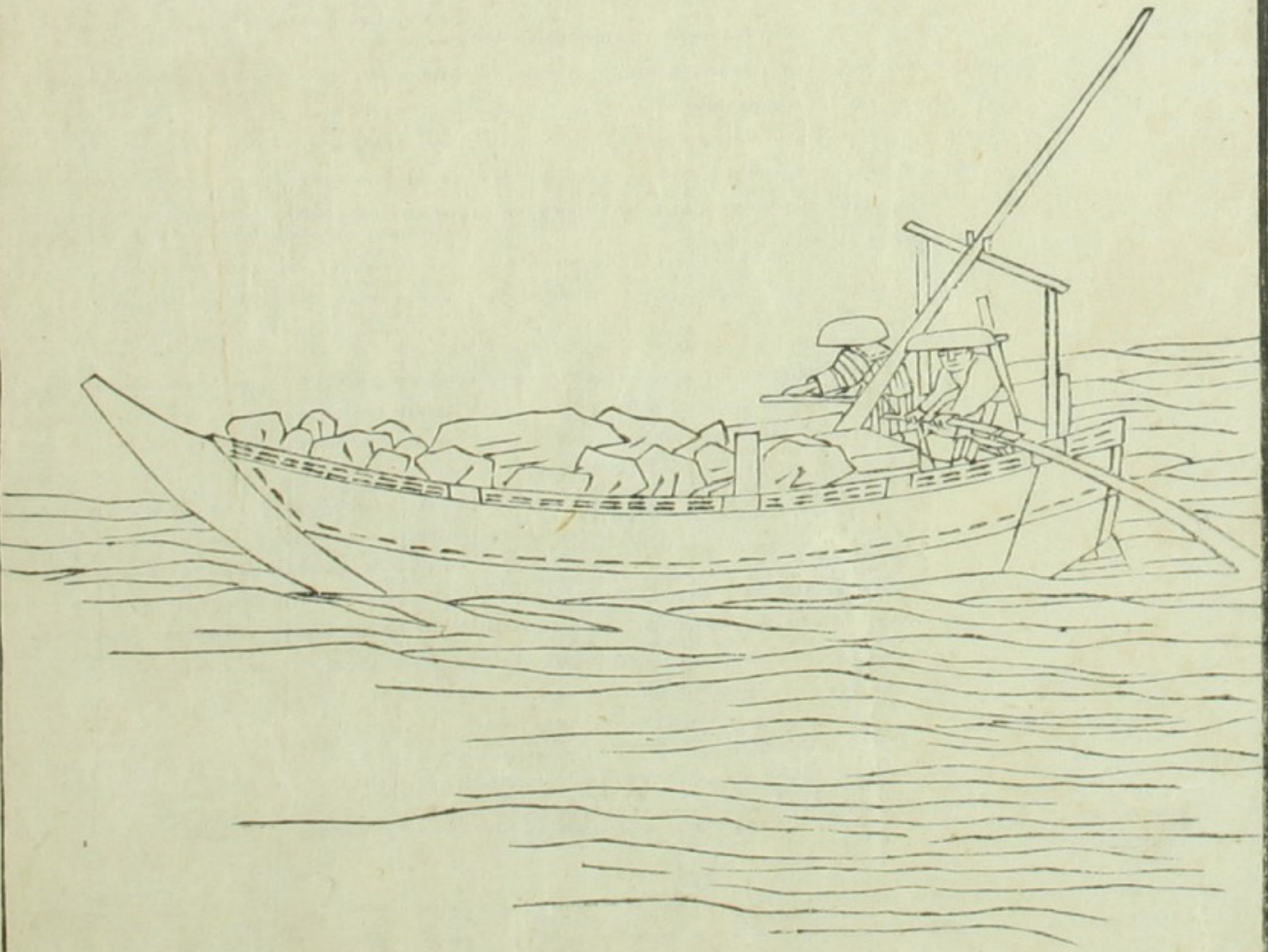
云又播磨立山と云後舟也異也純州コトの舟あり

新撰古今書

舟の國よりけり舟を舟と云ふ舟の 舟河法師

下畧

石舟



材木船

紀列古依日向薩摩も外小國の材木運送の舟法國形とあり

檣物舟 ヒモノ

源平盛衰池は長門のむの舟といひ檣細之或ハ松材木を積舟也

丸木舟

後を平池は赤間の丸木船と云へり長列赤つら丸木を多りし船と云ふの程法はまそり

又籠船の形との又川舟の形とあり

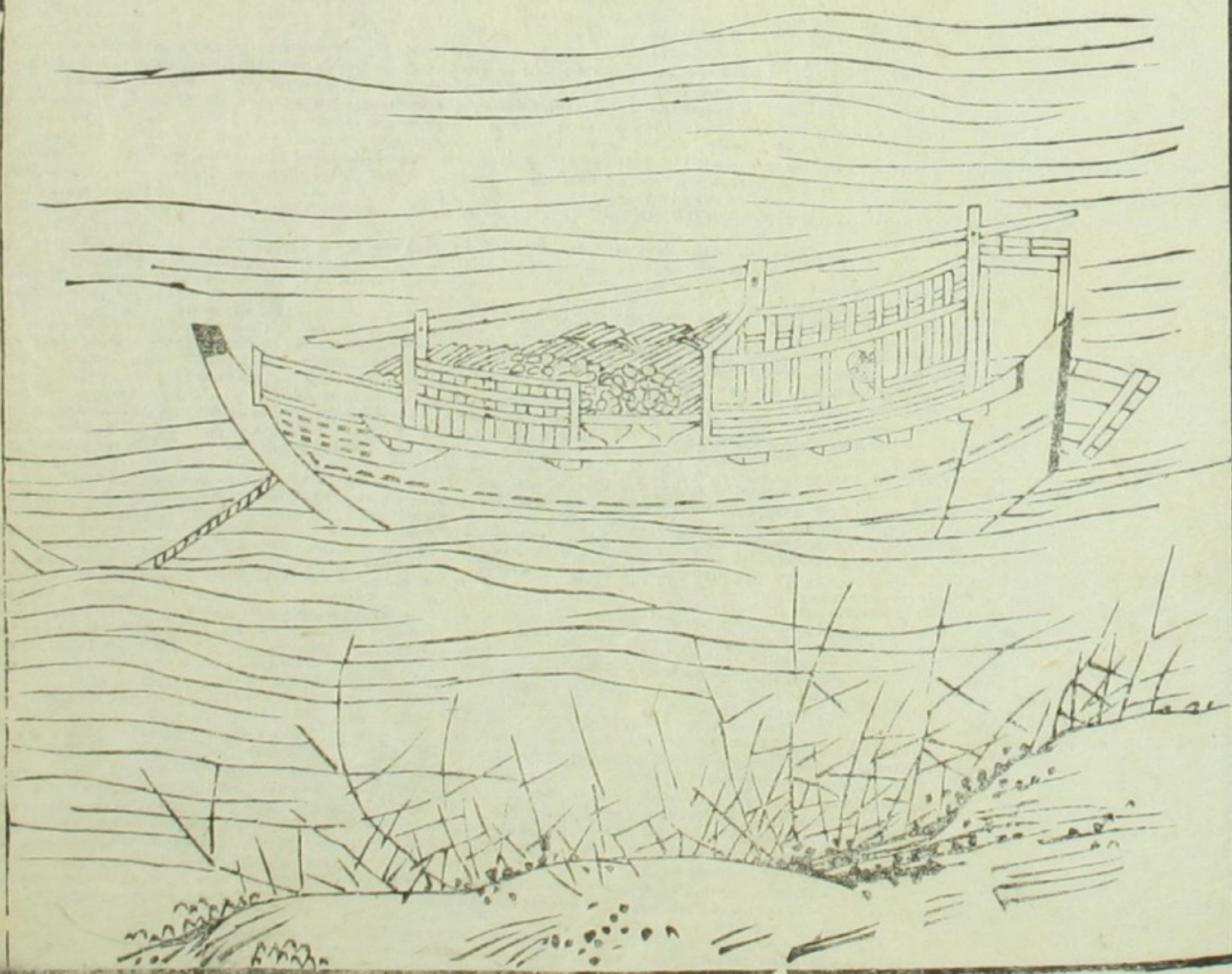
木舟

諸國とあり炭薪を積る者日向古依の舟を多し又河舟とあり

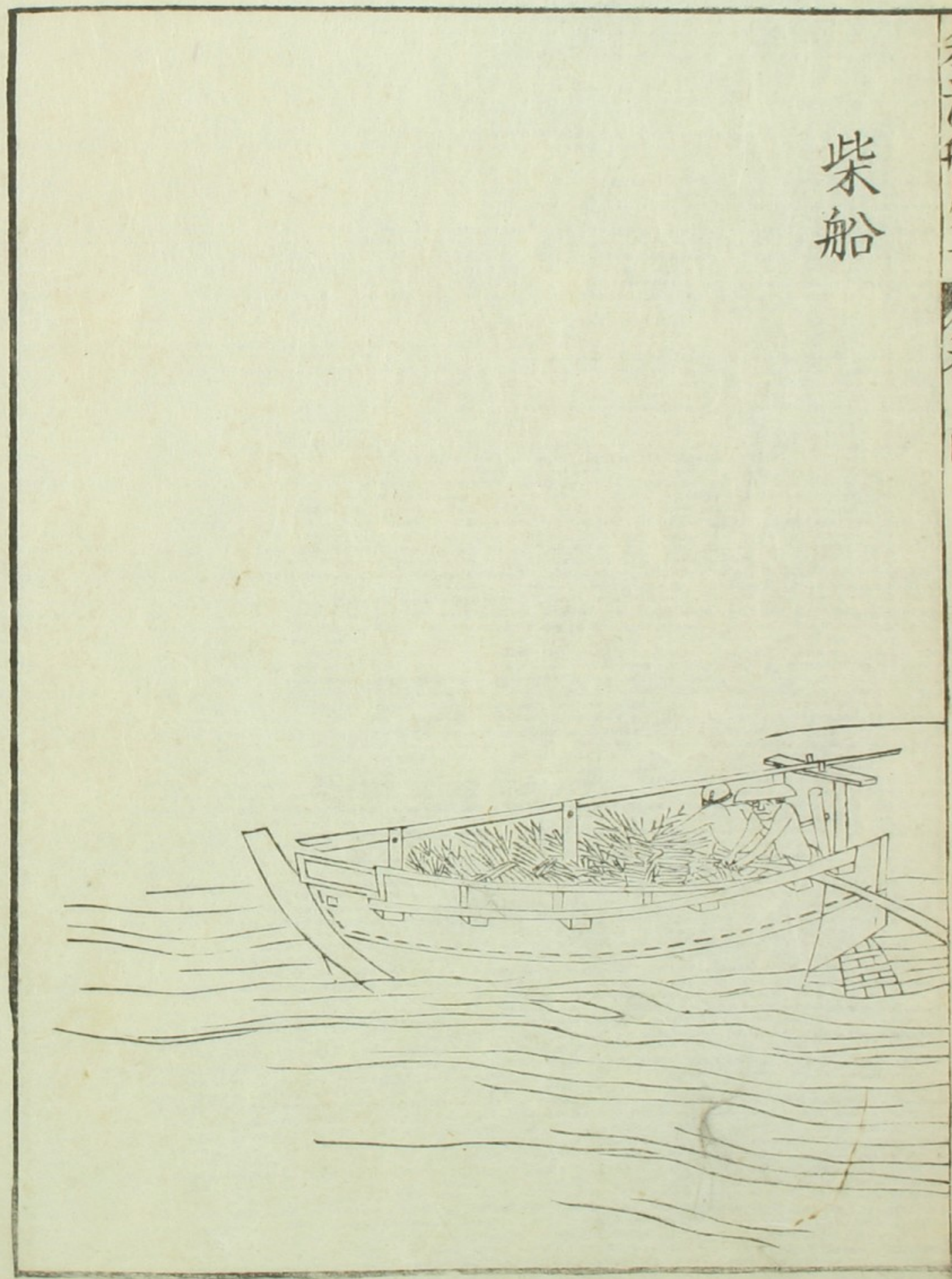
新夜今

船形とあり此丸やのきとれは善木ありつむ舟いそく之 經行

木船



柴船



柴船

諸國にあり小船中船也振列より舟紀列去
佐阿波淡路日向の舟多一松の葉多柴船
瓦の葺舟積来たり又河舟よき

柴小舟まわりけあせゆよきと西此人風まりり
後教船長

新波船

振列の名所とほる日本紀及舊事紀に曰神武
天皇皇師即遂東舳艦相接方到難波之碕

會有奔潮太急因以名浪速國亦曰浪華是日本

一の大湊と云新波津と云者今大坂と云の地也古

舟新波津とよめり八川を越新波の里をうへ一

新波を及厄津大坂の浦方るといり今廻船舟

舟新波津とよめり八川を越新波の里をうへ一

檣垣等大坂舟と称は

後成

ま本 あしけのりとそりしむ新波舟おきにかてもたつり

琴浦舟 コトウラ 同國名所を呼者武庫郡尾張郡之とあり

あり

後後拾遺

侍後澄教

ふつともよぬつしきかたをよと浦舟の波は後

灘舟

同國名所を呼者尾張郡武庫郡尾張郡之とあり
於此浦多燒鹽といつり併勢お終よたこの垣

やきとよめりも芦屋此灘あり

陸中細國位

後拾遺 細子門灘の小舟やぬん新波の田舎此浦あり

是芦屋此灘とよめりしむ新波の里も後をにせ

舟の東又百もいふ新波の里及尾張大坂の浦西
海の船出入の湊よて海もふりしゆ垣後もり
一あり一今尾張をより云度ふむく灘とハ
とも今垣後方一海濱くありて新田を聞き芦屋
新田とあり姓古ハ知れ此新田もあり一と尾張
より入海まじく江口神楽と云ハ今の室津さうと
云みまとのとく舟つき母て法園の大船市船城
列すまのりしむなり紀の貴之去依の舟よる
付山崎より舟舟よるまふ又源氏すま又越後
一舟舟およりの舟よるれりありそりかハ
船をものりしむなり 新船 皇曰年庵園の使

カウヘウジン
言表仁等類波津より大伴の言表船二十艘をか
さりにはは途と久へり今海にせく多く新田と成
くつ使ははきよ大船と成り古く昔の船といふ今
神名三ツ重屋の船と船名といふくも船といふてきこまる
所なり播州印南郡播磨郡皆塩俣多くつり是と船場
と云播磨津也俣名と船名といふりも村置と船名と
云もましく船く舟用と舟廻船名と云なり

廣田宗合

詠ら〜と津重井はあ〜舟は漕ゆ〜たより多りのこと
懐徳

タカサゴ
高砂舟 播州名所と云者海よもこのう〜ふ〜

帆とわけ〜と化〜

丈本
後實船長

須磨船 播州名所と云者昔ハ西國海陸の國にあり〜

秋ねさぬすぬの雲守と後り

秋ね
後京極

あ〜れよ雲のまくひ〜秋移〜國〜いつ〜須磨の舟

アカシ
明石舟 播州名所と云者小船也旅客と裝載は宗合舟と

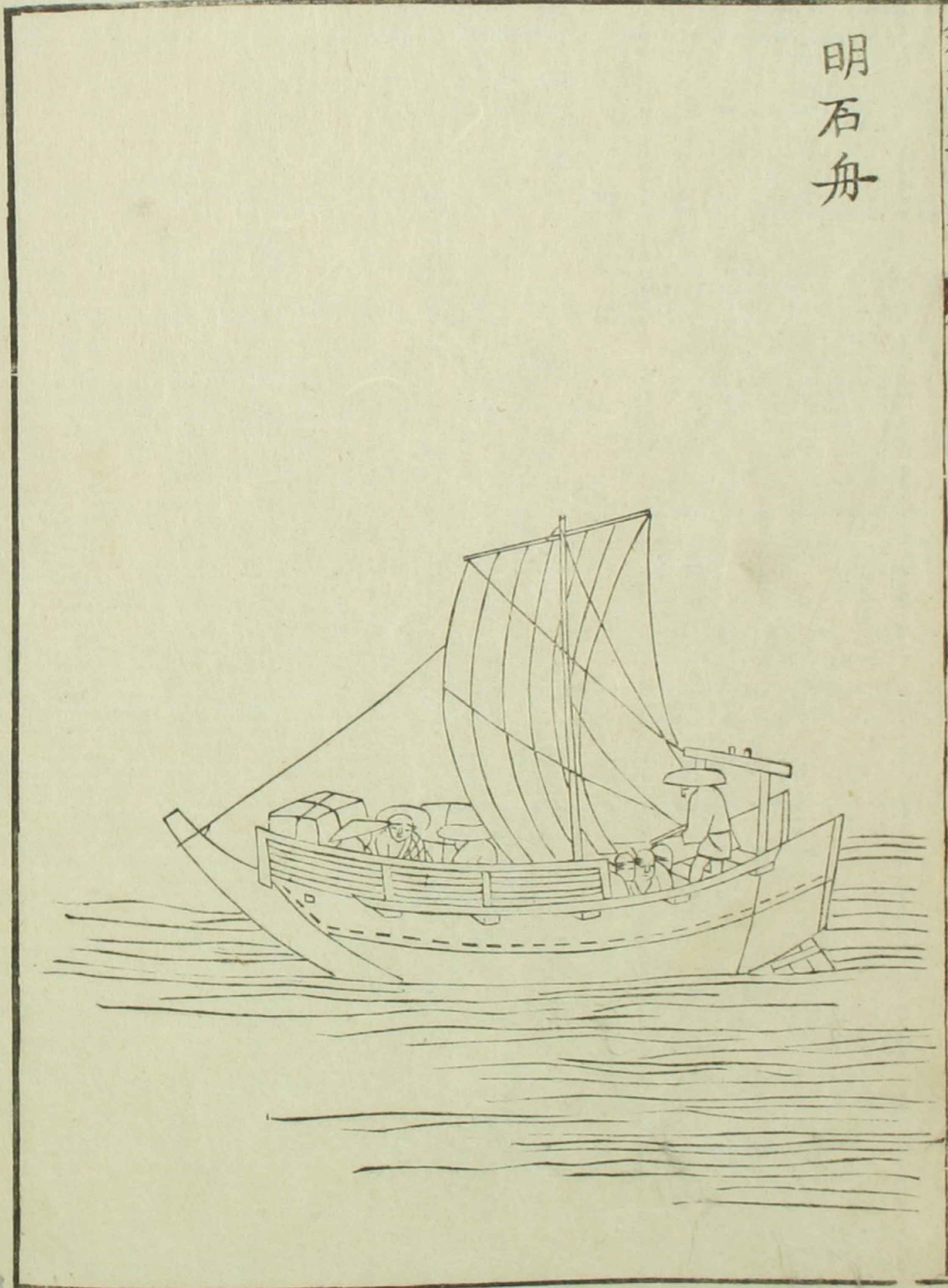
毎に播州浪花は往來は夕ア〜浪華よのりて船は船は

い〜も道十五里船名よりも又〜り是漢〜航

船名
秋季

秋後撰
は〜〜と心あり〜此舟とめて〜の方を海〜

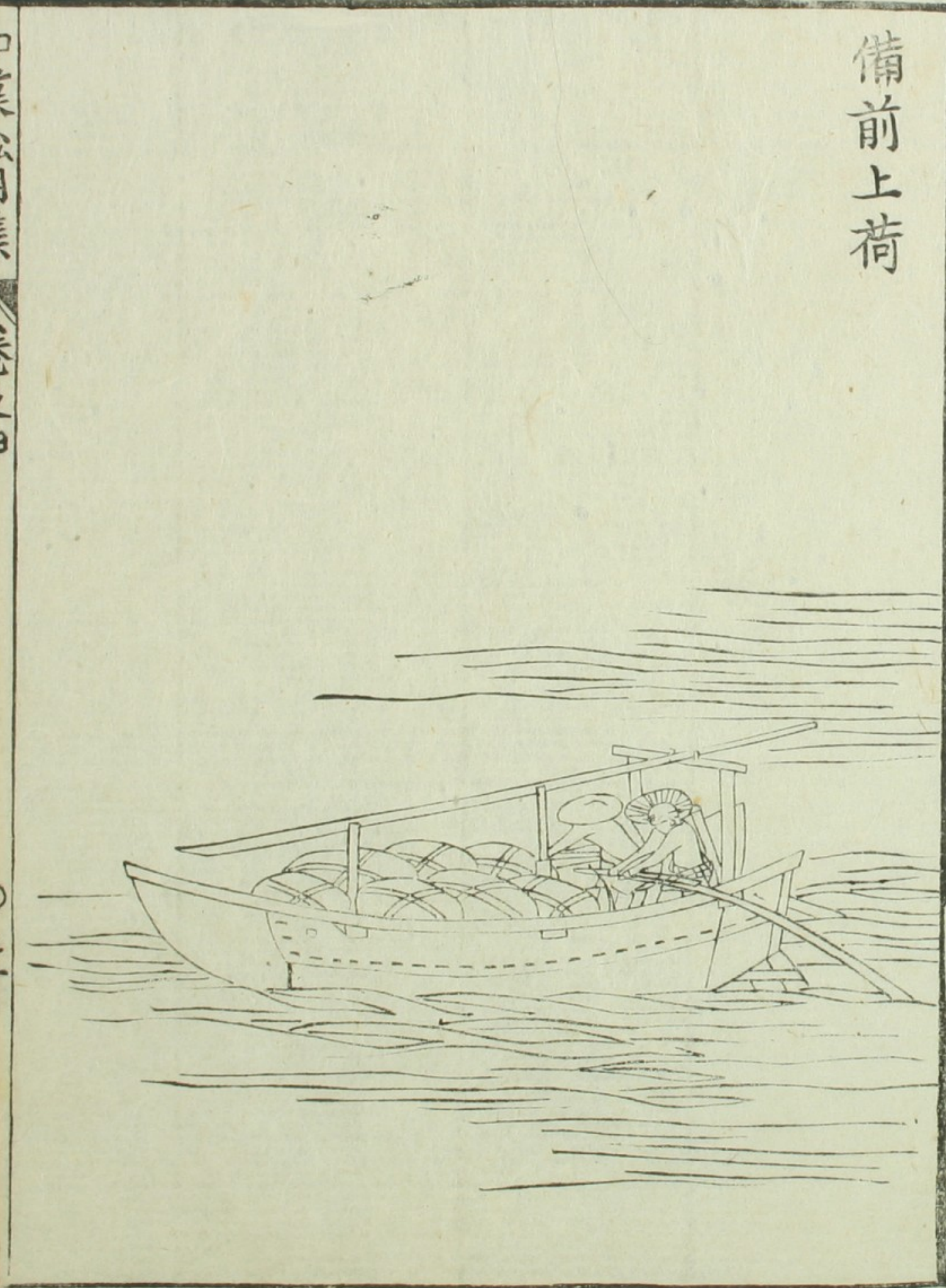
明石舟



和漢圖會
舟船
卷之四

十九

備前上荷



和漢圖會
舟船
卷之四

十九

備前上荷

國名と存者名採石川舟の上荷舟と用いし者なり種は太立を三横上と云ふ今水押舟

備前船

播州名所と存毎は浪花は炭薪を積て来り小船也俗はイヌコロコと云字及その心と云はは播磨と云と存者なり

淡路舟 必名と存者

夫本 淡路舟必名と存者 夫本 淡路舟必名と存者

信濃の浦舟 何れも必名と存

夫本 信濃の浦舟何れも必名と存 夫本 信濃の浦舟何れも必名と存

夫本 ひかりの湊のせとれたてりそや備中よ去依の友舟 夫本 信濃の浦舟何れも必名と存

真然野舟

三州名所と存万葉記は季吟曰みくまの舟とハ然野の本とて造りて舟也けいの本とて

造りて舟ハ風波歌なりと曰死は有とて附記は修りしといり新文より船板多く出せり又川舟は

和歌の浦舟 日國名所と存

夫本 和歌の浦舟 日國名所と存 夫本 和歌の浦舟 日國名所と存

足柄舟

夫本 足柄舟 夫本 足柄舟 夫本 足柄舟

舟の類

といつり方安女之我良乎夫祿とくけりりくくく海舟と
季吟曰是くうきまのといつり又足船山の舟まこと造り
舟と云候て終くと治せり

田子れ浦舟 後名所を呼ぶもの

篠紫舟 九列の舟と云
あきの波立ちくうの根おほし小舟とまふ田子れ浦舟
まふ

松浦舟 船名の名を呼ぶ

経舟 詩の域樸は篇得彼経舟丞徒揖之注経水名といふ名を呼ぶ
續古今 さいよて地はくくわくまうく舟格者道と云はやくくも
人丸

淮舟 三舟船は淮舟倚岸停是名を呼ぶ者

越船 小船也淮南子曰越船蜀船不能無水而浮國名を呼ぶ者

蜀船 小船也といふくくく國名を呼ぶ者

梁麗 莊子曰梁麗可以衝城司馬彪注曰麗小船也梁麗國の名なり

吳船 張揖桿蒼子曰吳の船也といふくく國名を呼ぶ者
王榮荀或のためは孫權はつくく檣文は曰昨令將師

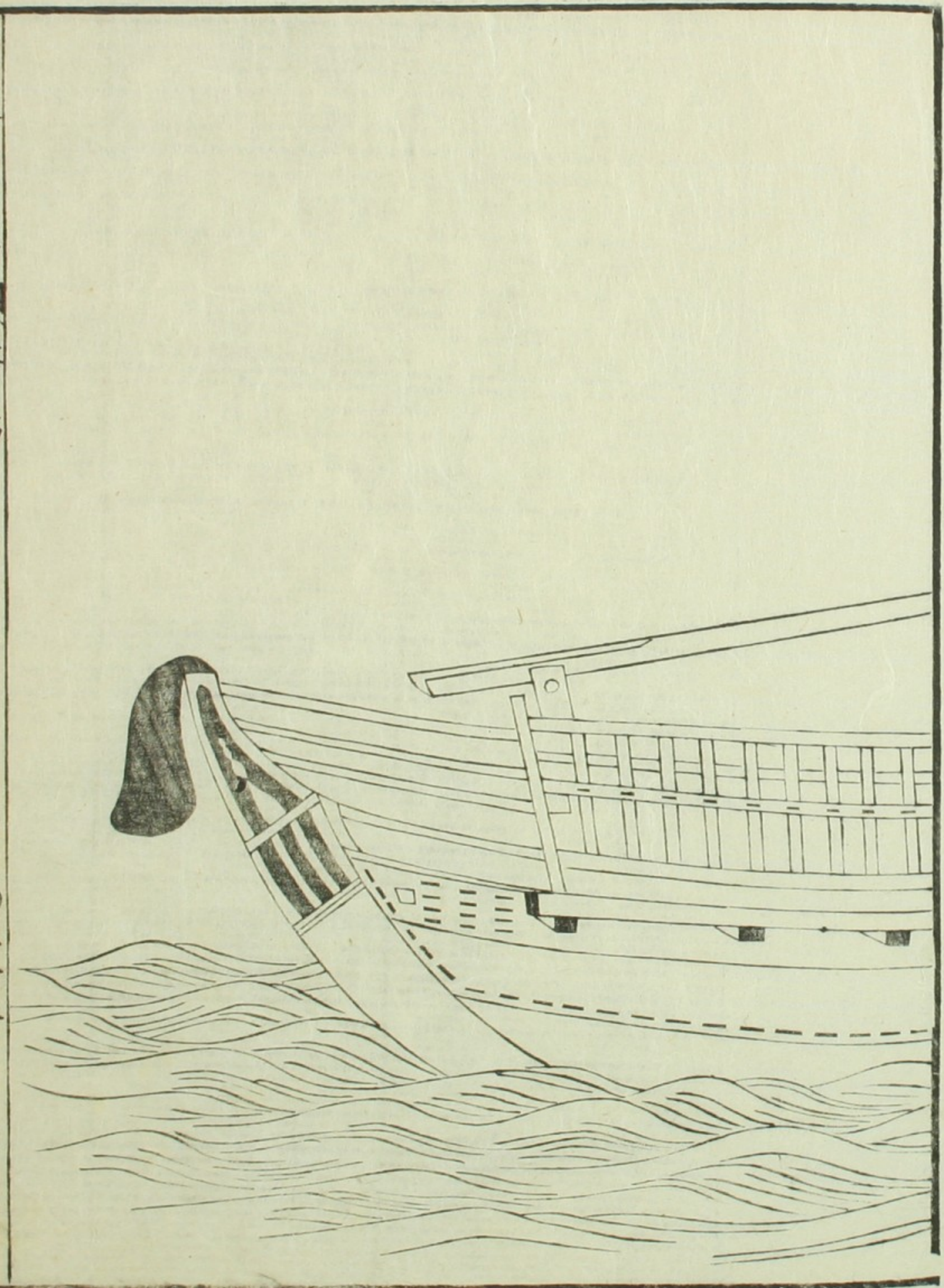
渤海舟 戦士就渤海七八里演習舟楫

豫章艦 豫章八処の名其例の城下西南よまこと百餘里よ
艦艦大艦を呼ぶれくくく又軍船の終り入

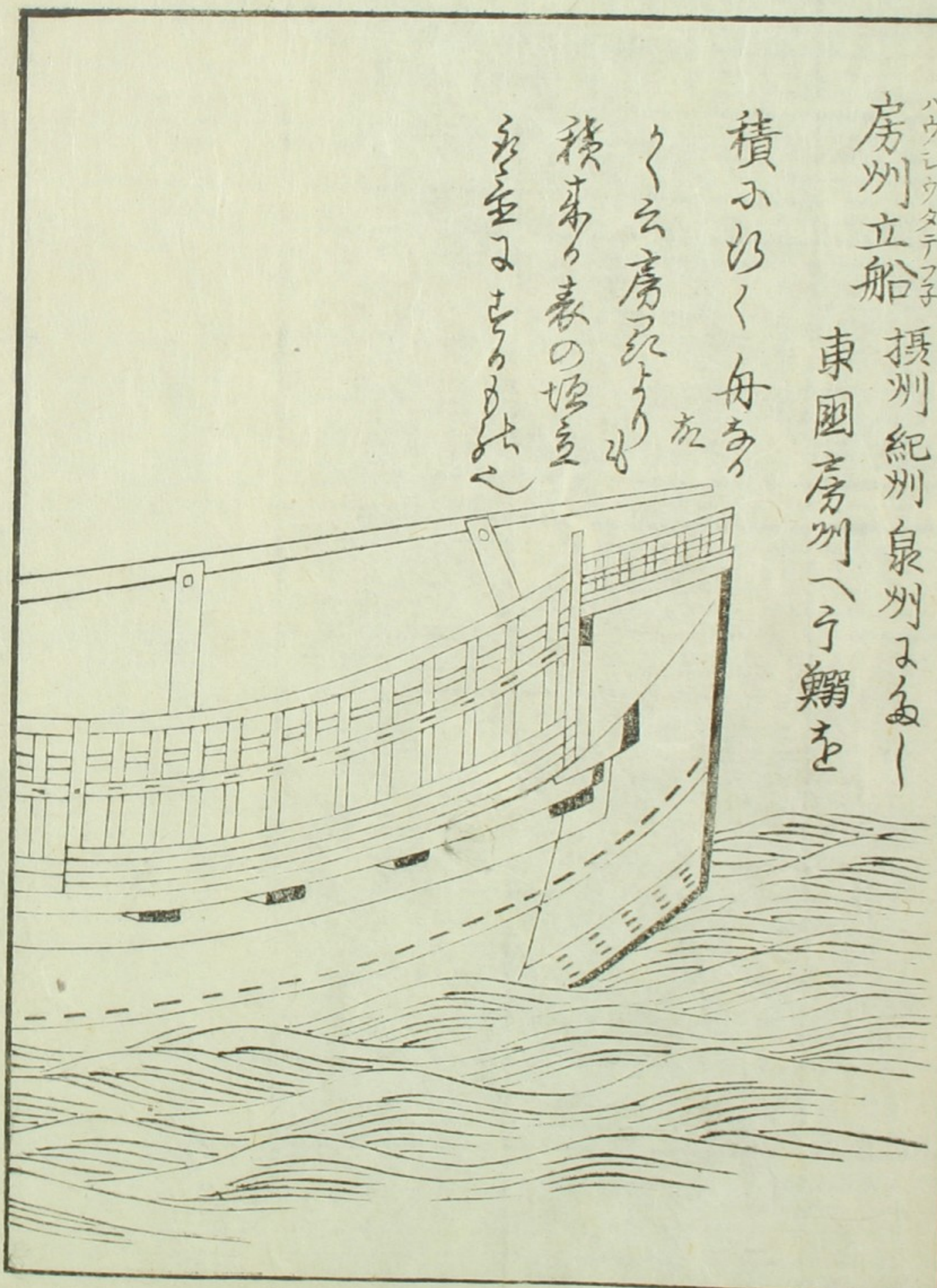
相洲大船 荊州紀は曰湘州七郡大艦と出れ皆萬斛を受といふ
經かよまは漢の所名を呼ぶ者

對列糸船 對馬の國の舟於群の糸船を積の名なり

口是定公用集



和漢公用集 卷之四



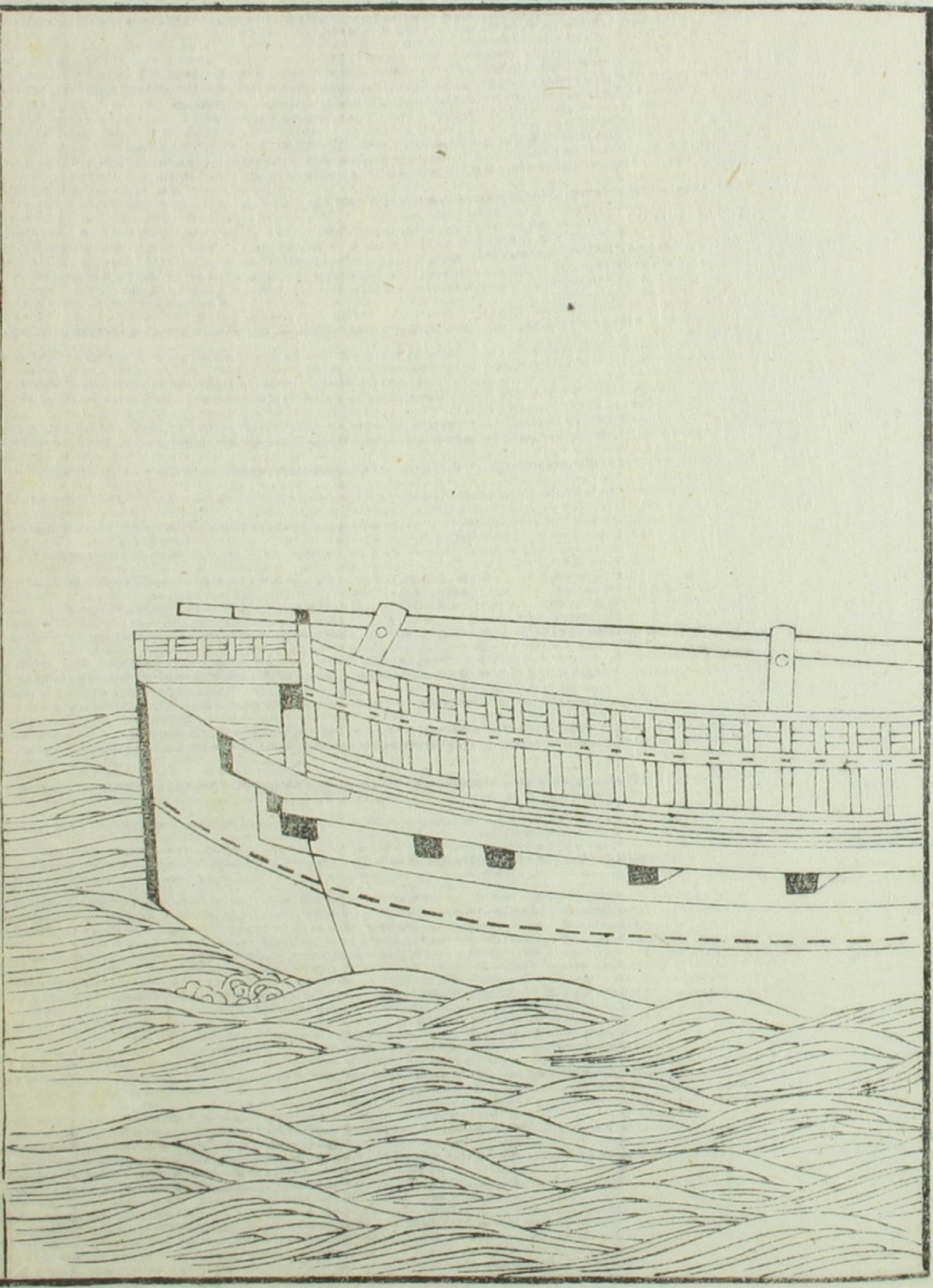
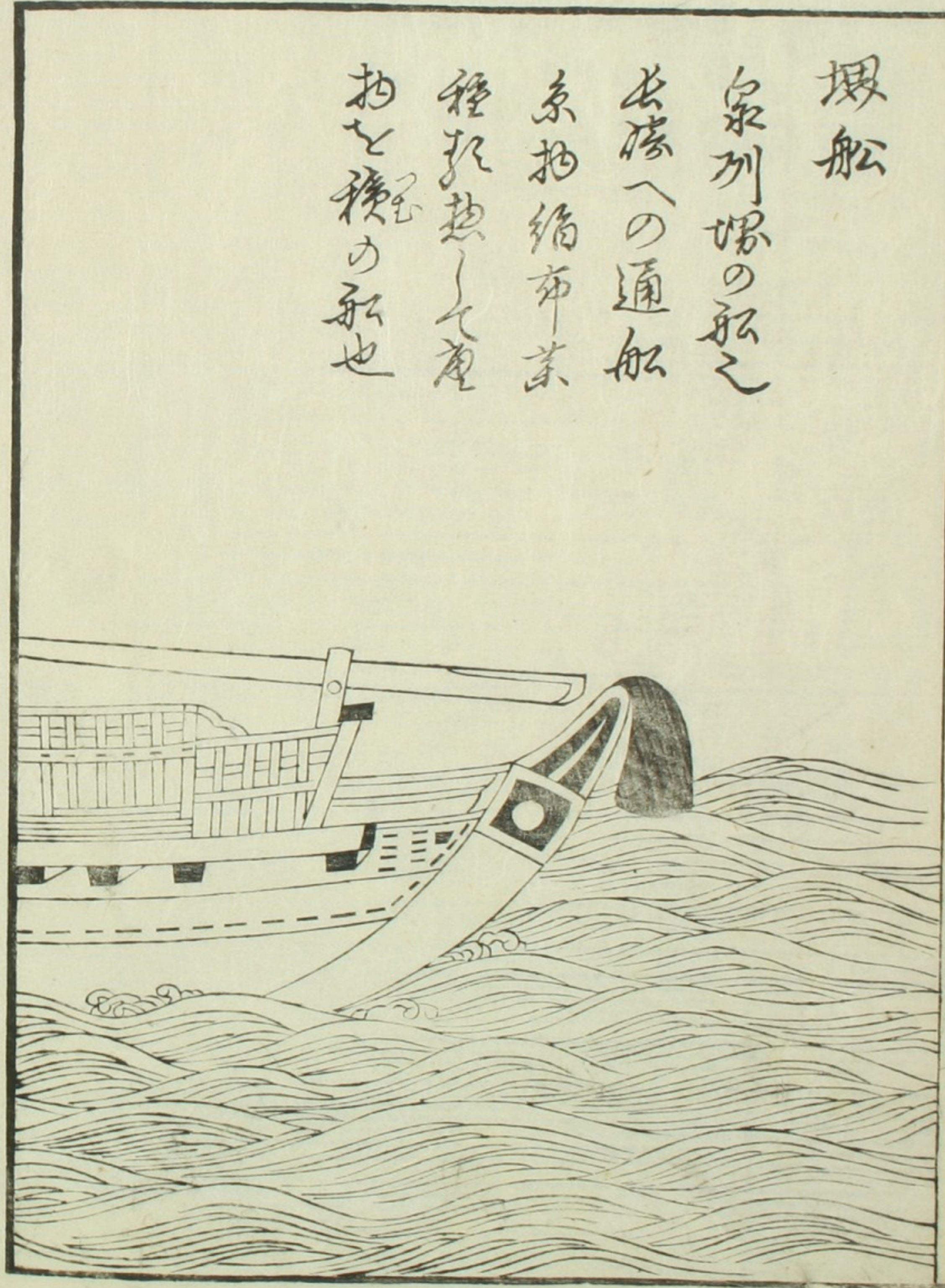
ハウレウタテ子
 房州立船 攝州紀州泉州より
 東國房州へ予鱈を
 積ふはく舟あり
 く云房取より
 積ふる表の垣立
 舟をよさるるよし

和漢公用集 卷之四

三十一

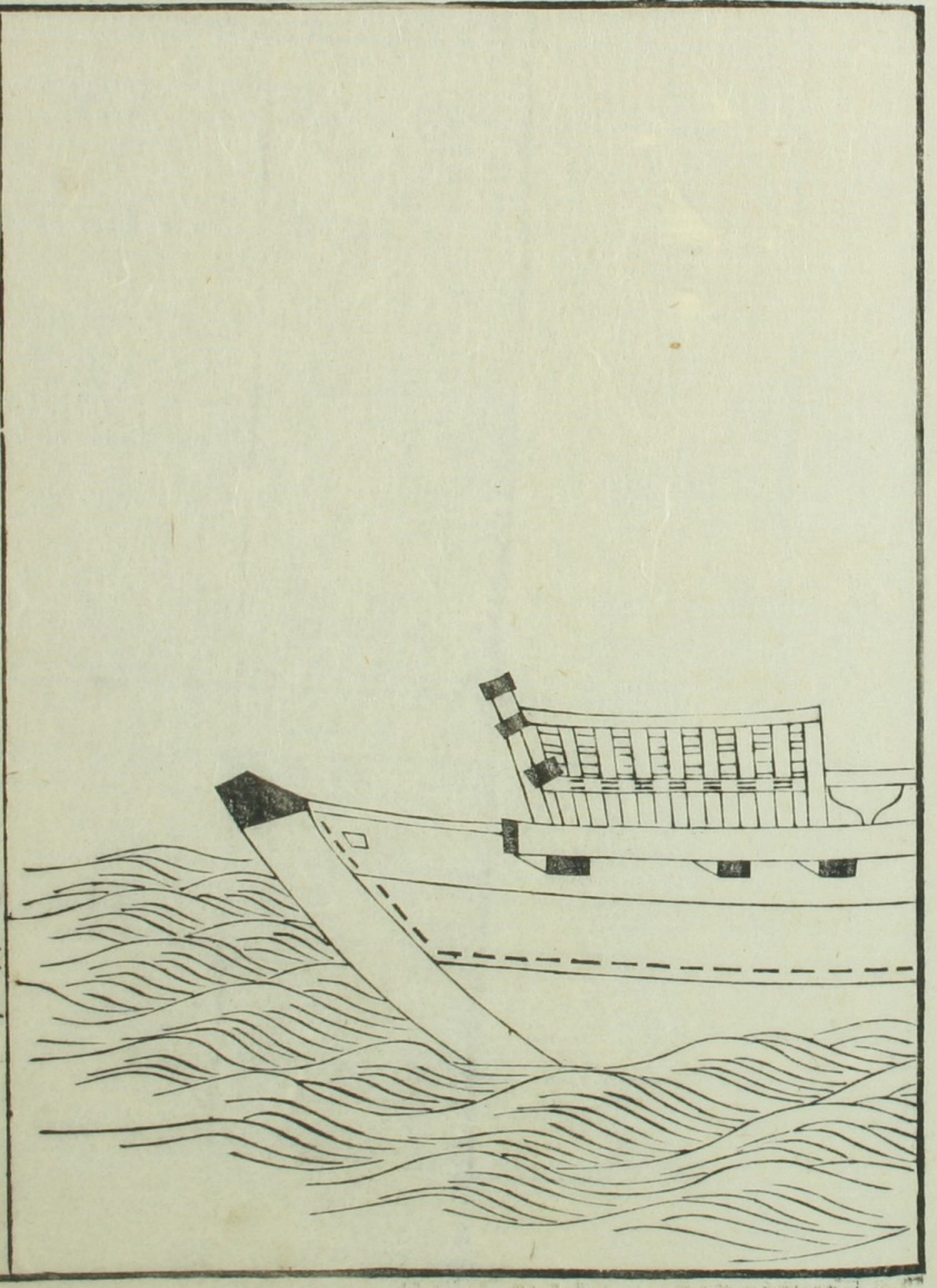
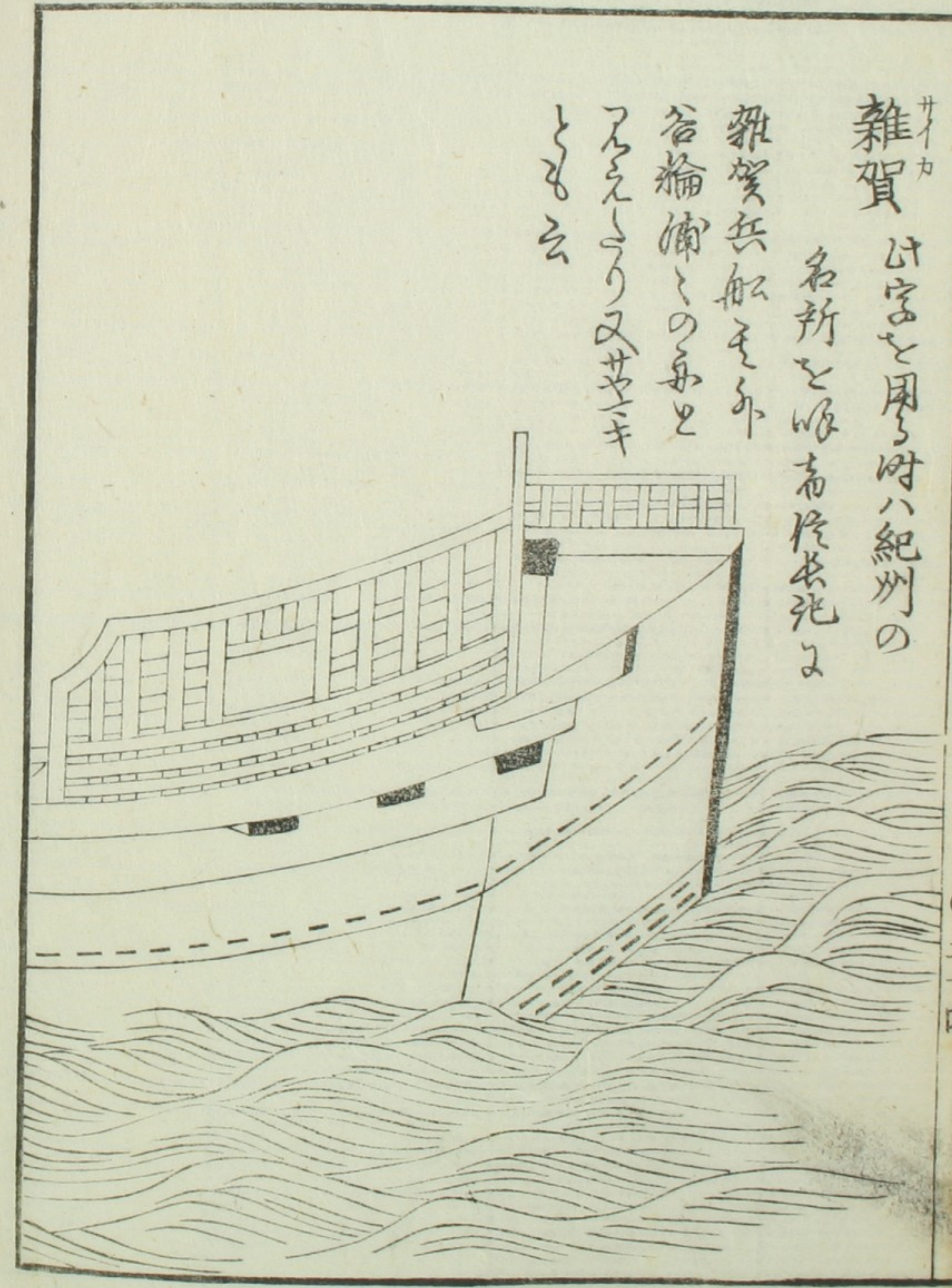
堰船

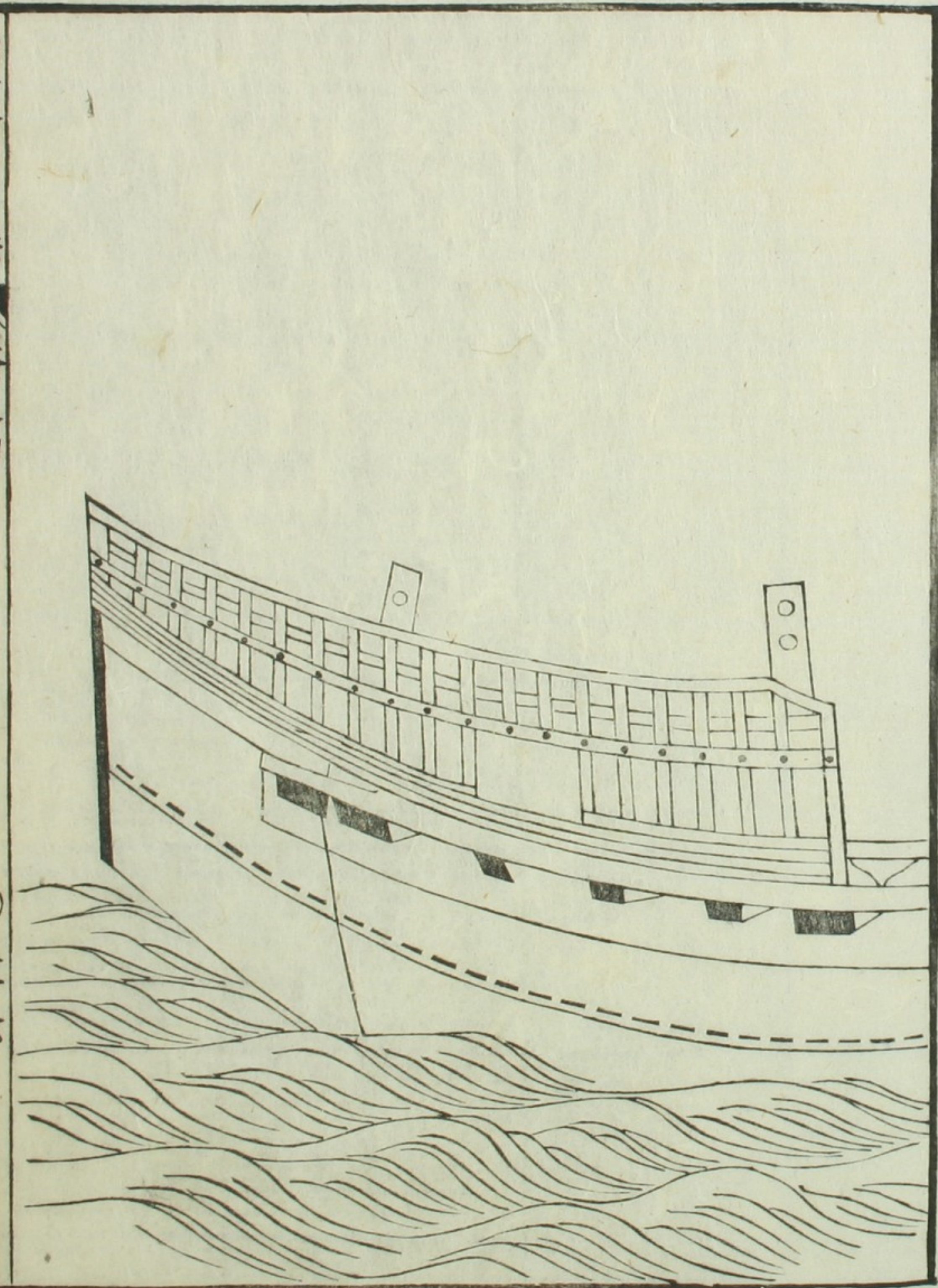
泉列堰の船之
長崎への通船
糸掛縮布菜
種取熱くて産
おと積の船也



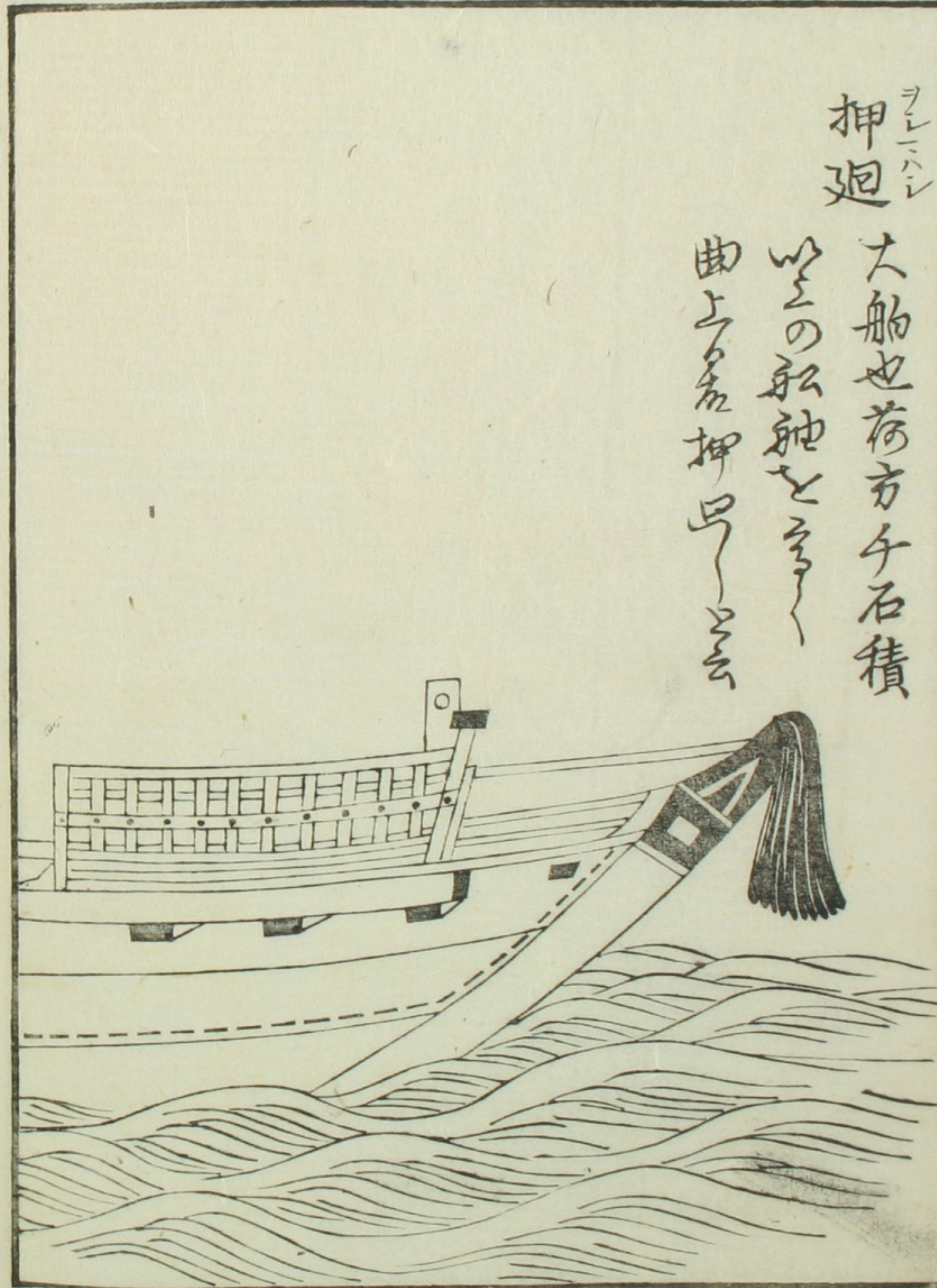
雜賀

サイカ
け字を用ふ時ハ紀州の
名所と呼ぶ者於此
雜賀兵船を以
各輪浦との舟と
アラスカより又サキ
とも云





口
舟
の
形
也
舟
の
形
也
舟
の
形
也



舟
の
形
也
舟
の
形
也
舟
の
形
也

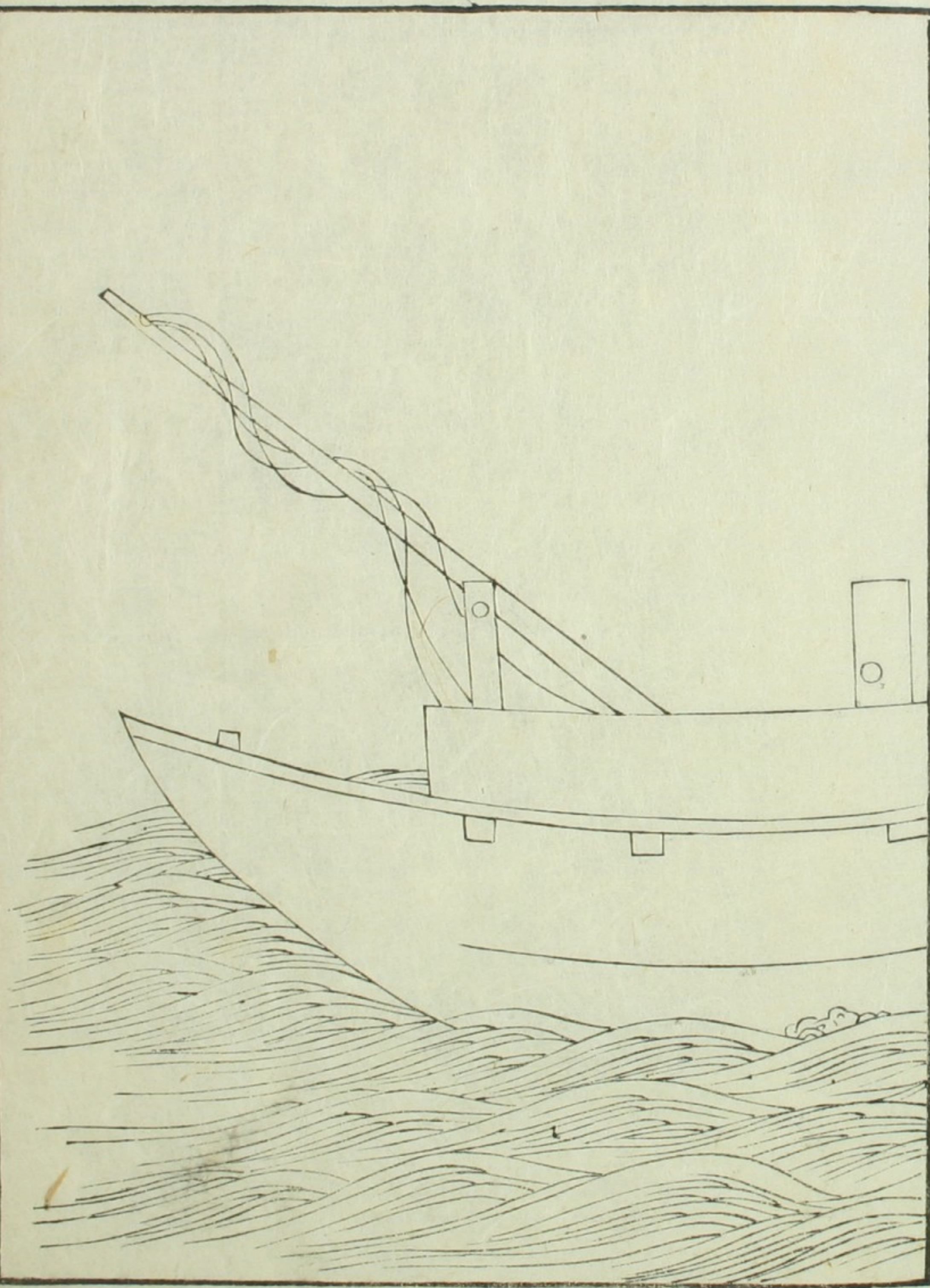
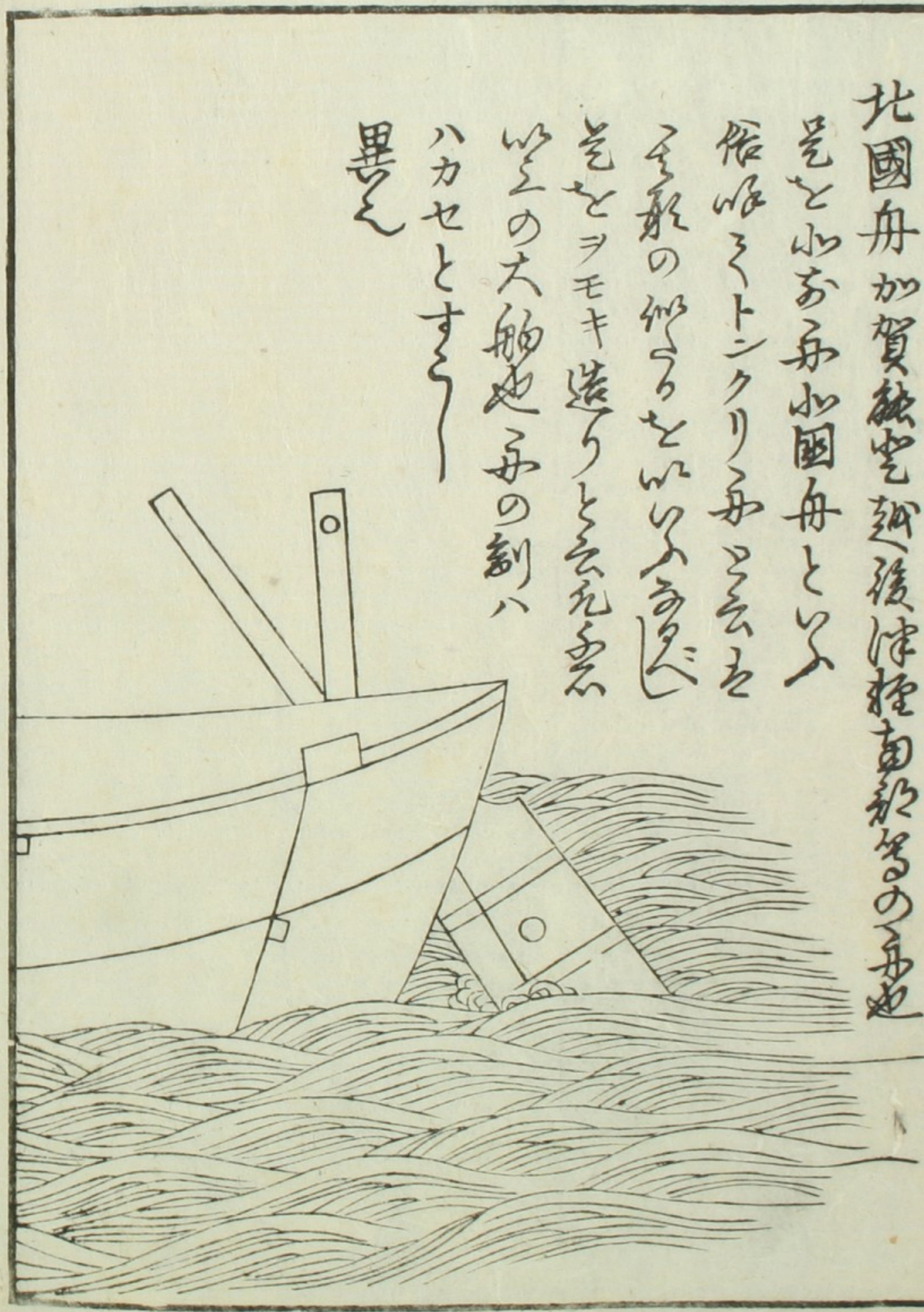
押廻

大船也荷方千石積

此の船軸をまわす

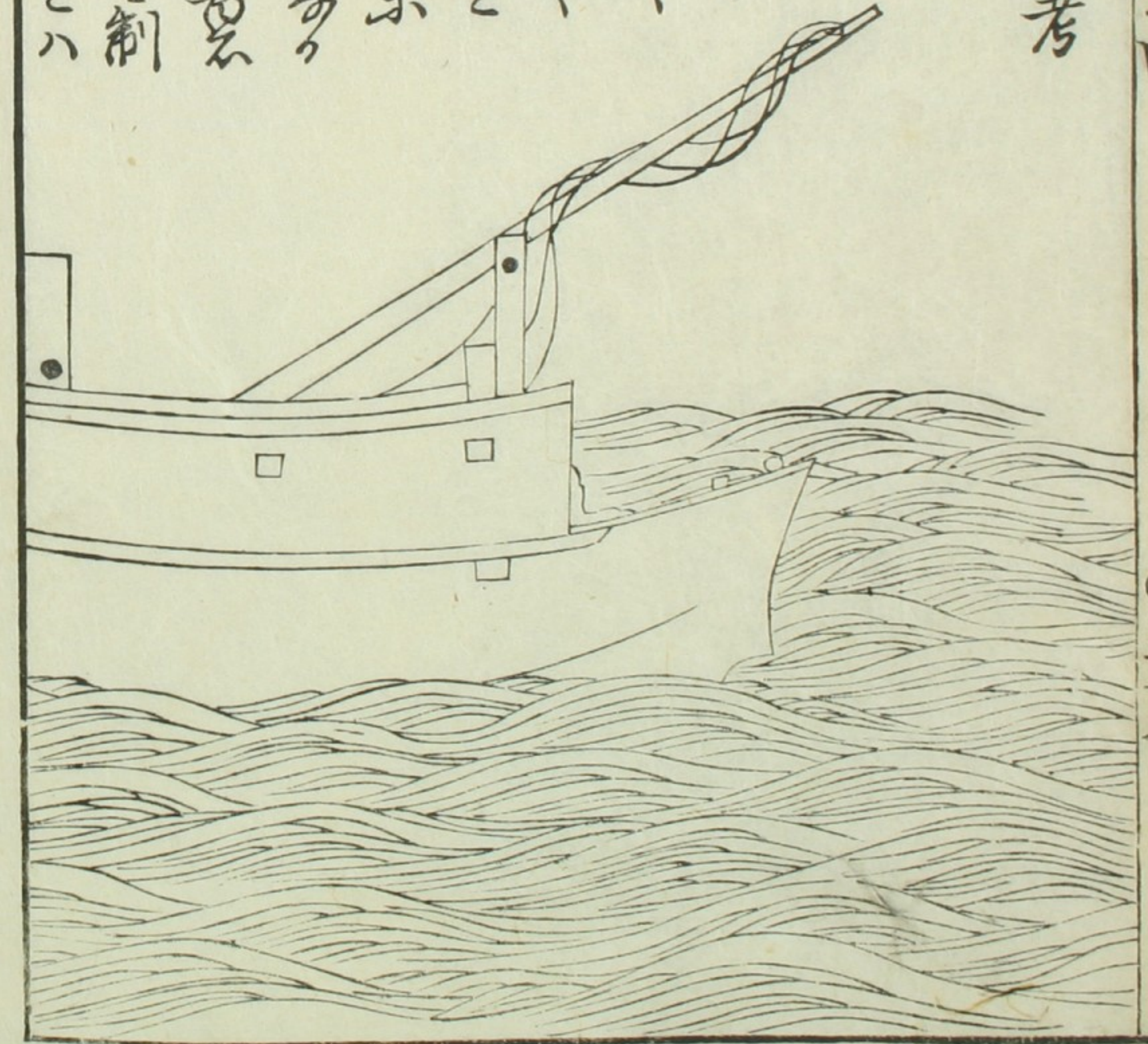
曲より舟押す

北國舟が賀越堂越後津控南船等の舟也
是と云ふ舟は國舟といふ
依りてトシクリ舟と云ふ
其船の形をいひしるは
是と云ふモキ造りと云ふ
此の大船也舟の割ハ
ハカセとす

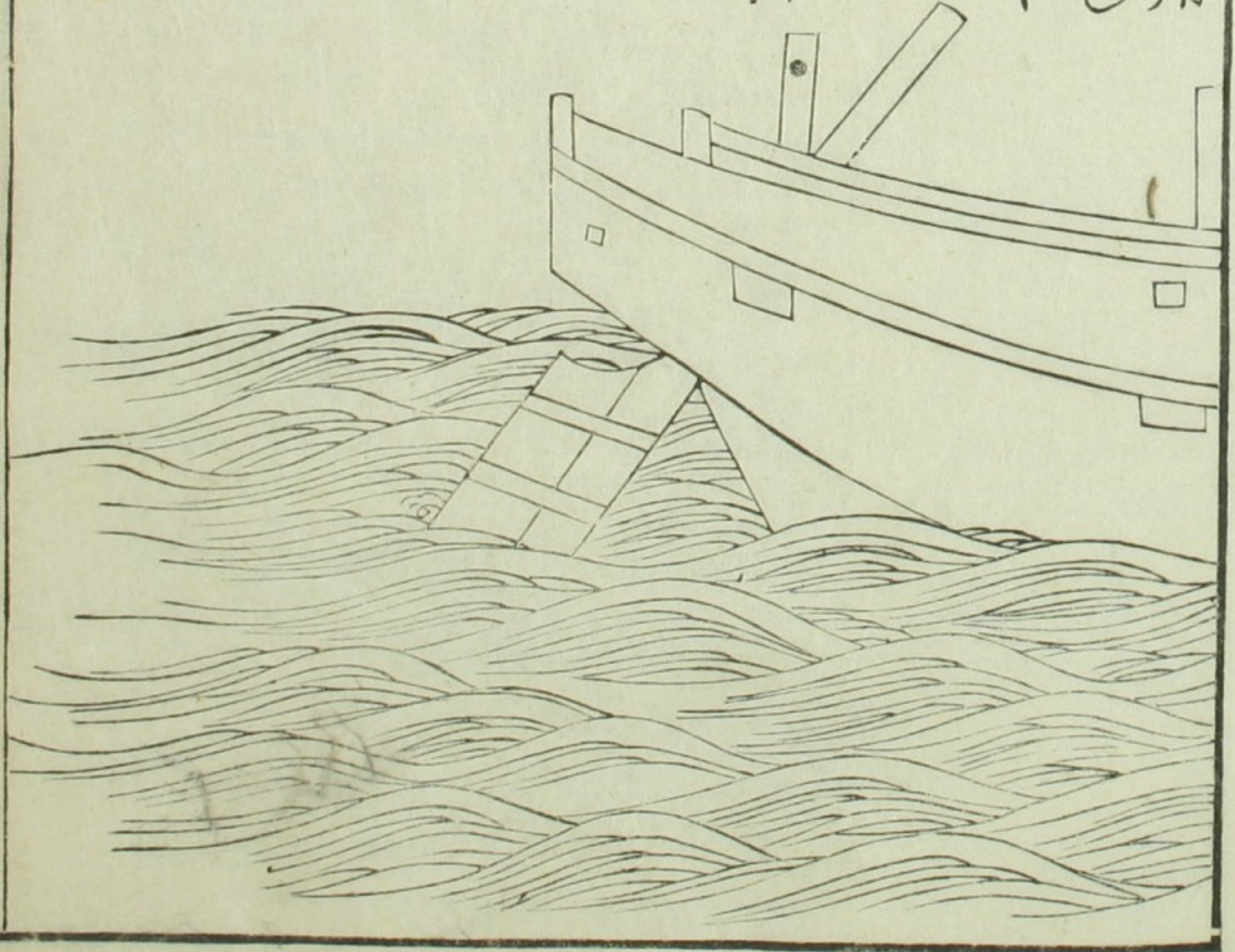


ハカセ 字未考

越ふ舟
俗ハカセ
ハ舢の形多
羽のひの
あまよ
云う又ウツ
線すも
へし七
後舟
たの海舟



各舟
川舟
水押
香垣
の上
表の
ろく



朱波船集 卷之四

一廿 字未考

獨素船也

是又か架船也

丹波船也乃

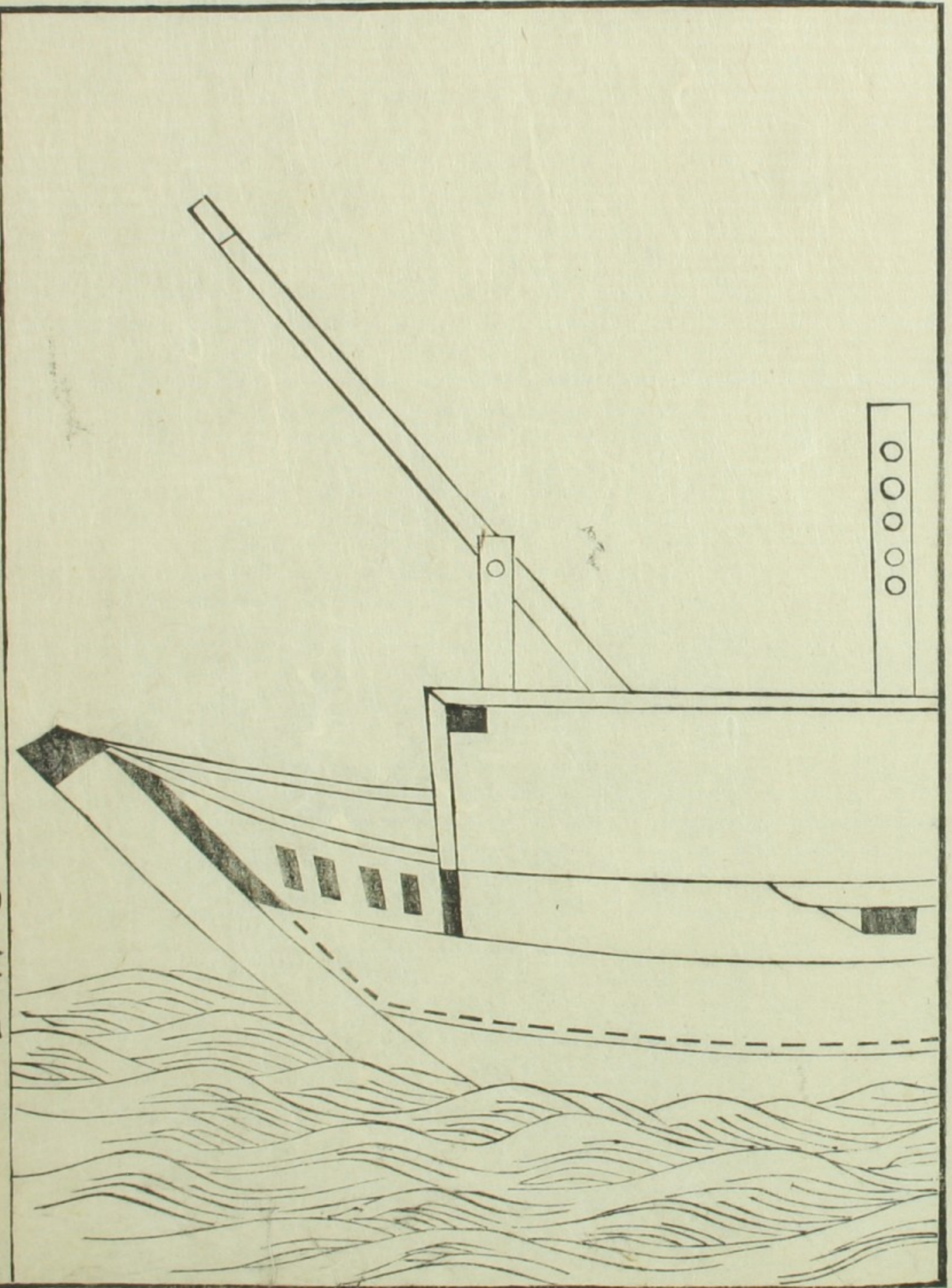
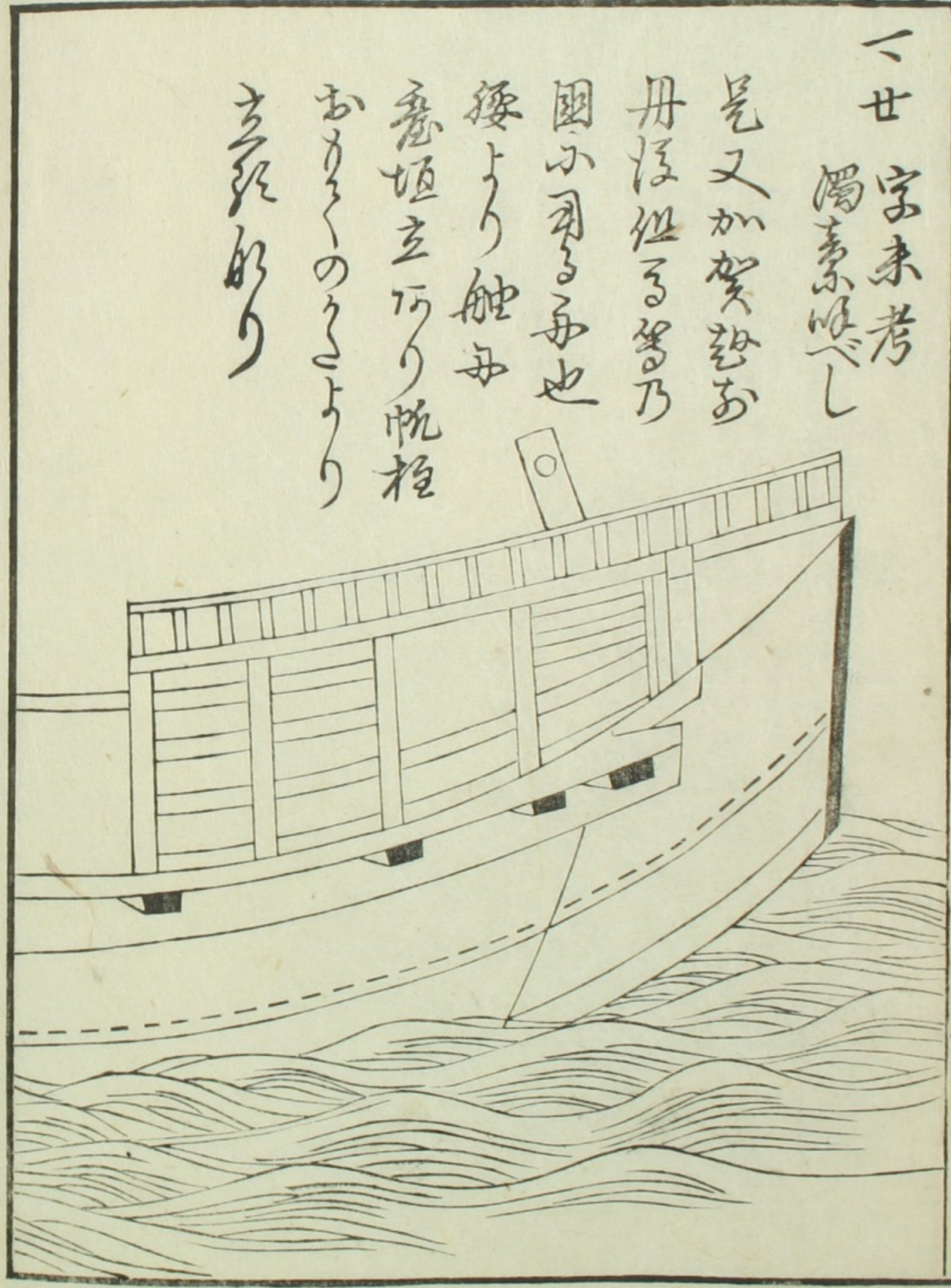
國小司る舟也

後より船也

悉垣立り帆柱

ありくのこより

まはり

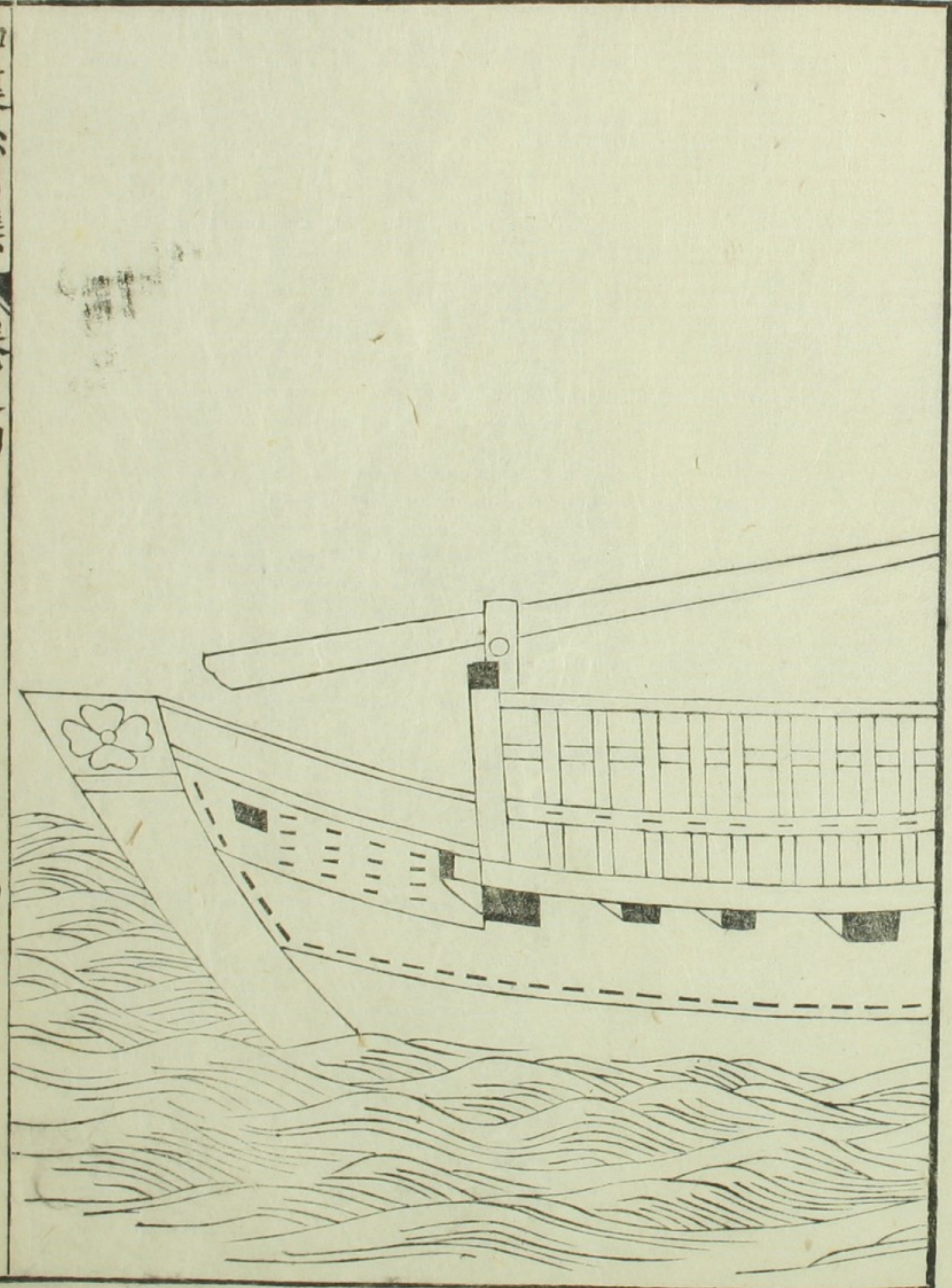
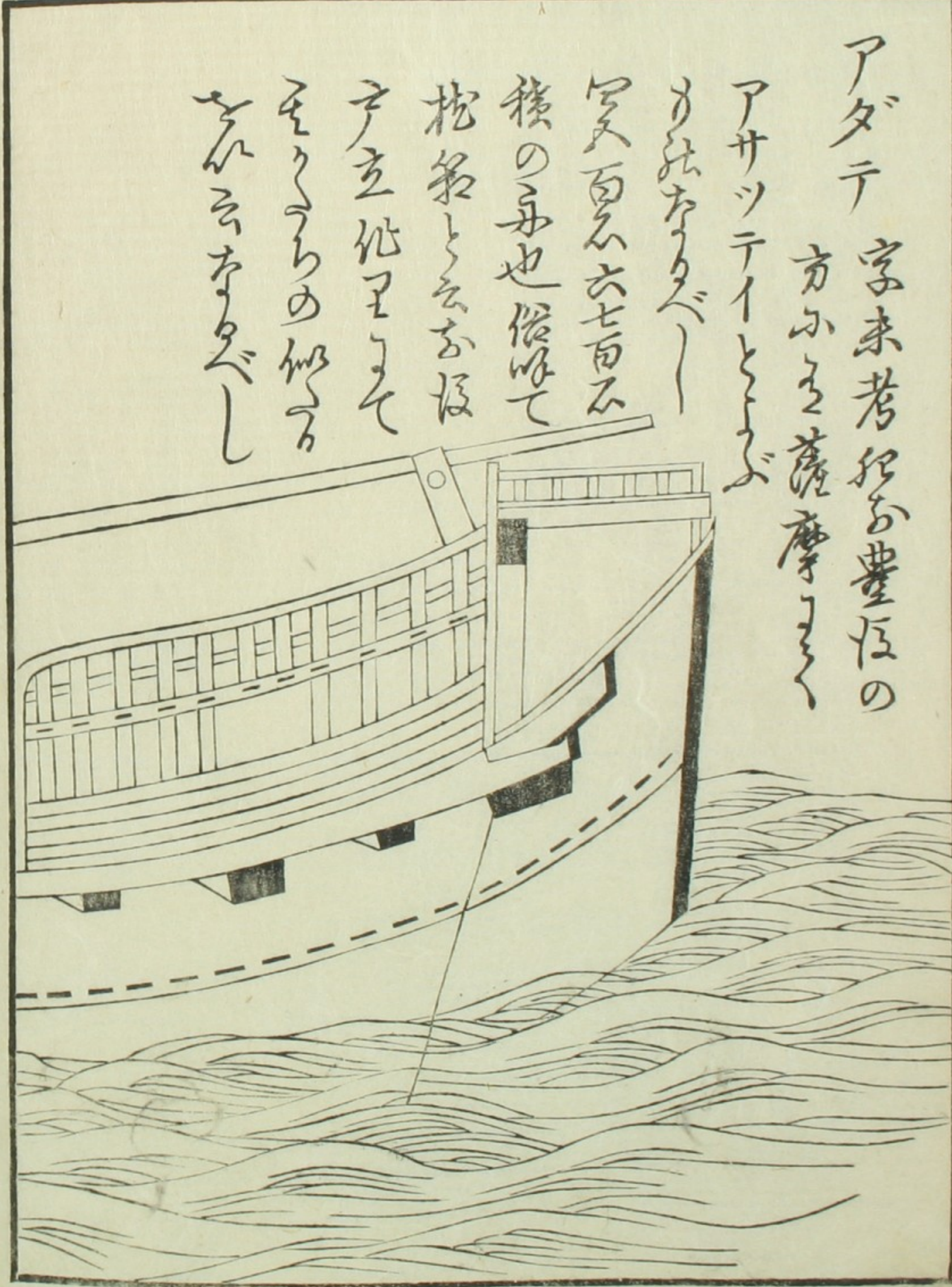


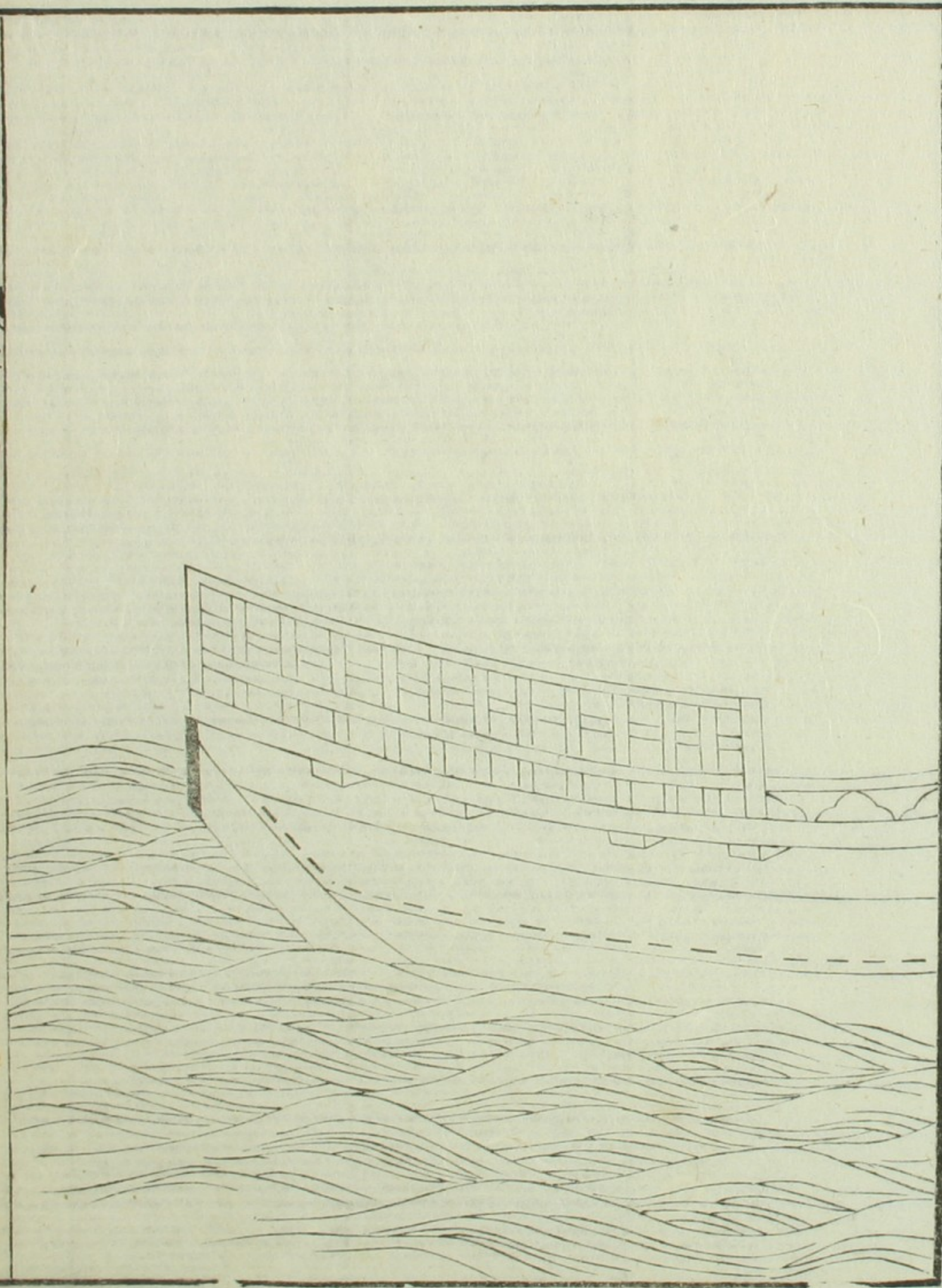
朱波船集 卷之四

三十九

アダテ 字未考船を豊後の方ふる薩摩より

アサツテイとてふ
り法ありて
其長六七十
後の舟也俗
名とてふ
戸立化王
そくうら
をふ云





二形

舟形

舟形何國と

字りしるしと

東國と海ふ

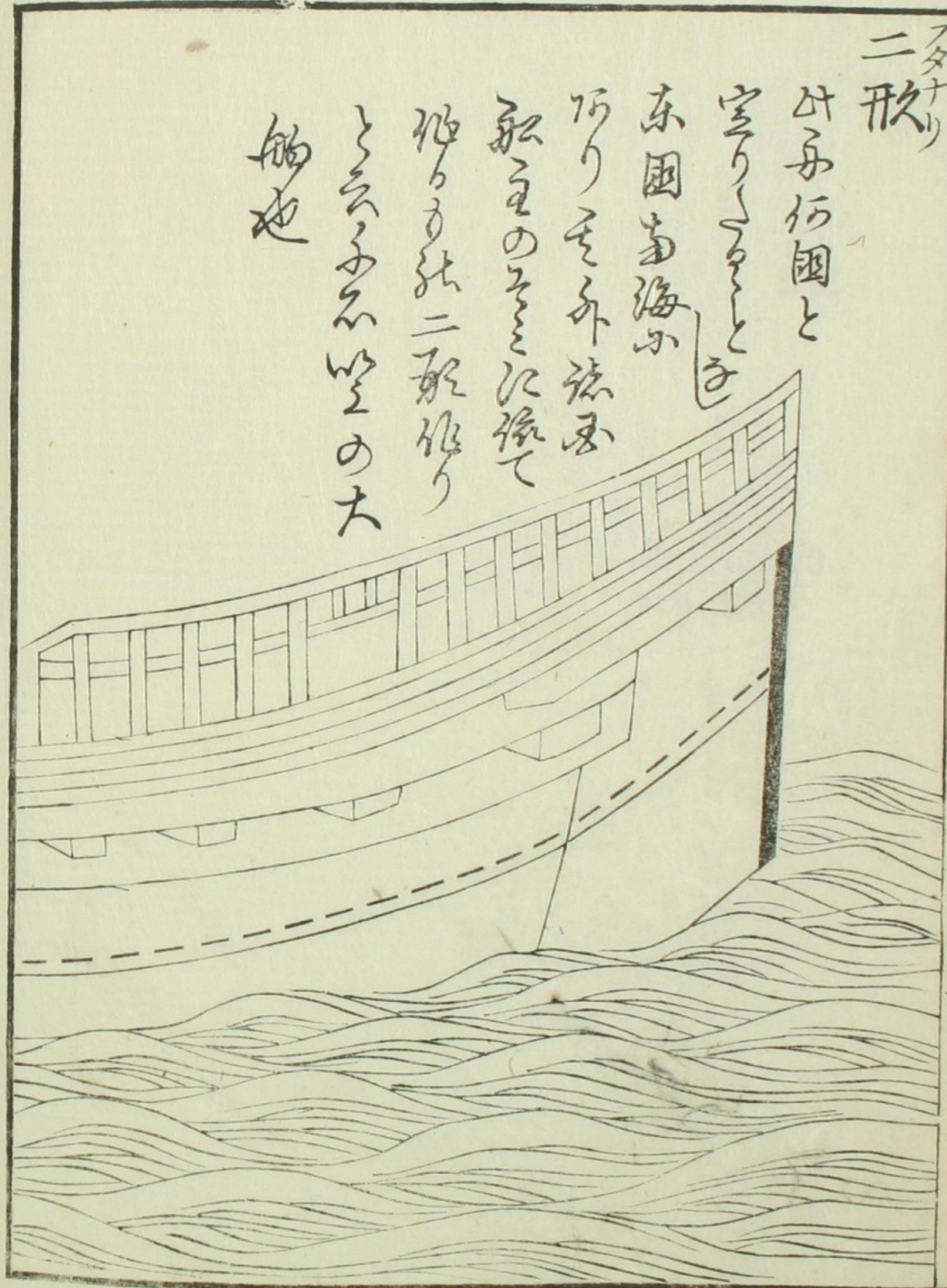
所りそ舟形と

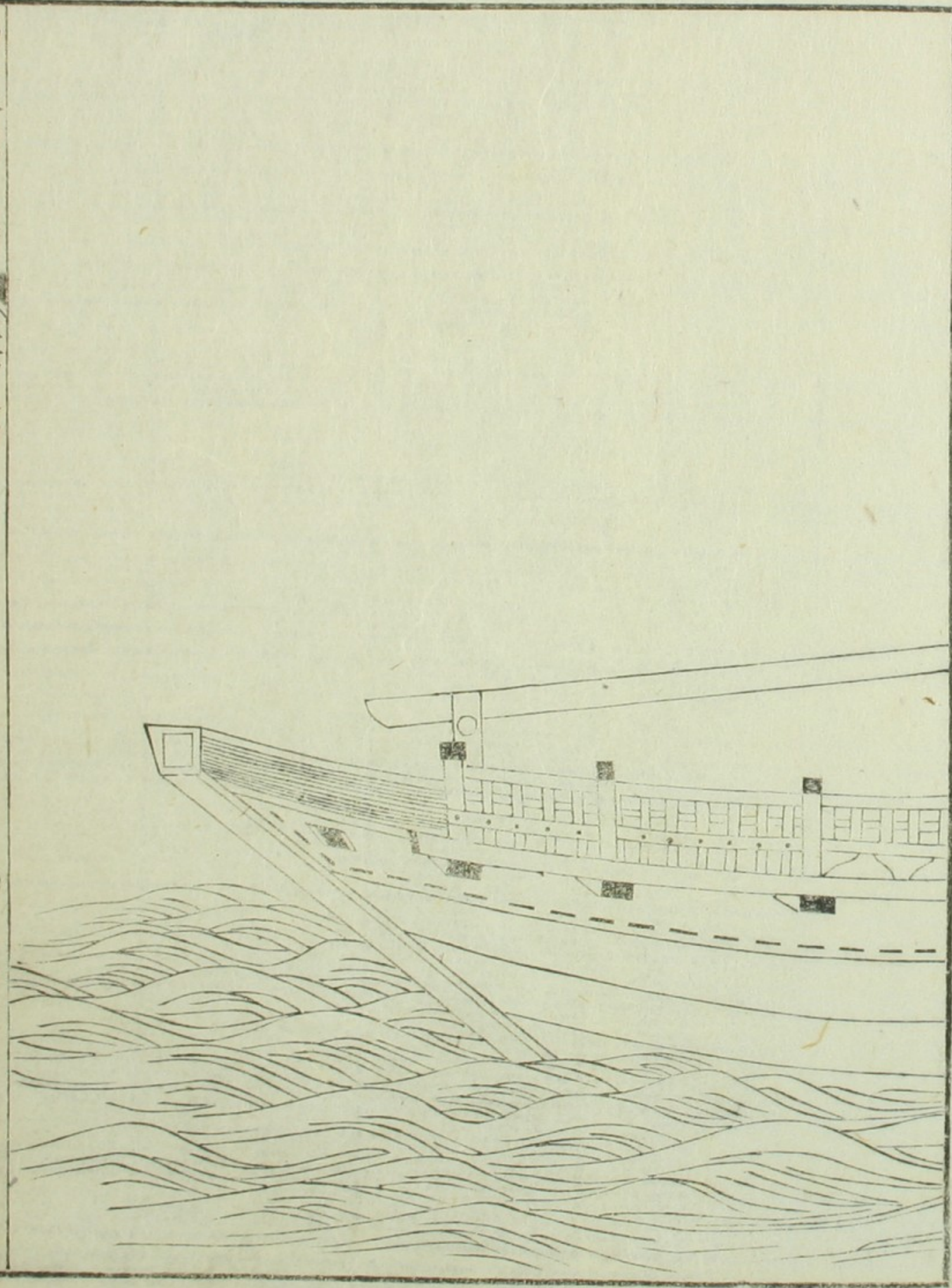
船のそとに後て

作りしは二形作り

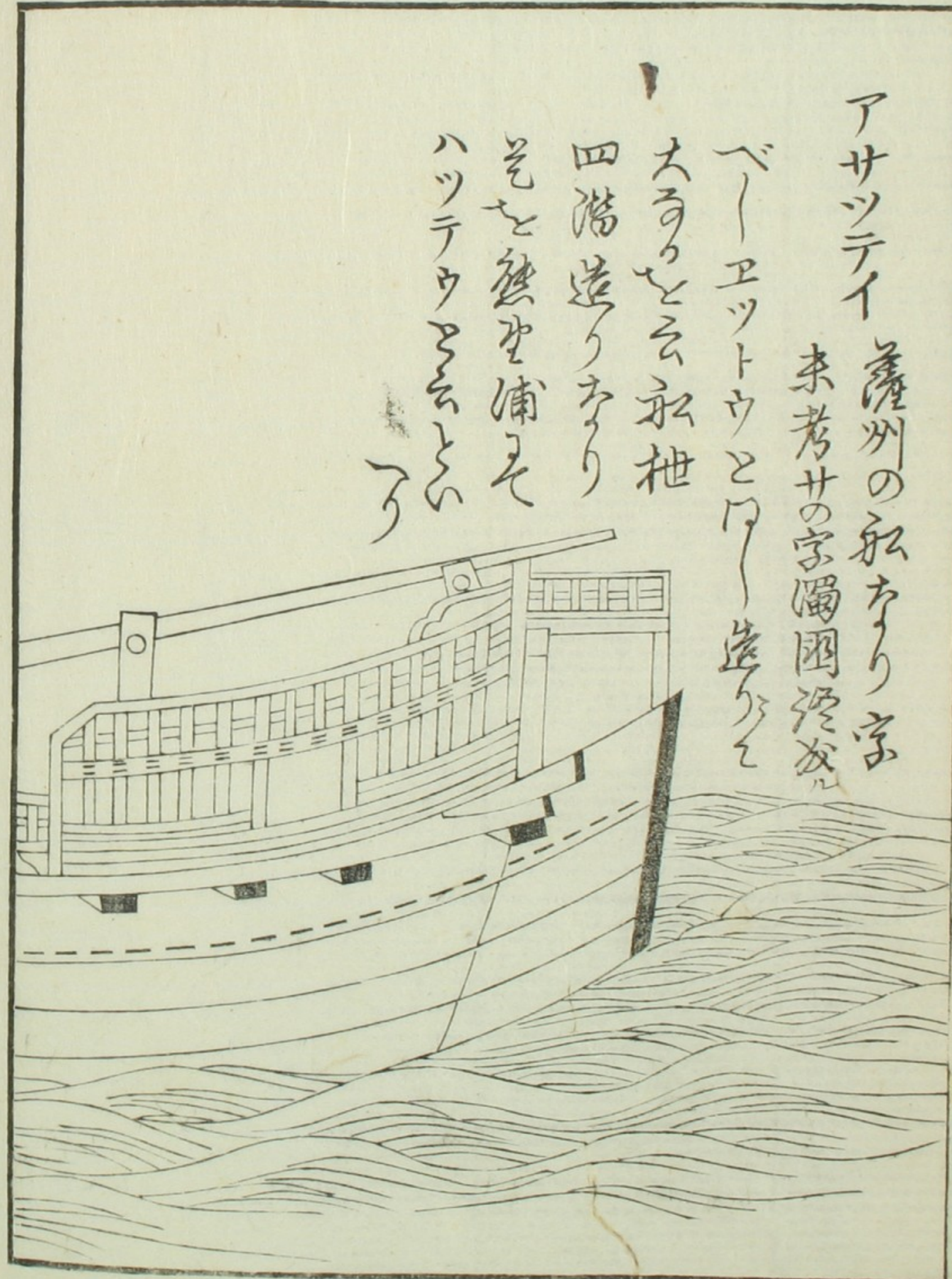
と云ふふん望の大

船也





アサツテイ 薩州の舩なり字
 未考サの字濁國終ぬ
 ベーエツトウとワ 造る
 大るくと云舩也
 四階造りなり
 毛を船を浦を
 ハツテウと云とい
 たり



任那船 本朝へ異國舟來て入貢の初也崇神天皇六十四

年任那國より額小南阿人船來てきて首領は浦小

來る之所を角麻と名付今越前の敦賀なり是

本朝異國船の來始也それより泉州堺筑前の博多紀

伊平戸小東の今同國者船は毎年入貢の度船數多し

皆高船なり姓古く本朝より遣唐使の舟より唐使

入貢の船あり西川氏曰遠くは唐海りと号して唐より

東京交趾東埔塞暹羅等は法國より渡海せしなり

その船は京場者船の所人也百年以前より和漢通商

舟中なりし所信尼利亞以西巴命亞阿媽港呂宋等乃

船より切支丹宗門と云ふは舟中永十三年以來

蠻船入港と云ふは海にせしは日本より異國に渡海

せしは禁せしむるなり

新羅船 日本紀曰推古天皇三十一年磐金等渡新

羅之日比及津莊船一艘迎於海浦磐金問

曰是者何國迎船對曰新羅船也磐金亦曰曷無任

那之迎船即時更為任那加一船其新羅以迎船二

艘始于是時と云ふは三井寺に

新羅の神の續たまふなり

續々

かゝるは其のふとくはありてをくはは

百濟舟 ハクサイ 日本紀曰孝德天皇白雉元年是歲漢山

口直大口奉詔刻千佛像遣倭直縣白

髮部連鎧難波吉士胡床於安藝國使造

百濟船二隻

類記 我國の海貢を多へく年毎に今も百濟の船をたぐせぬ 女房

高麗船 コウライ 日本紀曰敏達天皇二年夏五月高麗使

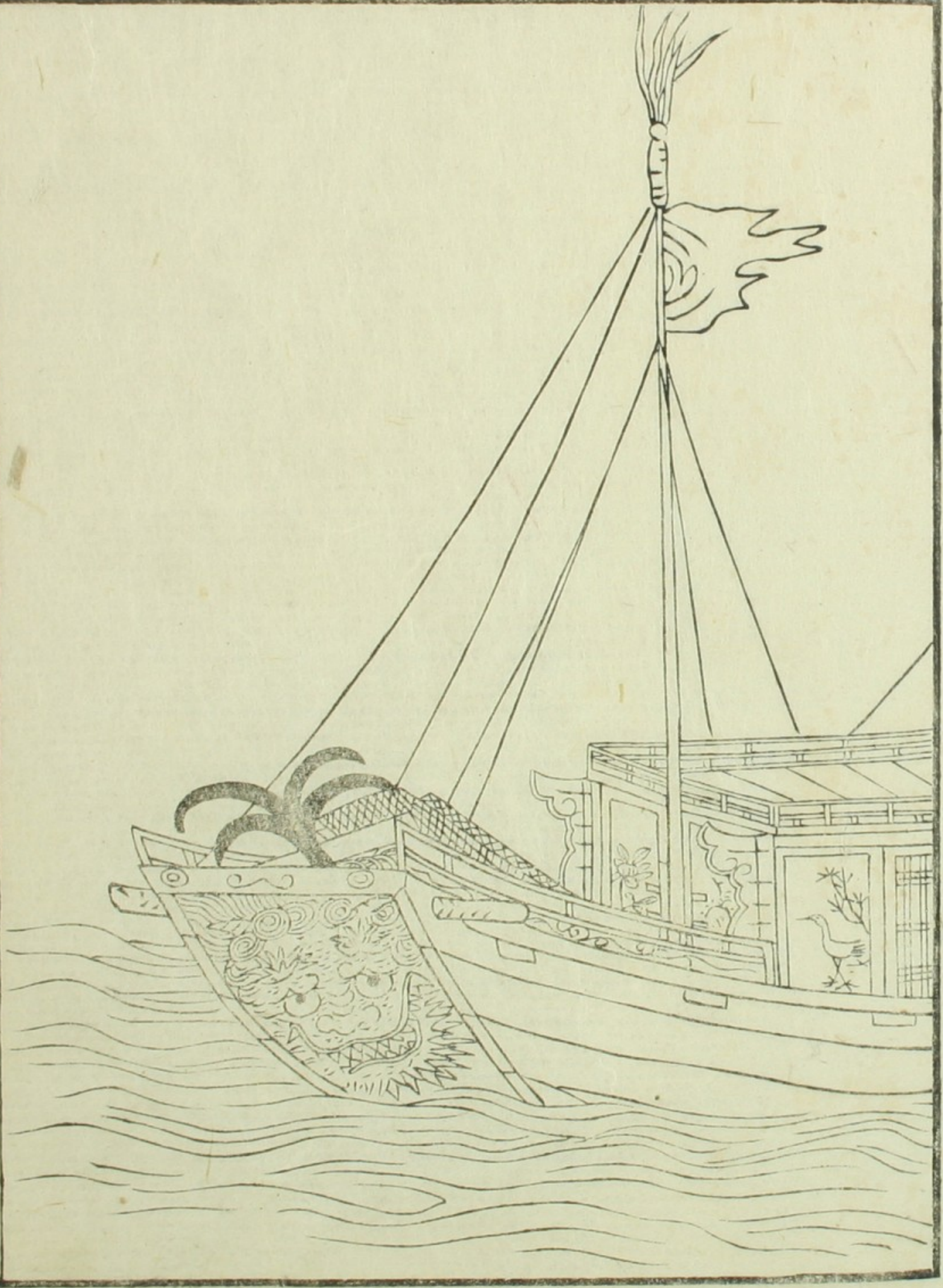
人越海破船と云へり以上新羅百濟高麗を

らひは任那國耽羅國も今朝鮮一統と稱せり

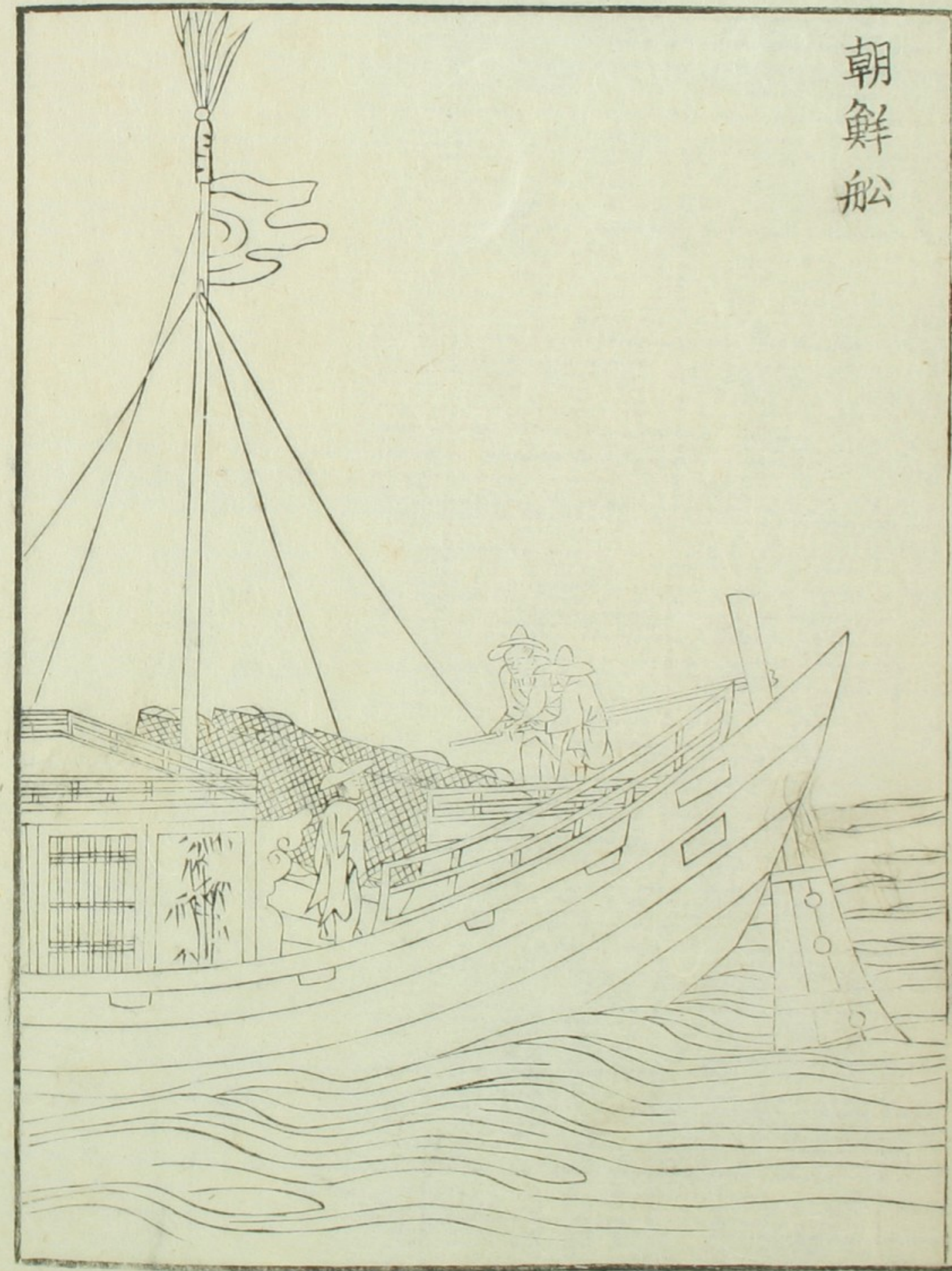
朝鮮船 チヤウセン 未詳の舟なり採別浪花まで云迄本津川

口尻を川に繋ぎたり其舟の制厚き板を舟一面より
手うちにはちきりして下れ板舟へあまりのちきり板と
縁してかき板を板毎に船梁をわけて板は船の
より船の手へ舟よりしりしりして舟の
押はさ板は又六板丸くちきり合せ鬼の面を画たり
舳ハさくしして二重を立たり蓋ありしりかき
たのちを一編より舳までとあり帆ハ二棧を用
船の大サ目本れみち丁六丁立の大サ也船の船中固乃
ハカセ舟は船より舵ハさく立は完をわけ舟本の底を海
屋形舟を以て忍く船松の本を以てつらう彩画を
よま藤あり

朝鮮船

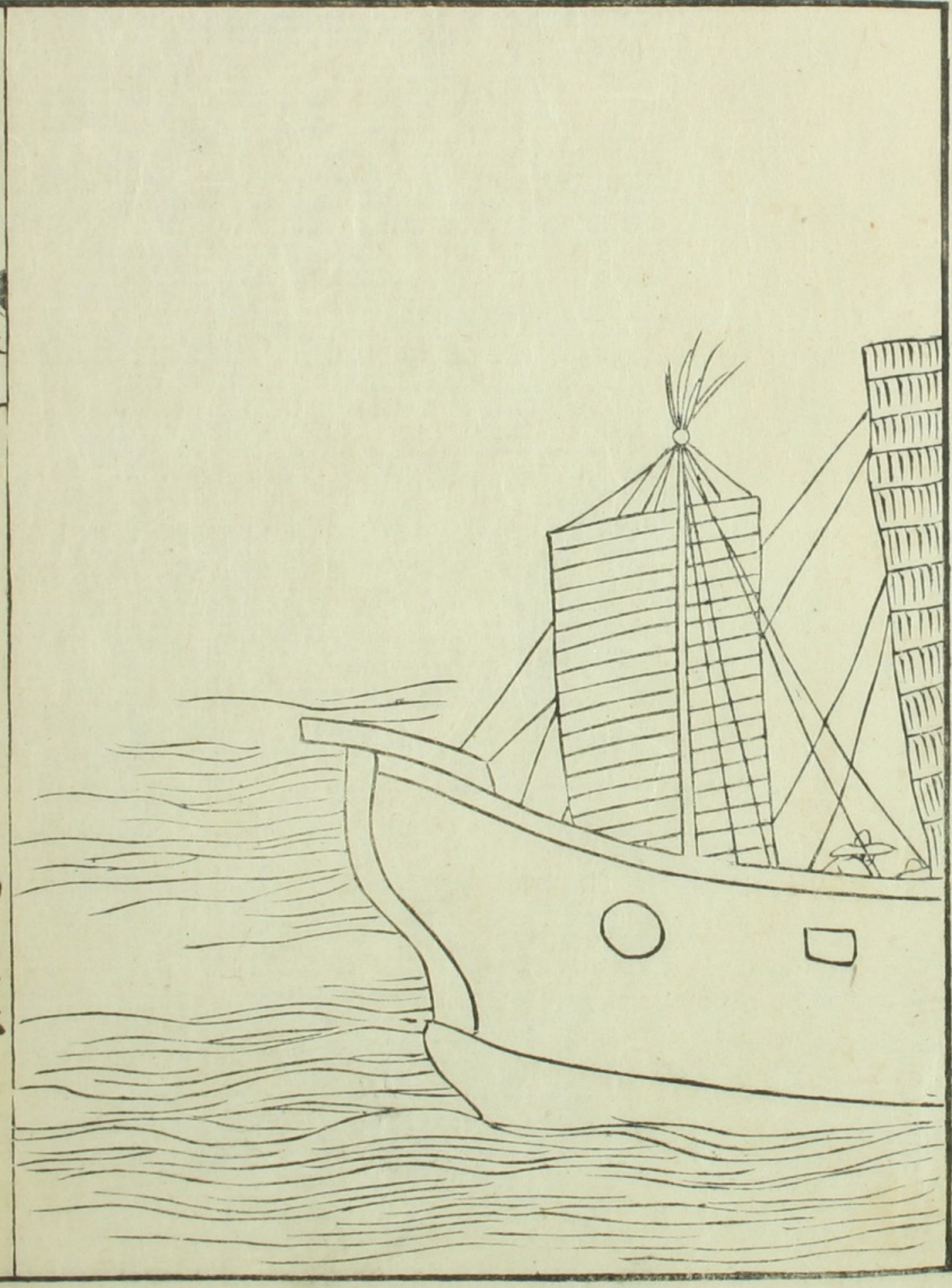


朝鮮船

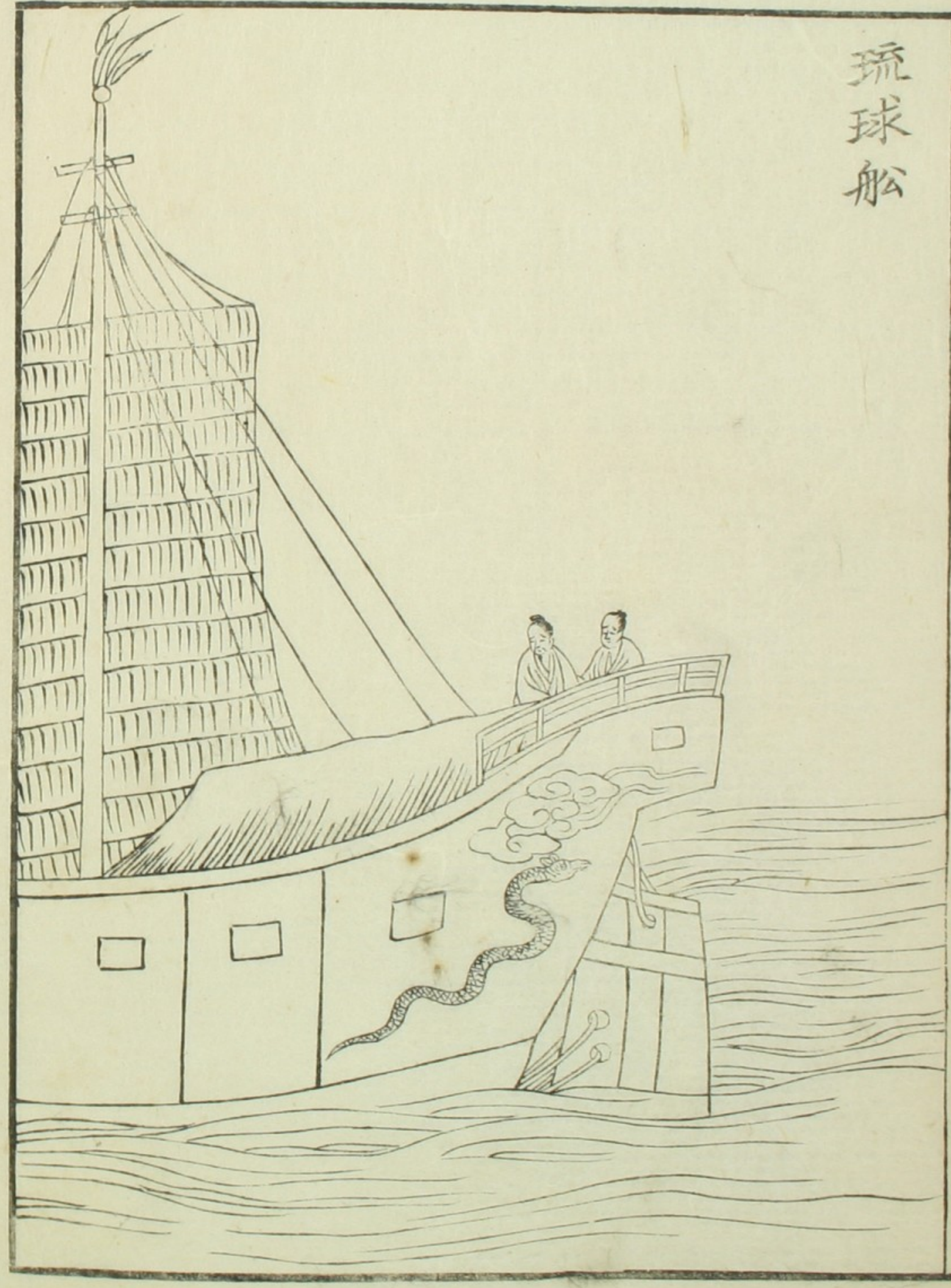


朝鮮船

三十四



琉球船

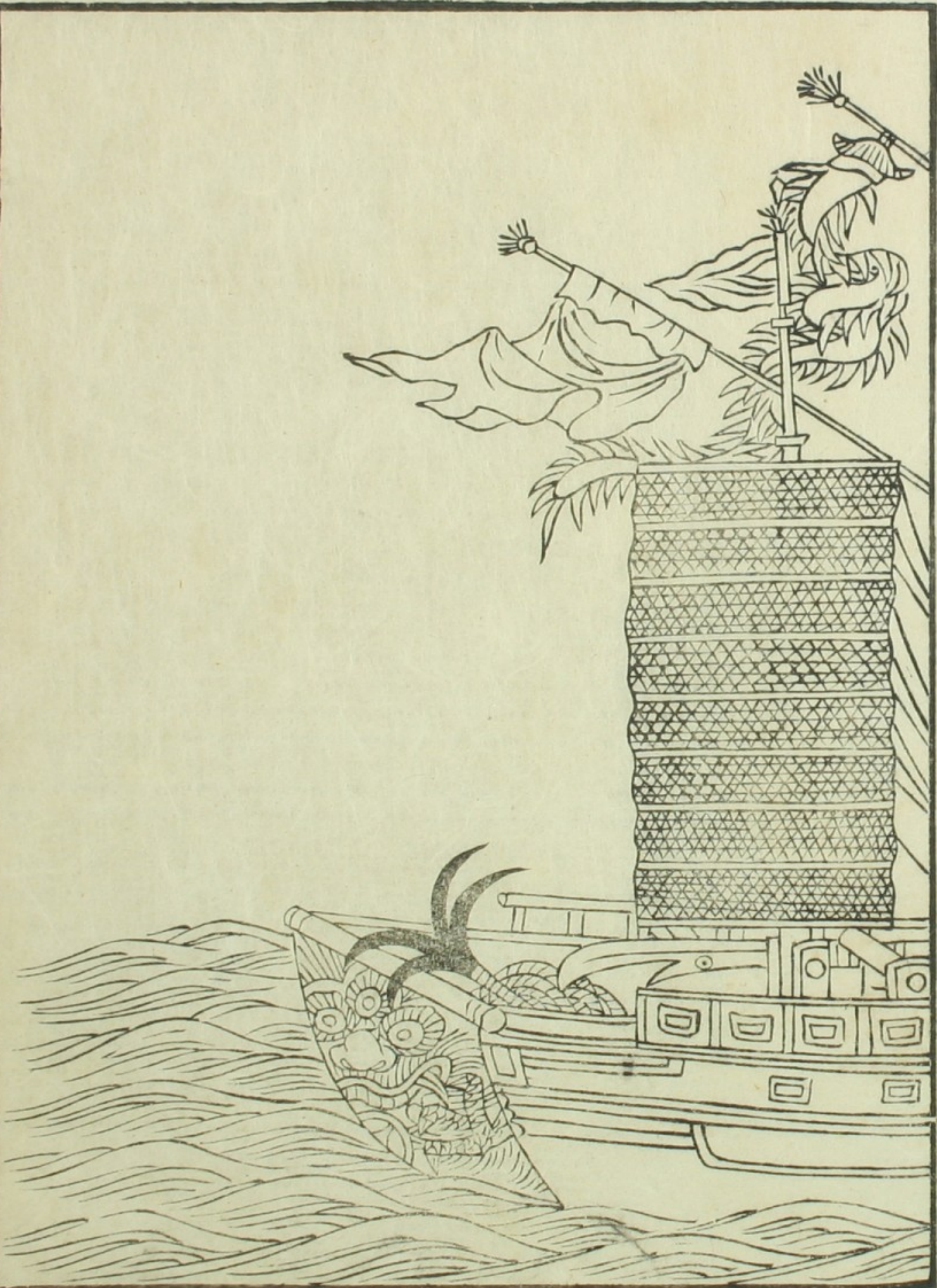


琉球船

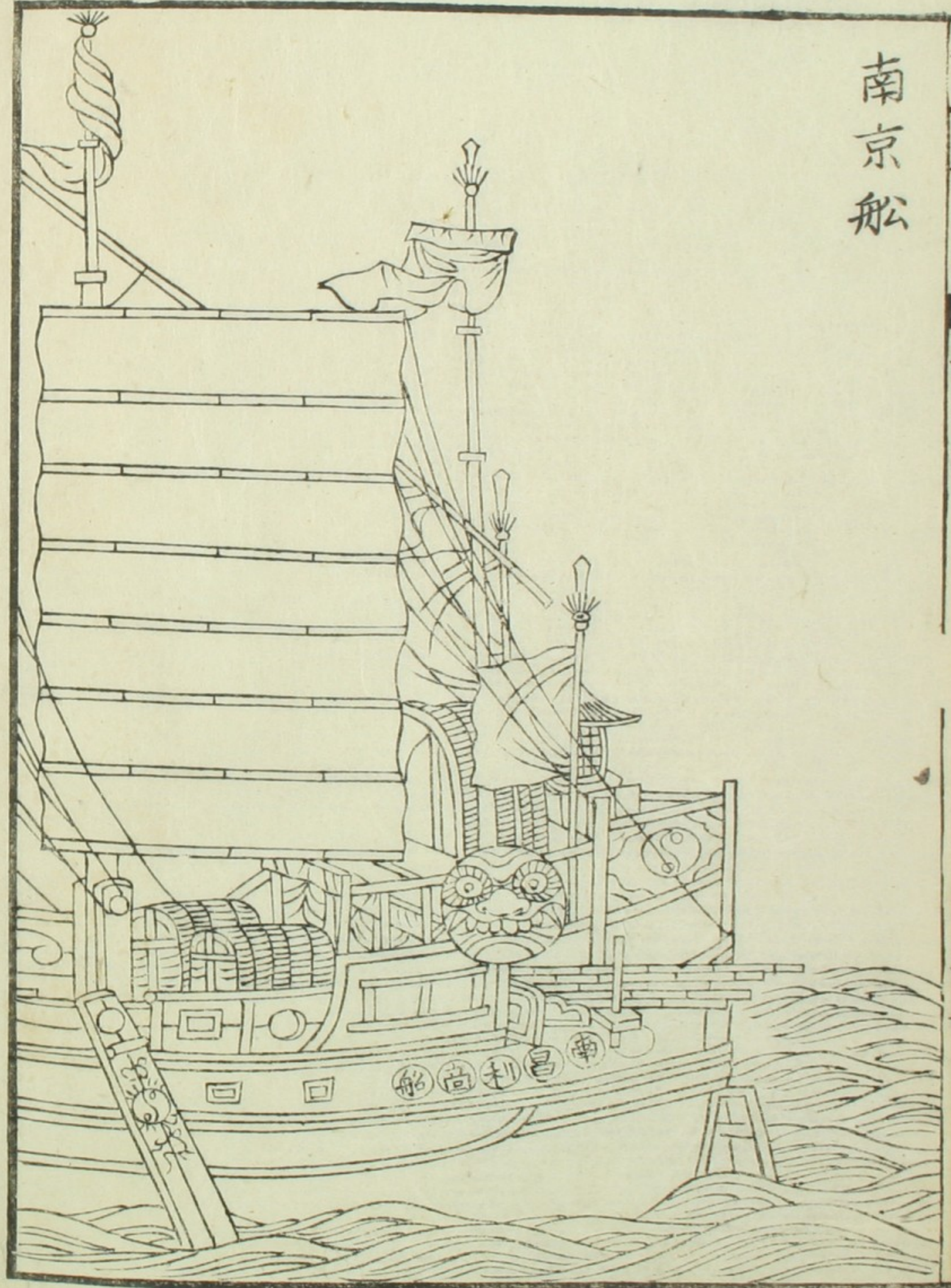
薩州へ貢船毎に往來は本船の時分も薩摩
サツマの國に海ありそれより薩摩船にて振別へあり
二十八名余大船に四半名より枝本に皆櫂を用細ハ
ウヲ更細を用そとへちやんをうけし終のこし一六名あり
せうふ葉葉をばこといり申れるは仕切を海を
サイエン經の人較二十人より六十人まであり舟の摸換
モヤウ船のこしは難ハ画くこちを地を忍く
琵琶虫 同琉球舟也船例の外は四寸角の本堅まおそ
上を板あき色とりり薩州にて琵琶こし
中よりそ古の船に似たりて名舟候といり

南京船

西川氏曰南京船ハ皆小船也日本は十六七艘帆
ナンキンの舟より大なるはなし本帆ハ大方本綿こし
双帆ハ每帆也禮儀ハ船神の懸る板船多しけおは
キシこし令敷と唱し祝さるなり根構さくあ方の船
ハラ後舟より板あり軸とりて上下さる板よりし
サイちる舟り船種不彩堂は船とかり或ハ河舟とも往
サイ來は今も盛なまゝ船ハ河舟とすは意切しあり也
舟板より舟れ造る板底平く也何あり吹風とも意切
サシ船方一日本にあり船同季ともはる船と三百四十里そよ
ヤウ薩州松江州常州崇州淮安縣安縣天府南京省の
チヤウ内より船あり又寧波台州温州瓊州舟山普陀山の所



南京船



浙省の内より日本へ船仕出さるるといふ

福州舟は福州の船を皆小船なり日本の十六七摺帆の船

より大なるものあり漳州廣東よりいつの船も日本の二

十摺帆の大ききものあり座去りて船の大小といふ

ハ皆斤目とありていふことありを大船は二十萬斤小は十萬

斤の者といふより石投を云とありていふことあり今

津入津の船ハ斤目といふことあり福船方れともいふ事

あるハ今老徳入津の高船也本帆は帆ともいふ細代の船

なり船の禮儀と媽祖祭といふあり媽祖を海とまかり船

菩薩なり船の細代屋縁の下に船神の菩薩あり

菩薩のありは彩文の繪あり又此風相送の令字あり

は外泉州夏門漳州安海等ハ福建省より事
船なり

廣東船 武備志は曰廣船 兩旁搭架搖櫓なり 風蓬札制

とていふ 福船といふことあり廣東省の船なり

あり 湘州 蕪湖 南洋 碭石 衛惠州 雷州 瓊州 海南 高

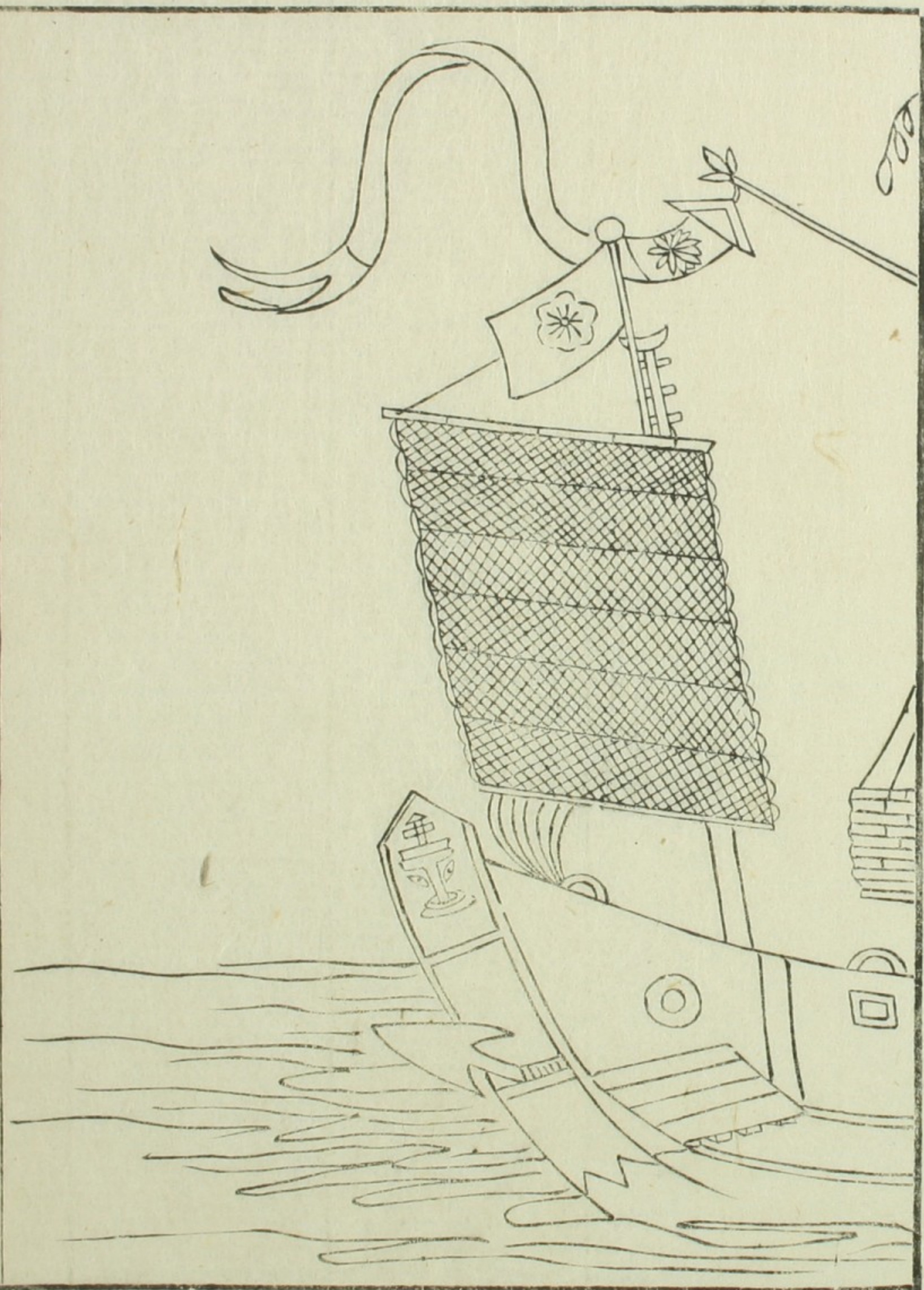
州 昔日本へ船仕出さるる廣東省の船なり

沙船 武備志は曰直隸を倉崇明 嘉定の所より

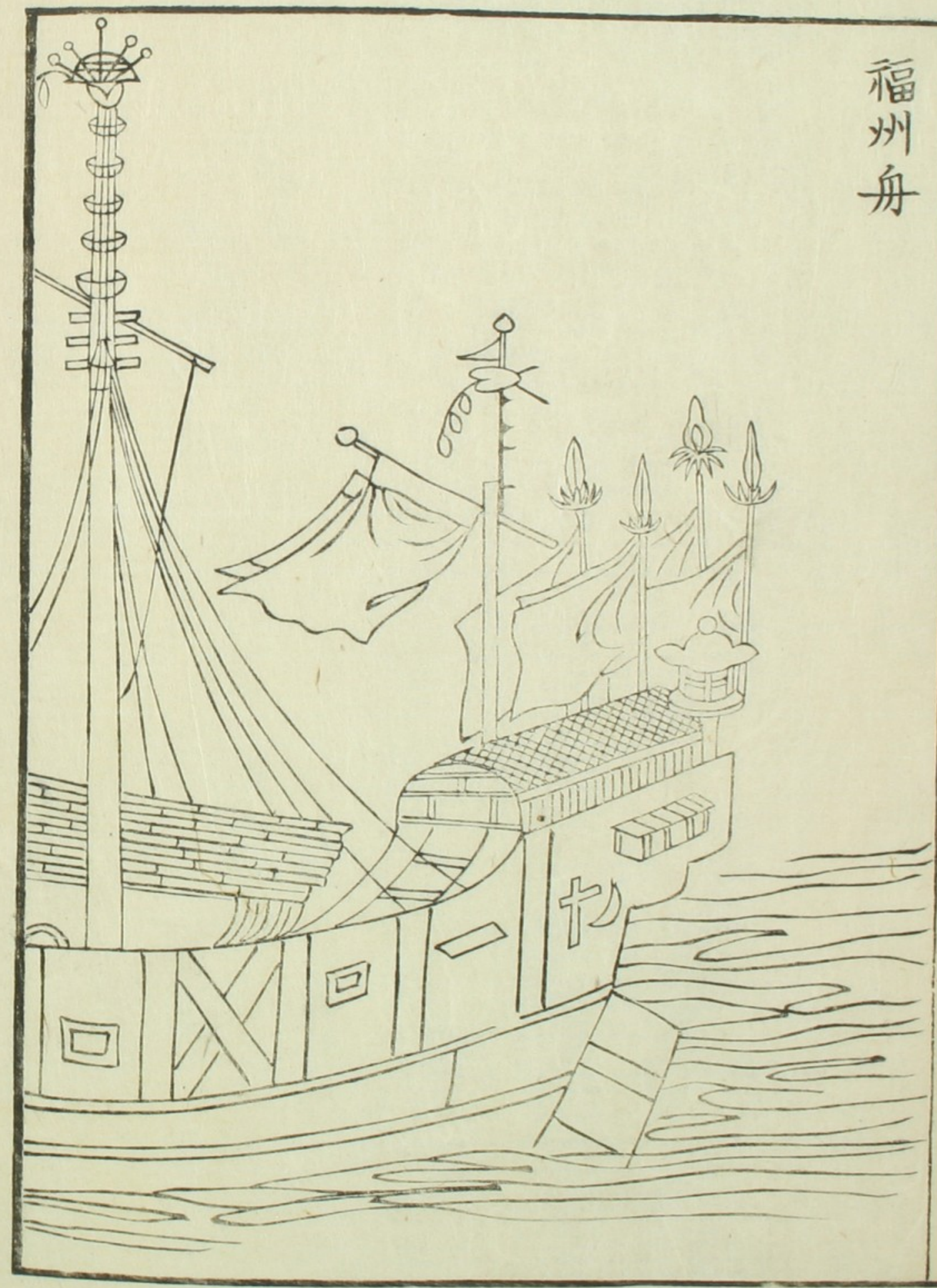
洋子使りは南洋より使りて南洋ハ南洋ハ源

船船底平く深きの天浪を破ることあり南洋ハ

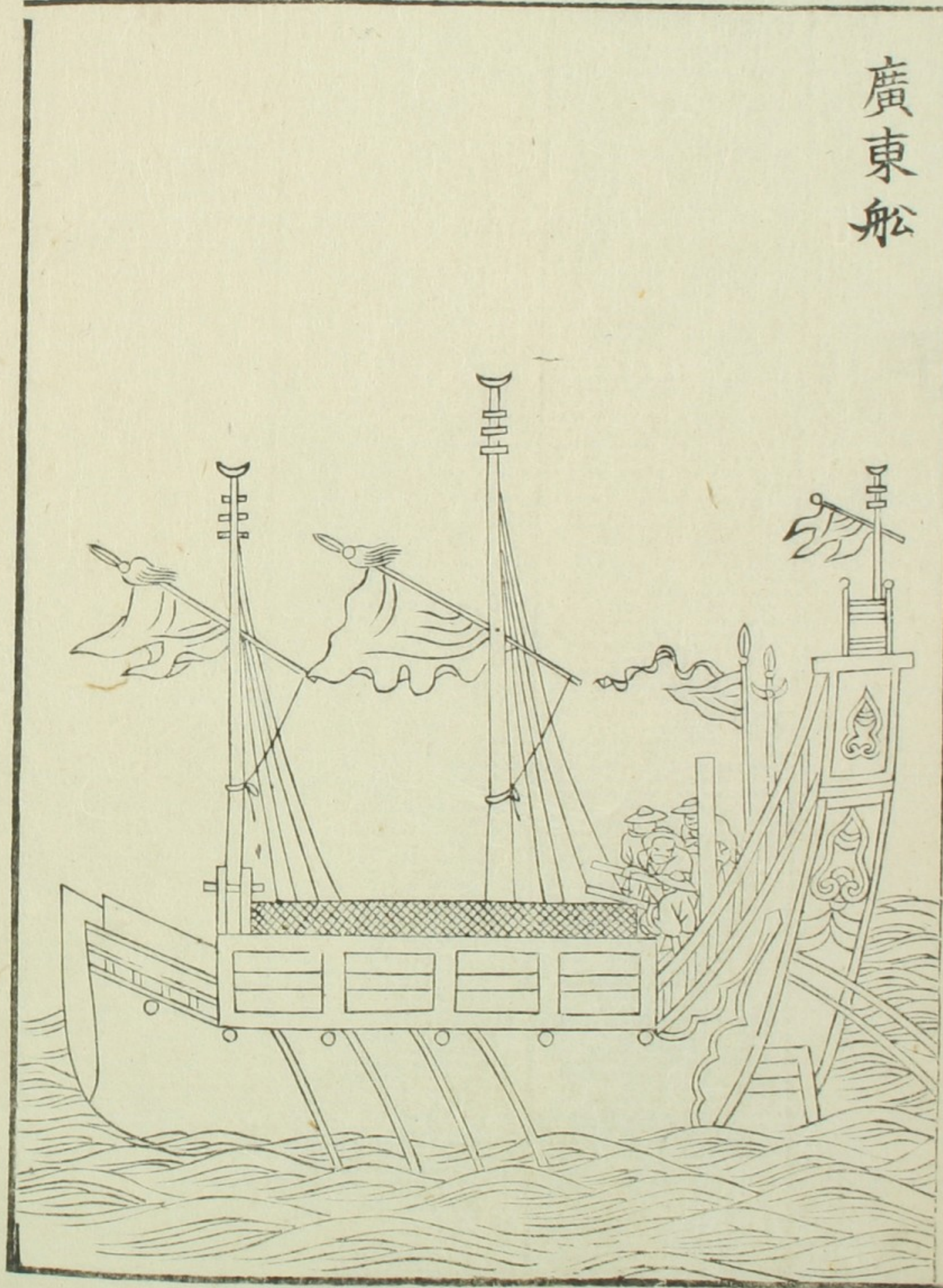
やき浪なり 福船 養山船ハ底平なり 最け浪をおろ



福州舟



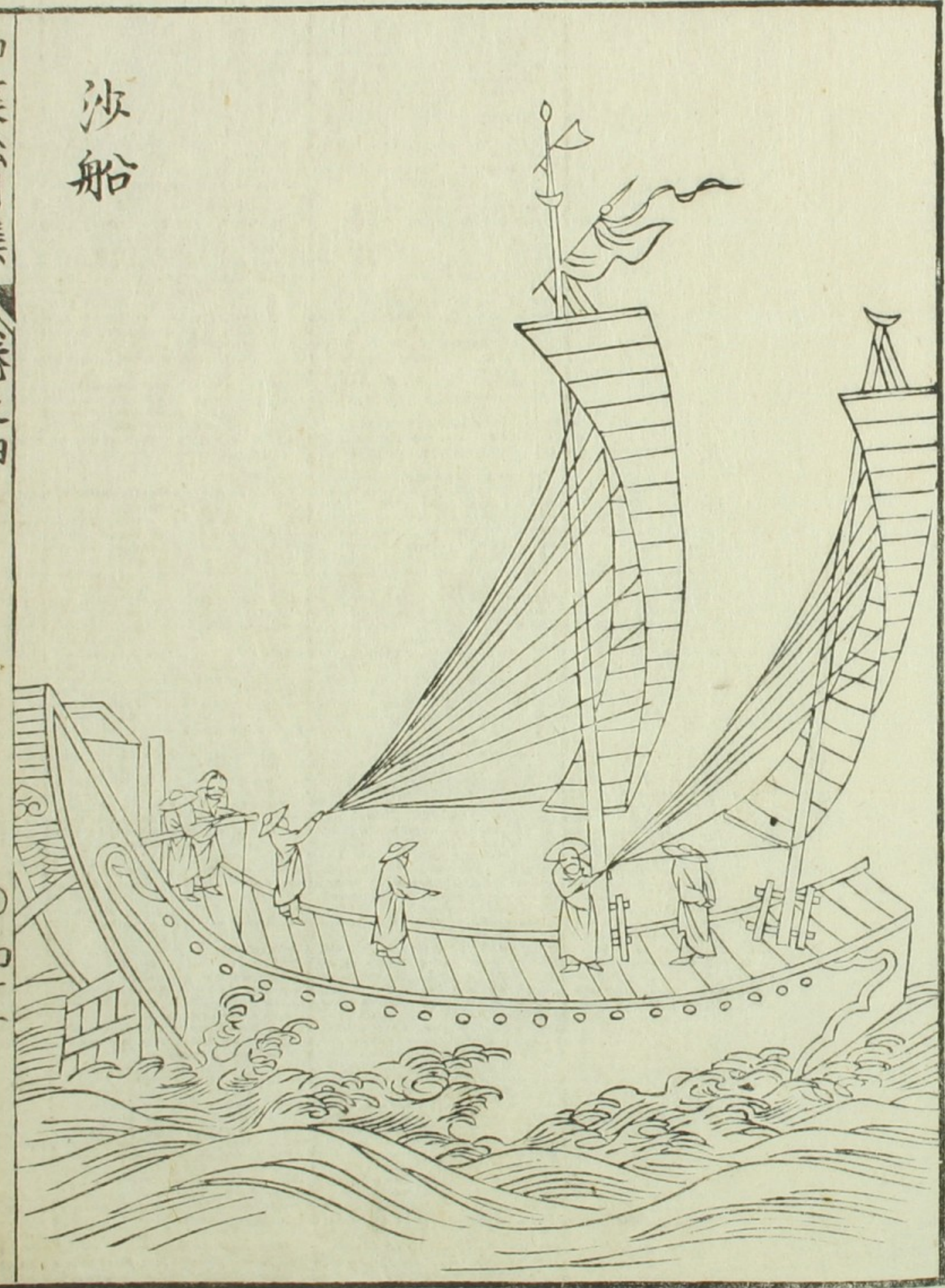
廣東船



舟漢船用集 卷之四

四十一

沙船

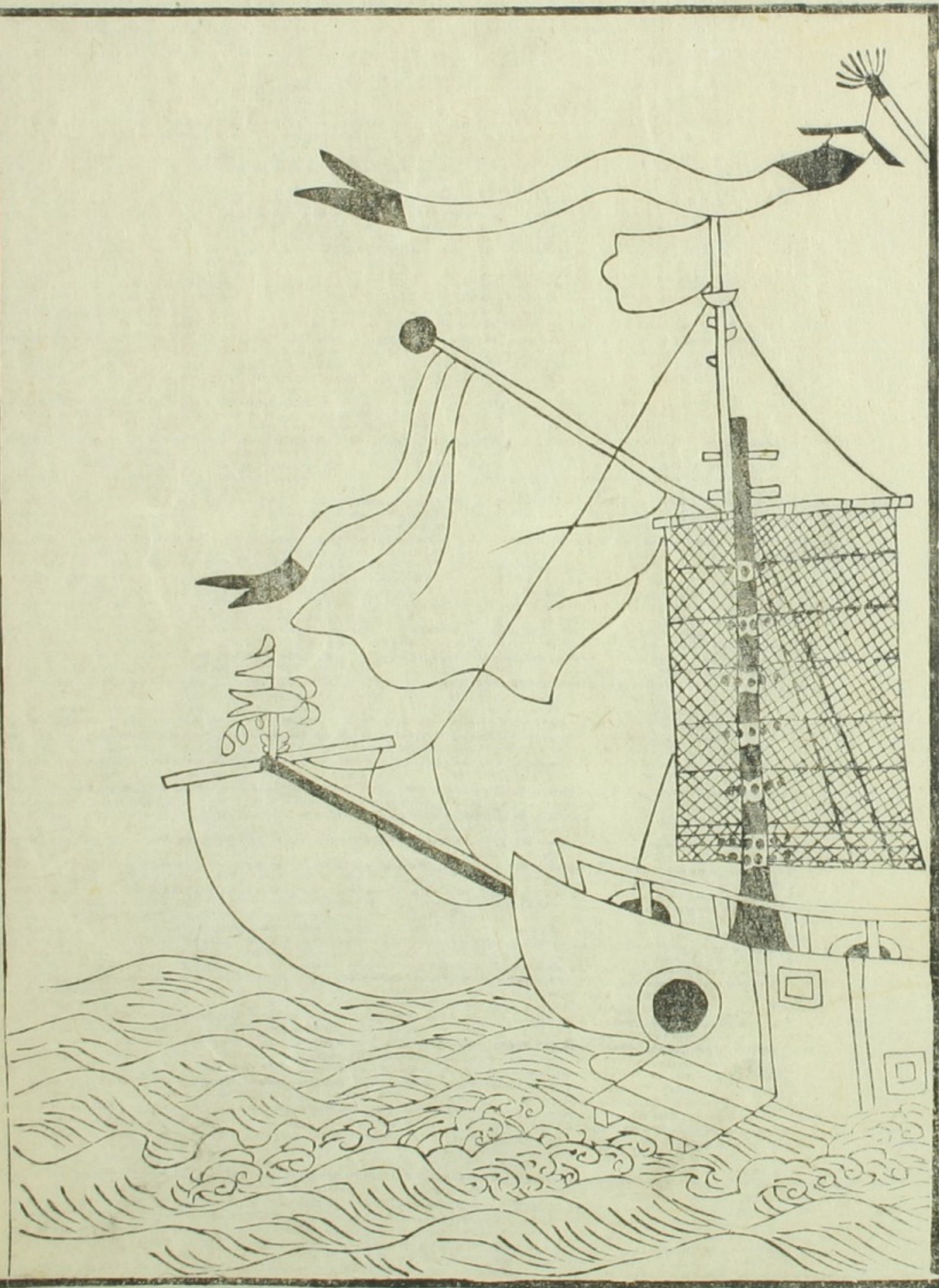


中漢公用集 卷之四

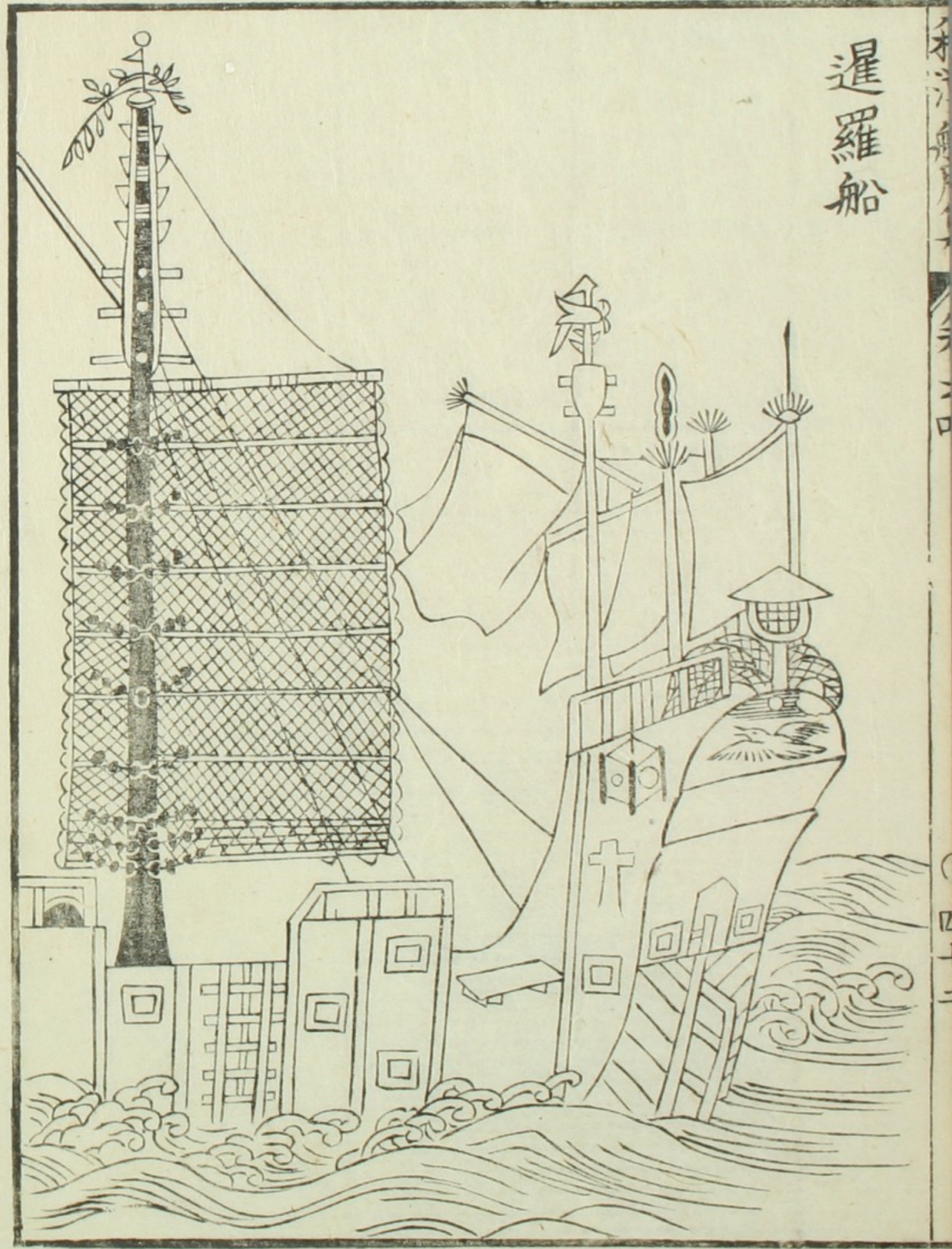
四十一

海船ハ却て是をおそねど北洋ハ鐵船と抱へ一南洋
 八本提とてとて一とて久しうり毛希乘曰雙桅とて
 てたてたてたてハ又桅行の者も多し大帆一日千里
 た副帆副桅も多し損壞は備これ船と造るの良法也
 西川氏曰嶋國也日本寛文の頃國性爺夏川
 大宛船 卅島と攻落一阿蒙院人と追拂て國中を治む
 國性爺より神倉の所より多し久しうり大帆ハ多
 船多しりしとて久しうり
 交趾舟 同上國の熟名を交趾と云日本より來り船ハ
 くのうら廣南とて久しうり多しとて交趾舟
 とりしとて久しうり

太泥舟 同上日本より來り船ハ多し久しうり
 多しとて久しうり
 暹羅舟 同上日本より海と二千百里則南天竺也
 け知より國性の船とて大船一二艘迄毎年來りし船
 既殺者ハ地番侯の唐人也その外ハ暹羅人も來り
 たりたましくモウル人も來りしとて唐人阿蘭
 陀人も往く法文を辨一日本より積來り也
 其船二帆の法具籠籠いつとも唐船とて一船の造
 造法ハ大なる鐵の肘とて所よりおそねとて
 所より大なるはとて久しうり船とて久しうり
 所より福州



暹羅船



漳州の船は多くはろりほ船のと廻りをあく舟去文よ
 わり又ハ白木は油をりるもろり舟をあるハ船は油を
 こく煮く油を白き也昔者稼より天竺は後海せ
 船も皆け船の造りよ何一をミスツイス造り此船と号
 大なる者二百萬斤小ハ荷物百二十万斤也又艦は遣
 ありとて短き檣あり外國の海上遠きは往來する處
 の度船ハ皆遣出ハ檣を高く帆を柳る又高帆と云ふ
 本帆は帆のよ又帆を柳る高帆も遣おも皆本船
 帆也船の長サ十又六回より二十回まゝく大小船
 ありけ國ハ則今の暹羅出の船也
 莫卧爾船 曰とけ國の船ハハ長濠へ來りり近年を

不來け國のハ暹羅船より長濠へ來ることありと
 云へり

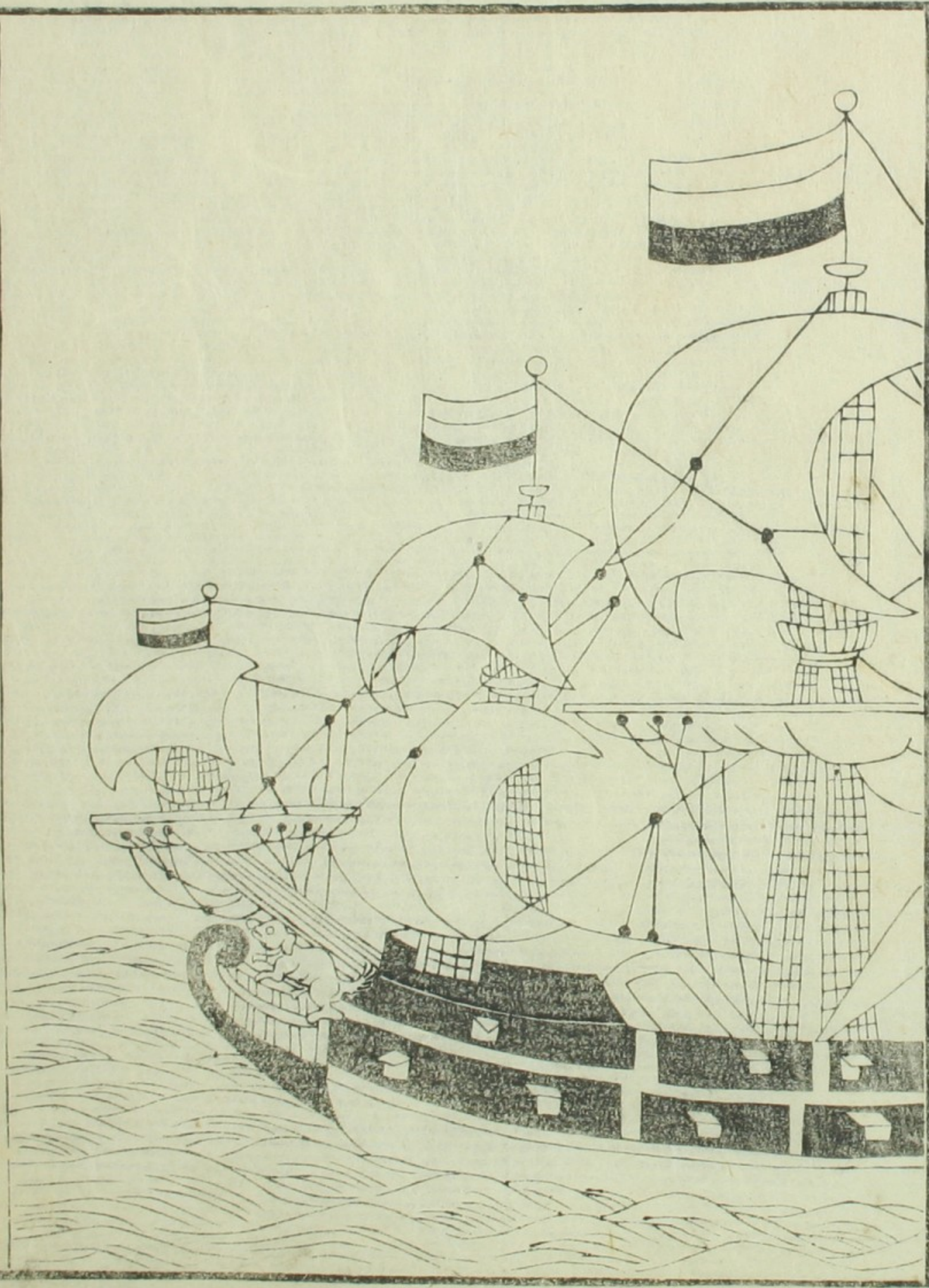
呱哇舟 曰とけ國の船ありとて河業地造の大船一艘
 長濠へ來りりけ船長サ二十五間深サ七間舳の長サ

八間けりしありそ長ハ不來と云り

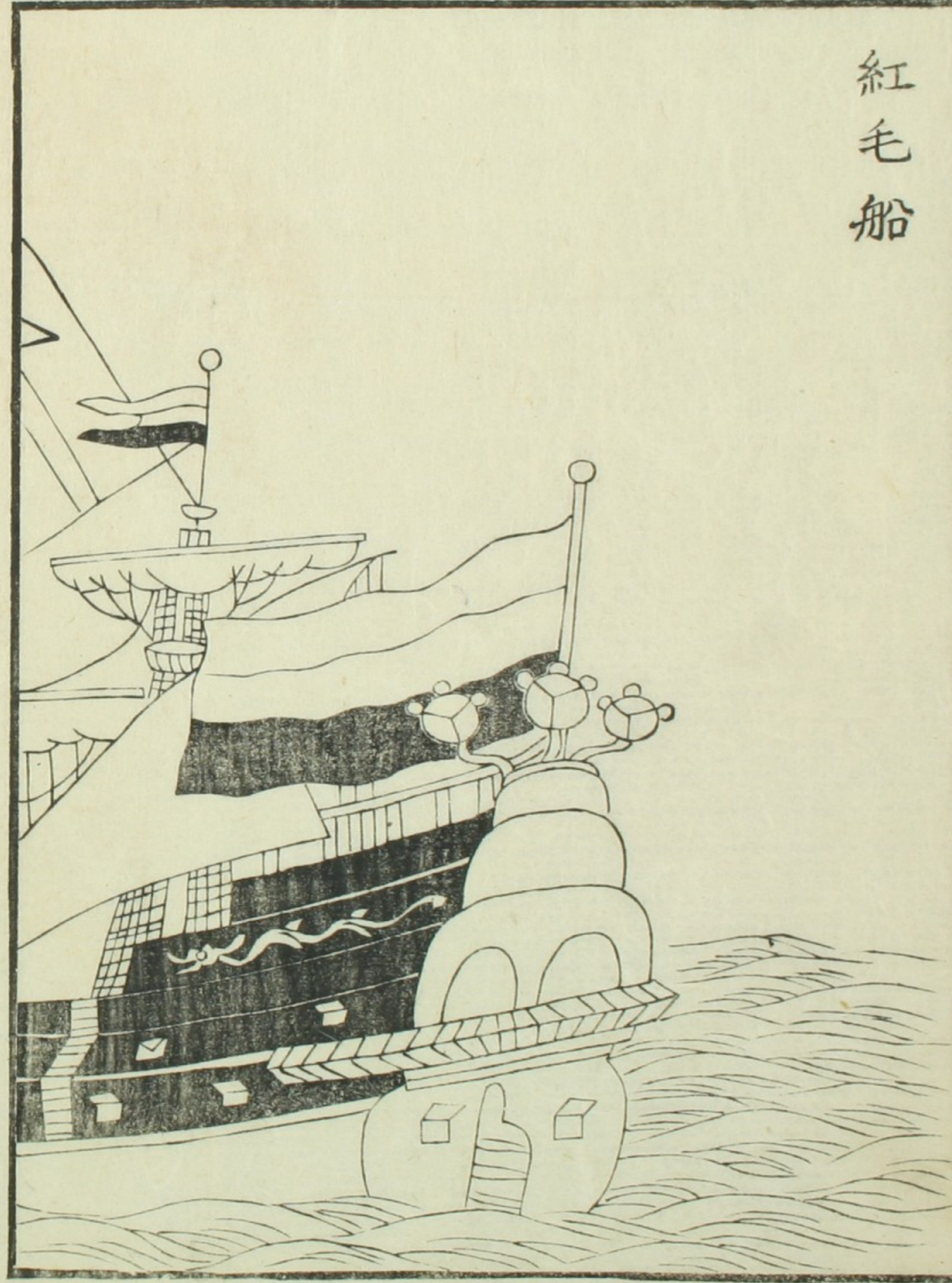
阿蘭陀船 曰と日本より海と一萬二千九百里此國
 よろの細巧くて工夫多く世界の大船ハ船

を造りること第一のよ也天文地理運氣の學を修
 け以て醫道も一流と云り長濠へ入濤の阿蘭陀舟本

國よりすくは來ることあり咬留吧暹羅等の國より
 長濠へ來りり船昔ハ平舟へ



紅毛船



入津せしと寛永十八年より長津へ入津せしむるなり
 たへに毎年入津は八月九りの間船相者賣行りて九月
 廿日迄は船帆すけ時去年末船のカビタニラシガ尚年来
 船のカビタニ不代て海國さる也

船長丈方ハ二十五六間小キハ二十間洋深さ六七間横六
 七間石火矢二十二三四五挺各長八九尺横四ヶ所何れも
 二段宛又接たる如きもの〜の如く船中て横と延へ端々上
 下さる様母〜の如く帆二匹の柳の各本綿帆也
 船ハ肘つやまてけひのやま〜の如く船ハ皆鐵なり長
 三四間もつり細ハ皆若く大サ一尺二三寸廻り舟黒の
 分ハ皆千ヤン葉あり底の赤さひ文の所ハ水入所也

鉄の小釘と透る如くおしりおたり舟一代燃と云こと
 舟ハ船具細者悉くヤシと漆〜のちヤシハ松脂と油を
 煉合〜の如くおしりおたり長三十三間の船横八九間深拾二
 間の船乗ることつり〜の如く今長津〜の如く舟して是
 と賣人約百五十人乗り帆板十八細敷二百六十筋といり
 會典よ打造違式海船賣與夷人
 伊藤氏津法家の海船とよませり海賊の舟
 又ハ船おめけ舟の如く〜

南蠻船

西川氏曰け舟寛永十三年より日本よ來り
 とい傳せせり又亞媽港呂宋ハニエイライスハニヤ
 カステラ
 ホルトカル
 工ケレス以て四ヶ國の舟日本渡海陸林製あり

正徳四年南蠻の舟國より黒舟二艘イワウ島トウへ
送キタに則ナイスハニヤ舟也といふ

呂宋舟ル 日正寛永十七年呂宋國より黒舟一艘長徳
小入津に

エケレス船 日正寛文十三年エケレス船一艘長徳入津に

亞媽港舟ア 日正貞享二年亞媽港舟一艘長徳入津に

南蠻舟エケレス舟も阿蘭陀船よかもよりわー橋
の上北蘇阿蘭陀とハ別なり又貞享四年呂宋の四カ
ツタと云ぬの舟純列熱野浦へ渡る者其船の長サ指
間より家の鼻造りの舟也といふへり

又享保二年南蠻の舟長徳入津に
よまのあまのこもよまのやまのあまのこもといふ
追拂へりめたまへ

游艇ハ 和名教習と曰波之舟レ 舟字ヨイ及唐韻ト曰

艇ハ小船也釋名曰二人所乘也增韻曰船小而
長漢語抄云乎夫祿游艇フ けとふヨ 後漢書

をやふ艇とて艇又曰とまらふものハ方言ハ 又小船
縮謂之艇ト 是より雑字大全小艇通鑑ハ 齊紀ハ 單

艇淮南子ハ 蜀艇ト といふハ一版之舟と云ハ せり
備志ハ 脚船三板船と事又杉板と事ハ 梯舟と

いりハ 脚船三板船と事又杉板と事ハ 梯舟と
いりハ 脚船三板船と事又杉板と事ハ 梯舟と

遊艇



と云へ一通舟と云能舟と云も脚船の心なり今多く
橋船ハシフネと云伍子胥水鏡コシロヨスイセンの法ハダハ橋船ハシフネなり是程足キリク又商アウ
と云へホシタテ本邦傳ホシタテ同テシニの心も同ホシタテ一ハシロヨ無ハシロヨ事ハシロヨ又傳アウる船
と云へり是程ソシケ小船と名付く池チバと云へりハヒロその
用和漢ヤウワカンともいへりハヒロ其舟ハヒロ小ハヒロきハハヒロ又ハヒロ七ハヒロ天ハヒロより大ハヒロハハヒロ又ハヒロ七ハヒロ天ハヒロ
十ハヒロ余ハヒロ又ハヒロ七ハヒロ天ハヒロより大ハヒロハハヒロ又ハヒロ七ハヒロ天ハヒロより大ハヒロハハヒロ又ハヒロ七ハヒロ天ハヒロ
込ヨミと云津湊ツミナトふかヨミり付ハ大船オホフネ父アヒロ足キレ深ツキくツキ底ツキふツキ又ツキ云ツキ
と云舟ユキと云ユキ又ユキ云ユキ又ユキ云ユキ又ユキ云ユキ又ユキ云ユキ又ユキ云ユキ又ユキ云ユキ
又イカリ破イカリ上イカリ下イカリ又イカリ破イカリ上イカリ下イカリ又イカリ破イカリ上イカリ下イカリ
と云舟セイなり清セイ水セイ細セイ云セイ枕セイ更セイ紙セイ又セイ舟セイと云セイ舟セイと云セイ舟セイと云セイ舟セイ
と云舟セイなり清セイ水セイ細セイ云セイ枕セイ更セイ紙セイ又セイ舟セイと云セイ舟セイと云セイ舟セイと云セイ舟セイ

阿の道ちろと又くしり

玉葉

徳少卿

多より阿の風や吹と松橋ふよせて久きあまはれり

和漢船用集卷第四終

